長野市の埋蔵文化財第113集

小島・柳原遺跡群

水内坐一元神社遺跡（4）

―㈱山二小島団地二期工事　地点―
―ガーデンパーク小島宅地造成　地点―

2006年3月

長野市教育委員会

序

遺跡や遺物などの土地に埋蔵されている文化財は、郷土の成り立ちや文化を正しく理解する上で欠くことのできない貴重な遺産です。まさに「土地に刻まれた歴史」といわれる所以がここにあります。現在長野市内では700箇所以上の遺跡が周知されていますが、こうした埋蔵文化財は、そのままの状態で地中に保存し、後世に伝えていくことが理想的な在り方です。しかし、現代社会においては、開発事業の影で破壊される運命をたどる埋蔵文化財が生じてしまうことも致し方ない現実となっております。そこで次善の策として発掘調査を行い、記録として後世に伝えていく手段がとられています。

ここに長野市の埋蔵文化財113集として刊行いたします本書は、宅地造成工事２件に伴って市内柳原地区において平成17年度に実施いたしました埋蔵文化財発掘調査の報告書であります。2件の宅地造成工事は互いに隣接してほぼ同時期に着工されたものであったため、発掘調査も並行して連続的に実施することとなりました。調査の結果、予想を上回る密度で貴重な遺構・遺物が出土することとなり、その成果を広く公開するとともに永く保存をはかることを目的とし本書に一連の記録を所収し、公刊するに至ったものであります。この度の成果は、連綿と綴られてきた人々の歴史のほんの一部にすぎませんが、地域史解明の一助として市民をはじめとする多くの皆様にお役立ていただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、事業主体である株式会社山二ならびに株式会社大建の関係各位におかれましては、埋蔵文化財保護に対しての深いご理解にもとづき、発掘調査の実施に多大なご尽力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

平成18年３月

長野市教育委員会
教育長　立岩　睦秀

例　言

1　本書は、宅地造成等開発事業に伴って埋蔵文化財の記録保存を目的として実施した発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、事業主体と長野市長との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結して実施し、調査業務は長野市教育委員会（埋蔵文化財センター担当）が履行した。事業主体「起因事業」事業概要は次のとおりである。

株式会社　山二　「㈱山二小島団地二期工事」　面積約6,332㎡・宅地24区画造成

株式会社　大建　「ガーデンパーク小島宅地造成」　面積約1,180㎡・宅地６区画造成

3　発掘調査位置と範囲については、事業別に起因事業名を冠して地点と呼ぶこととする。各地点の地籍、調査面積及び調査期間は次のとおりである。

㈱山二小島団地二期工事地点：長野市大字小島字岡田堰南482-1他、760㎡、2005.4.11～2005.6.20

ガーデンパーク小島宅地造成地点：長野市大字小島字岡田堰南481-1他、280㎡、2005.4.４～2005.4.20

4　本書では、調査によって把握確認された遺構・遺物に関する基本的な情報を客観的に提示することに主眼をおいた。資料提示の要領は下記のとおりとした。

・　遺構・遺物の概要については、第Ⅲ章第１節「調査概要」において、地点及び地点をさらに細分した地区毎に記述し、遺構全体図・遺構分布図及び写真を掲載した。また、遺構・遺物の総体に関する一覧表を作成した。なお、遺構の名称として、竪穴住居：ＳＢ、掘立柱建物：ＳＴ、方形周溝墓：ＳＺ、溝：ＳＤ、土坑：ＳＫ、性格不明遺構：ＳＸという略号を用いている。

・　遺構の詳細については、第Ⅲ章第２・３節において個別に記述し、実測図及び写真を掲載した。

・　遺物の詳細については、第Ⅲ章第４節において個別に記述し、実測図及び写真を掲載した。また、掲載遺物に関しては観察表を作成した。

・　遺構分布図及び遺構実測図は平面直角座標系第Ⅷ系（日本測地系2000）の座標値と日本水準原点の標高に基づき、縮尺は個別に明記した。また、図中のスクリーントーンによる指示は次のとおりである。

焼土・火床　 　炭化物　 　硬化面　

・　遺物実測図における縮尺は、土器：1/4　拓本：1/3　石器：1/2・1/3　土製品：1/2　玉類：1/1　に統一した。なお、土器図中のスクリーントーンによる指示は次のとおりである。

赤色塗彩　 　黒色処理　

5　本書の編集執筆の分担は次のとおりである。

第Ⅰ・Ⅱ章：青木和明、　第Ⅲ章第１～３節・第Ⅳ章：長瀬出、　第Ⅲ章第４節：加藤拓也

6　発掘調査時の遺構写真撮影は各担当者が行った。遺物写真撮影は森田利枝と加藤拓也が行い、遺物写真図版の作成は森田が担当した。

7　出土遺物及び調査の諸記録は、長野市教育委員会において保管している（担当機関：長野市埋蔵文化財センター）。なお、遺物注記や諸記録標題としての略記号は次のとおりである。

㈱山二小島団地二期工事地点：ＫＹＭＯ－Ｙ

ガーデンパーク小島宅地造成地点：ＫＹＭＯ－Ｄ

目　次

序文
例言・目次

第Ⅰ章　調査経過
第１節　調査に至る経過……1
第２節　発掘調査の経過……2
第３節　調査体制……3

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境
第１節　地理的環境……4
第２節　遺跡周辺の考古学的環境……6

第Ⅲ章　遺構と遺物
第１節　調査概要……8
第２節　ガーデンパーク小鳥宅地造成地点の遺構
1　竪穴住居跡……29
2　方形周溝墓……33
3　溝跡……33
4　土坑・その他……35
第３節　㈱山二小鳥団地二期工事地点の遺構
1　竪穴住居跡……36
2　掘立柱建物跡……58
3　方形周溝墓……59
4　溝跡……59
5　土坑・その他……63
第４節　遺物
1　土器……76
2　石器……118
3　玉類……128
4　土製品……130

第Ⅳ章　結語……133

挿 図 目 次

図1　本内坐一元神社遺跡の位置……1
図2　調査地周辺の地形……4
図3　周辺の遺跡……7
図4　調査地とその周辺……8
図5　調査区の位置と遺構分布……9
図6　基本土層柱状図……10
図7　調査区（ガーデンパーク小島地点）全体図……10
図8　調査区（山二小島団地地点）全体図……11
図9　ガーデンパーク小島地点（南半部）遺構分布図……13
図10　ガーデンパーク小島地点（北半部）遺構分布図……14
図11　山二小島団地地点A区（西端部）遺構分布図……15
図12　山二小島団地地点A区（中央部）遺構分布図……16
図13　山二小島団地地点A区（東端部）・B区（南端部）遺構分布図……17
図14　山二小島団地地点B区（中央部）遺構分布図……18
図15　山二小島団地地点B区（北半部）遺構分布図……19
図16　山二小島団地地点C区遺構分布図……20
図17　1号・2号住居跡……29
図18　3号住居跡……30
図19　4号住居跡……30
図20　5号・6号・7号・8号住居跡……32
図21　1号方形周溝墓……34
図22　10号土坑……35
図23　17号土坑……35
図24　24号土坑……35
図25　1号住居跡……36
図26　2号住居跡……36
図27　3号住居跡……36
図28　4号・5号・13号住居跡……37
図29　6号住居跡……37
図30　7号・8号住居跡……38
図31　7号住居跡出土状況図……39
図32　9号住居跡……40
図33　10号住居跡……41
図34　11号・12号住居跡……42
図35　14a・14b号住居跡……43
図36　15号住居跡……44
図37　16号・17号・18号住居跡……44
図38　16号住居跡出土状況図……45
図39　19号・20号住居跡……46
図40　21号住居跡……47
図41　22号・24号・26号住居跡……48
図42　23号・25号・36号住居跡……49
図43　27号・29号住居跡……51
図44　28号住居跡……52
図45　30号・31号住居跡……53
図46　32号住居跡……53
図47　33号・34号住居跡……54
図48　35号住居跡……55
図49　37号・38号住居跡……56
図50　39号住居跡……57
図51　40号住居跡……57
図52　1号掘立柱建物跡……58
図53　2号掘立柱建物跡……59
図54　1号方形周溝墓……60
図55　1号・3号・4号溝……61
図56　10号・11号・18号土坑……63
図57　17号・28号・34号土坑……64
図58　山二小島団地地点検出の土坑……66
図59　1号性格不明遺構出土状況図……68
図60　ガーデンパーク小島地点出土土器実測図①［SB1～4］……78
図61　ガーデンパーク小島地点出土土器実測図②［SB5・7・8］……79
図62　ガーデンパーク小島地点出土土器実測図③［SB6］……80
図63　ガーデンパーク小島地点出土土器実測図④［SZ1・SD3・SK10・24・検出］・拓影図……81
図64　山二小島団地地点出土土器実測図①［SB2・4・6・8・9］……82
図65　山二小島団地地点出土土器実測図②［SB7］……83

図66　山二小島団地地点出土土器実測図③
[SB7]……84
図67　山二小島団地地点出土土器実測図④
[SB10・12・14]……85
図68　山二小島団地地点出土土器実測図⑤
[SB14a・14b・15・16]……86
図69　山二小島団地地点出土土器実測図⑥
[SB17・18・20～22・26]……87
図70　山二小島団地地点出土土器実測図⑦
[SB23・27・28]……88
図71　山二小島団地地点出土土器実測図⑧
[SB29・30・35]……89
図72　山二小島団地地点出土土器実測図⑨
[SB34・37]……90
図73　山二小島団地地点出土土器実測図⑩
[SB38・40]……91
図74　山二小島団地地点出土土器実測図⑪
[SZ1、SD1～3・5・16・28・30]……92
図75　山二小島団地地点出土土器実測図⑫
[SK3・5・10～12・14・15・17]……93
図76　山二小島団地地点出土土器実測図⑬
[SK16]……94
図77　山二小島団地地点出土土器実測図⑭
[SK18・28・34]……95
図78　山二小島団地地点出土土器実測図⑮
[SK57・70・71・75・87]……96
図79　山二小島団地地点出土土器実測図⑯
[SK82・94・107・111・116]……97
図80　山二小島団地地点出土土器実測図⑰
[SX1]……98
図81　山二小島団地地点出土土器実測図⑱
[SX1]……99
図82　山二小島団地地点出土土器実測図⑲
[検出]・拓影図……100
図83　出土石器実測図①[石鏃・石斧他]……120
図84　出土石器実測図②[石斧・石錘・軽石他]……121
図85　出土石器実測図③[敲石・砥石]……122
図86　出土石器実測図④[砥石]……123
図87　出土玉類実測図……128
図88　出土土製品実測図……131

表　目　次

表1　ガーデンパーク小島地点遺構一覧表①……21
表2　ガーデンパーク小島地点遺構一覧表②……22
表3　山二小島団地地点遺構一覧表①……23
表4　山二小島団地地点遺構一覧表②……24
表5　山二小島団地地点遺構一覧表③……25
表6　山二小島団地地点遺構一覧表④……26
表7　山二小島団地地点遺構一覧表⑤……27
表8　山二小島団地地点遺構一覧表⑥……28
表9　遺構別遺物一覧表①……69
表10　遺構別遺物一覧表②……70
表11　遺構別遺物一覧表③……71
表12　遺構別遺物一覧表④……72
表13　遺構別遺物一覧表⑤……73
表14　遺構別遺物一覧表⑥……74
表15　遺構別遺物一覧表⑦……75
表16　出土土器観察表①……111
表17　出土土器観察表②……112
表18　出土土器観察表③……113
表19　出土土器観察表④……114
表20　出土土器観察表⑤……115
表21　出土土器観察表⑥……116
表22　出土土器観察表⑦……117
表23　出土石器一覧表……119
表24　出土土製品観察表……130

第Ⅰ章　調査経過

第１節　調査に至る経過

長野市内で計画される宅地造成等の開発行為に関しては、都市計画法第32条の規定に基づく市との事前協議に際し、宅地開発指導要綱に準拠して埋蔵文化財保護に係る必要事項を行政指導し、工事に伴って埋蔵文化財が破壊される恐れのある場合には、発掘調査を実施して記録保存を図ることとしている。

当該発掘調査は、平成16年度に株式会社大建ならびに株式会社山二から開発行為に関する協議申出のあった市内柳原地区における宅地造成計画を起因事業とするものであり、発掘調査の実施に至るまでの協議等の経過は次のとおりである。

［ガーデンパーク小鳥宅地造成地点］

平成16年12月28日　開発行為に関する事前協議申請。試掘確認調査実施について協議。

平成17年 1月25日　市教委埋蔵文化財センターによる試掘確認調査の実施により遺構・遺物の包蔵を確認。文化財保護法57条の2の規定に基づく土木工事等のための発掘の届出。以降、発掘調査の実施に関して調整協議。

4月4日　㈱大建と長野市との間で、平成16年度の埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結。発掘調査着手。

［㈱山二小鳥団地二期工事地点］

平成17年2月22日　㈱山二から市教委に事業計画に関わる埋蔵文化財保護について照会。要保護措置を回答。

2月28日　文化財保護法57条の2の規定に基づく土木工事等のための発掘の届出。

3月10日　開発行為に関する事前協議申請。以降、記録保存を目的とした発掘調査の実施について協議調整。

4月11日　㈱山二と長野市との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約締結。発掘調査着手。

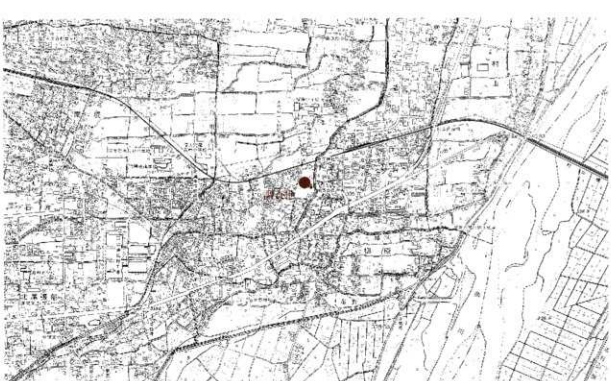


図1　水内坐一元神社遺跡の位置（1：20,000）

第２節　発掘調査の経過

各地点における発掘作業は、委託契約締結後に直ちに着手した。作業の経過は次のとおりである。

［ガーデンパーク小島宅地造成地点］

4月 4日　重機による表土除去開始。

4月 6日　作業員による遺構検出作業に着手。以降、路線南側から順次遺構掘り下げを実施。

4月11日　写真撮影及び第1回測量（委託）。

4月18日　作業員による遺構掘り下げをほぼ終了。

4月19日　写真撮影及び第2回測量（委託）。

4月20日　現地における全ての作業を完了。

［㈱山二小島団地二期工事地点］

4月12日　A区について重機による表土除去開始。

4月18日　作業員による遺構検出作業に着手。以降、路線西側から順次遺構掘り下げを実施。

4月27日　写真撮影及び第1回測量（委託）。

5月12日　写真撮影及び第2回測量（委託）。

5月17日　空中写真撮影及び第3回測量（委託）。B区について重機による表土除去開始。路線南側から順次遺構掘り下げを実施。

5月20日　信大附属長野小学校体験学習受け入れ。

5月24日　写真撮影及び第4回測量（委託）。

5月31日　柳原公民館見学会開催。C区について重機による表土除去開始。以降、路線東側から順次遺構掘り下げを実施。

6月 1日　写真撮影及び第5回測量（委託）。

6月 9日　写真撮影及び第6回測量（委託）。

6月17日　作業員による遺構掘り下げを終了。写真撮影及び第7回測量（委託）。機器材を撤収。

6月20日　現地における全ての作業を完了。

現地作業終了後の整理作業については、埋蔵文化財センターにおいて7月以降に順次作業を進め、2月まで報告書編集作業を継続するなかで発掘調査報告書刊行に至ったものである。

表土除去

調査風景

信大付属長野小学校体験学習

柳原公民館見学会

第３節　調査体制

発掘調査委託業務［委託者］　株式会社　山二　代表取締役社長　宮野尾宏（須坂市大字井上1700番地17）
株式会社　大建　代表取締役　増田悌造（長野市東鶴賀町59－1）

発掘調査委託業務［受託者］　長野市　長野市長　鷲澤正一（長野市大字鶴賀緑町1613番地）

調査主体者　長野市教育委員会教育長　立岩睦秀
総括管理者　文化財課長　北村真一郎
統括責任者　局主幹兼埋蔵文化財センター所長　矢口忠良
庶務担当　係長　宮沢和雄
職員　吉村久江　事務員　塚田容子
調査担当　係長　青木和明（調査員）
主査　風間栄一　小林和子
主事　宿野隆史
専門員　清水竜太　遠藤恵実子　長瀬　出（調査員）　山野井智子
石丸敦史　小出泰弘　森田利枝　宮沢浩司　山岸千晃
加藤拓也（調査員）
調　査　員　清水　武
調査補助員　中嶋昭二郎
発掘作業員　新井さち子　奥村直美　小泉盛司　小林紀代美　鈴木友江　竹之内一夫　田中茂美
原澤あけみ　藤澤孝徳　松浦サトミ　山崎照代　山田哲也　若林正子　佐藤直也

整理調査員　青木善子　池田寛子　多羅沢美恵子　鳥羽徳子　中殿章子　武藤信子　矢口栄子
整理作業員　倉島敬子　小泉ひろ美　清水さゆり　関崎文子　富田景子　西尾千枝　三好明子　村松正子

遺構測量委託　株式会社写真測図研究所

長野市教育委員会埋蔵文化財センター担当による発掘調査の遂行においては、多くの方々のご支援をいただいている。発掘調査事業の委託者である株式会社山二ならびに株式会社大建関係各位におかれては、埋蔵文化財保護に対する深いご理解に基づき、円滑に調査事業を実施できるようご配慮を賜った。深甚なる謝意を表するものである。また、発掘調査期間中には柳原地区の関係各位より絶大なるご支援ご協力を賜った。厚く御礼申しあげたい。

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

本遺跡が所在する長野市の東部においては、千曲川が形成した自然堤防と後背湿地を明瞭に観察することができる。「長沼」地名の由来となった南北に伸びる広大な後背湿地とその東縁を画する自然堤防は、県内屈指の規模であると言われ、低湿な後背湿地は水田域として、微高地として発達した自然堤防は畑地・集落域として、対照的な景観を見せている。この長沼地区に展開する自然堤防と後背湿地は、南に隣接した柳原地区にまで達し、本遺跡の立地もこの一連の地理的環境のなかで理解されることとなるが、後背湿地から自然堤防へ移行する位置にあると思われる本遺跡の周辺ではその境界が不明瞭であり、地形の変換を目視して区分することは容易ではない。これは、裾花川の旧流路と目される北八幡川の端末が本遺跡の東側を流下している点からも明らかなとおり、千曲川の支流である裾花川の影響が及んでいることに起因すると推定され、注意を要するところとなる。

ここで、昭和31年測量の地形図（図２）を観察し、遺跡周辺に見られる現況の微地形を検討してみよう。等高線を観察すると、標高336ｍ付近に位置する水内一元神社付近が北側の長沼後背湿地へ向かって岬状に張り出し、微高地が形成されているらしいことが確認できる。一方、土地利用状況を見ると、同神社から南側の北八幡川筋へ向かっては水田域が自然堤防を浸食するかのように嵌入していることが確認できる。また、この水田域には、宅地や畑地が島状に取り残されるように点在している様子も観察される。この３点から類推して、当初は集落域

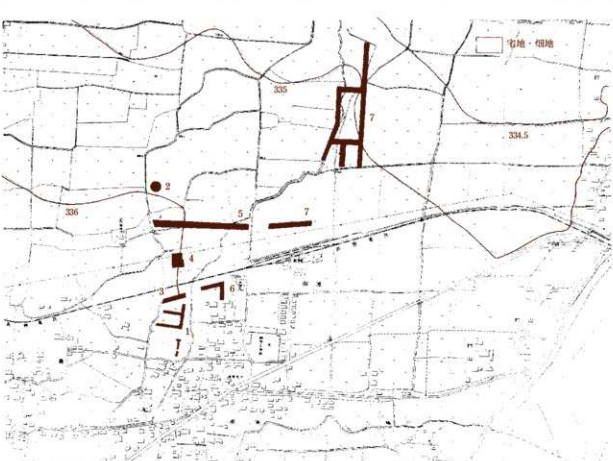
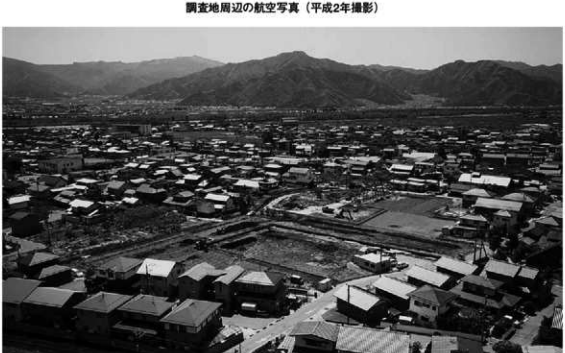


図2　調査地周辺の地形（昭和31年測図、一部加筆）（1：10,000）

としての微高地に属しながらもある時期に水田化が進行し、地形図に見られる景観が形成されて今日に至ったと理解することが可能となる。いずれにせよ遺跡周辺の現況には特異な景観が形成されているといえよう。なお、次節で紹介するとおり、本遺跡では河川跡や環濠集落などの自然と人為の営力が交錯した埋没地形が確認されている。それらは千曲川氾濫原にありながら裾花川の端末流の影響を受けるという地理的環境条件に立脚するものであり、現代の入り組んだ景観形成とも無縁ではなかったと想定しておきたい。

調査地周辺の航空写真（平成2年撮影）



調査地遠景（北西から）

第２節　遺跡周辺の考古学的環境

柳原地区から朝陽地区の一部にまたがる千曲川の自然堤防上には、各時代の集落遺跡が集中しており、個別遺跡の集合体を示す範囲として「小島・柳原遺跡群」と呼ぶこととしている。「水内坐一元神社遺跡」は、その中で初めて発掘調査が実施された遺跡であり、小島集落の北東に位置する神社をその遺跡名に冠している。次に、本遺跡を始めとする小島・柳原遺跡群での発掘調査実施の状況を紹介する。

水内坐一元神社遺跡

1　㈱山二小島団地二期工事地点：大字小島字岡田堰南、Ｈ17年度調査、本書

1　ガーデンパーク小島宅地造成地点：大字小島字岡田堰南、Ｈ17年度調査、本書
弥生時代中～後期竪穴住居・古墳時代前期周溝墓・古墳時代中～後期竪穴住居・奈良時代溝

2　柳原小学校建設地点：大字小島字土井堰南、Ｓ54年度調査、長野市教委1980『三輪遺跡　付』
弥生時代中期竪穴住居４軒・古墳時代後期竪穴住居５軒などを確認

3　㈱山二小島団地造成地点：大字小島字岡田堰南、Ｈ8年度調査、長野市教委1997『水内坐一元神社遺跡Ⅱ』
弥生時代後期竪穴住居8・古墳時代前期竪穴住居3

4　柳原体育館建設地点：大字小島字三ツ家沖、Ｈ8年度調査、長野市教委1998『水内坐一元神社遺跡Ⅲ』
弥生時代後期竪穴住居4・環濠（幅員4ｍを超える2本の溝が並列して発見され、木製品を含む多量の遺物が出土。弥生時代終末前後の環濠の一部と考えられ、大規模な環濠集落存在の可能性が示唆される。）

5　柳原東西線道路改良地点：大字小島字三ツ家沖他、Ｈ15年度から調査継続中、未報告
弥生時代中～後期竪穴住居・弥生時代後期～古墳時代前期周溝墓（環濠集落の外縁に営まれた墓域の存在が示唆される。）・河川流路（幅員25ｍに及ぶ河川跡で、弥生時代に流路として機能し、古墳時代以降に沼地化して埋没したものと判断される。現在の北八幡川との連関が示唆される。）・古墳時代後期竪穴住居・奈良時代竪穴住居・掘立柱建物（奈良時代以降の住居跡として本遺跡では初の確認例となる。）

6　宮西遺跡　中俣住宅地造成地点：大字柳原字宮西、Ｈ5年度調査、長野市教委1994『宮西遺跡』
弥生時代中～後期竪穴住居11・古墳時代前期周溝墓2・中世溝1

中俣遺跡

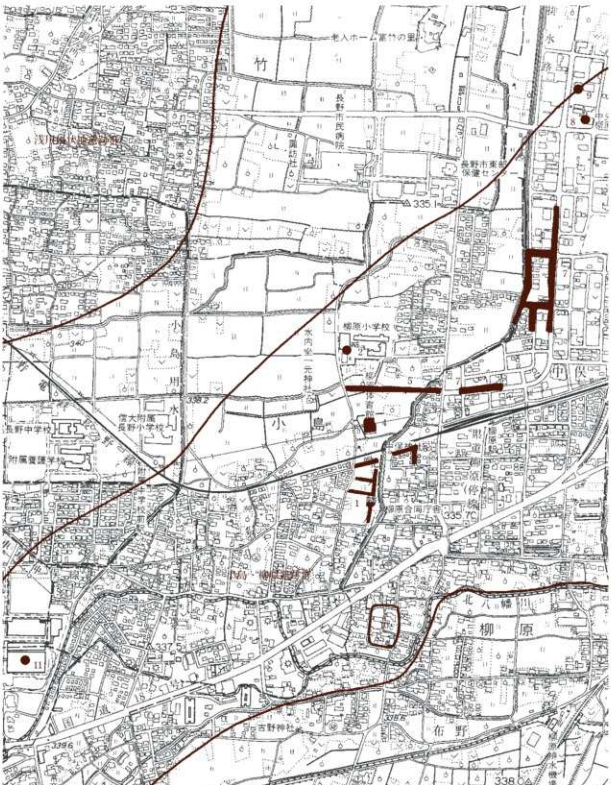
7　中俣土地区画整理事業地点：大字柳原字上返町他、Ｓ63～Ｈ2年度調査、長野市教委1991『中俣遺跡・他』
弥生時代中～後期竪穴住居50以上・古墳時代前期溝

8　中央消防署柳原分署建設地点：大字柳原字下返町、Ｈ3年度調査、長野市教委1992『中俣遺跡Ⅱ』
弥生時代後期竪穴住居3・古墳時代後期竪穴住居1

9　㈱永楽開発支店建設地点：大字柳原字下返町、Ｈ6年度調査、長野市教委1996『駒沢城跡・中俣遺跡Ⅲ』
弥生時代中～後期竪穴住居5・古墳時代前期周溝墓1

11　小島境遺跡　富士通長野工場建設地点：大字石渡字下土堀、Ｓ57・58年度調査、未報告
弥生時代中期竪穴住居1・後期竪穴住居3・古墳時代前期竪穴住居5・方形周溝墓1

各遺跡における遺構検出状況を概観すると、弥生時代中～後期の竪穴住居が例外なく検出されている傾向を指摘できる。これは、当遺跡群の立地が、水田開発初期の段階にある弥生時代においては水稲耕作に最適な環境の中に位置していた状況を示すものであろう。一方、奈良時代以降の竪穴住居等の検出例が極少である傾向も見てとれる。今後の調査の進捗にもよるが、奈良・平安時代においては、古墳までの集落域さえも水田開発の対象となって水田域の拡大が図られ、現況に近い田園景観の形成に至った状況が想起される。



1. 調査地　2. 水内坐一元神社遺跡（1次）　3. 水内坐一元神社遺跡（2次）　4. 水内坐一元神社遺跡（3次）　5. 水内坐一元神社遺跡（4次）
6. 宮西遺跡　7. 中俣遺跡（1次）　8. 中俣遺跡（2次）　9. 中俣遺跡（3次）10. 中俣城跡　11. 小島境遺跡

図3　周辺の遺跡（1：10,000）

第Ⅲ章　遺構と遺物

第１節　調査概要

今回の調査は宅地開発事業に伴うもので、盛土造成される宅地部分を除き、工事によって埋蔵文化財が破壊される可能性のある道路造成部分を調査対象としている。そのため調査区は幅員約３ｍと限定され、実質調査面積はガーデンパーク小島宅地造成地点（以下、ガーデンパーク小島地点）が約280㎡、㈱山二小島団地二期工事地点（以下、山二小島団地地点）は約760㎡に止まる。

ガーデンパーク小島宅地造成地点

ガーデンパーク小島地点は北八幡川（現長沼排水路）に沿って南北方向に約45m延びるが、遺構確認面において明確な勾配は認められない。弥生時代中期の竪穴住居跡１軒、後期の竪穴住居跡７軒、古墳時代前期の方形周溝墓１基、溝跡、土坑などを検出した（図7）。遺構分布を概観すると、調査区中央を東西方向に延びる暗渠の北

図4　調査地とその周辺（1：2,500）

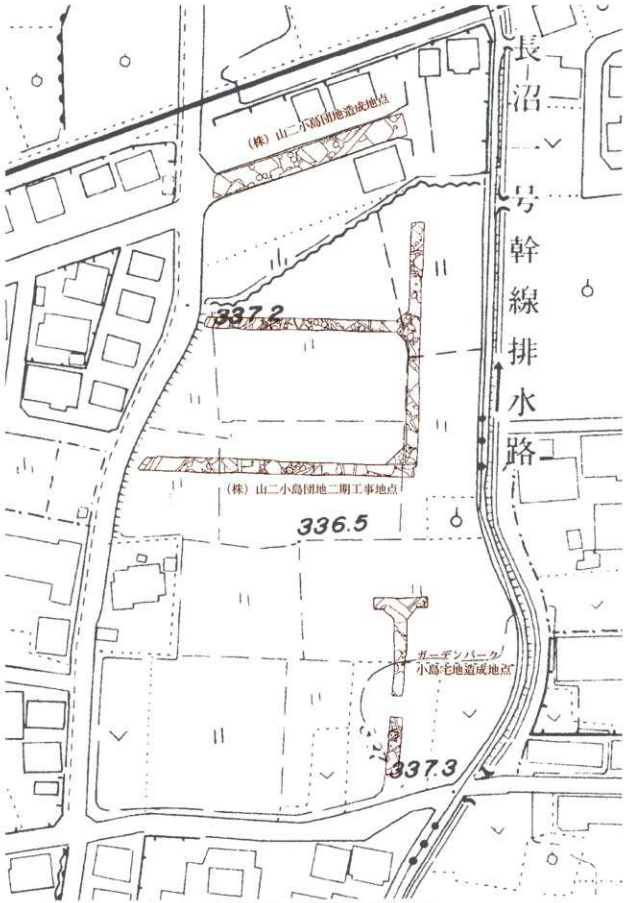


図5　調査区の位置と遺構分布（1：1,000）

側では、住居跡６軒と方形周溝墓などが重複しながら密集するのに対して、暗渠以南では、調査区南端に住居跡２軒が分布するほかは溝跡や土坑が検出されるだけで、竪穴住居跡の分布に疎密が認められる。

(株)山二小島団地二期工事地点

山二小島団地地点は、調査区の形状が総延長約180ｍに及ぶ逆Ｆ字形を呈することから、便宜的にＡ区・Ｂ区・Ｃ区の３地区に細分し、順次発掘調査を実施した。当該地点の地形を概観すると、調査区西端から北八幡川に向かって緩やかな傾斜が認められ、遺構確認面での最大比高差は約40cmを測る。検出された遺構は、弥生時代中期～古墳時代後期の竪穴住居跡41軒、古墳時代後期の掘立柱建物跡２棟、古墳時代前期の方形周溝墓１基、溝跡、土坑などである（図8）。住居跡41軒のうち31軒は弥生時代後期に帰属し、複雑に切り合いながら密に分布する一方、主軸を基本的に北西方向に揃えるといった一定の規則性のもと集落が形成された様を看取することができる。また、古墳時代中期及び後期の竪穴住居跡が検出されているが、本遺跡を含む小島・柳原遺跡群では、これまで該期の遺構はほとんど確認されていない。古墳時代以降の集落の変遷を検討する上で、貴重な資料となろう。

発掘調査に先立ち、ガーデンパーク小島地点の南北２ヶ所（図４参照）において試掘調査を行っている。確認された基本層序は図６に示した通りである。南端に設置されたＡトレンチでは、第１層：表土（旧水田耕土）、第２層：灰色粘土、第３層：灰褐色粘質土、第４層：暗褐色土、第５層：淡黄褐色土。北端のＢトレンチでは、第１層：表土、第２層：灰褐色粘質土、第３層：灰褐色粘土、第４層：暗褐色土、第５層：淡黄褐色土となっている。両地点とも第４層が遺物包含層、第５層が地山層である。

図6　基本土層柱状図

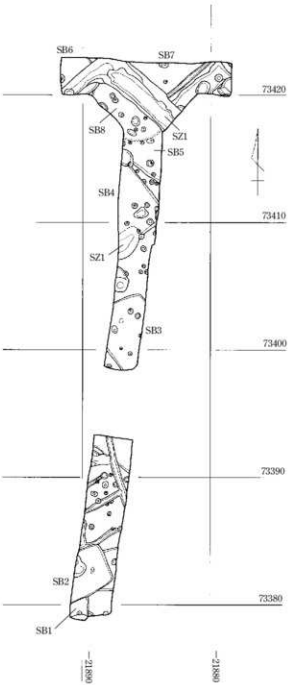


図7　調査区（ガーデンパーク小島地点）全体図（1：300）

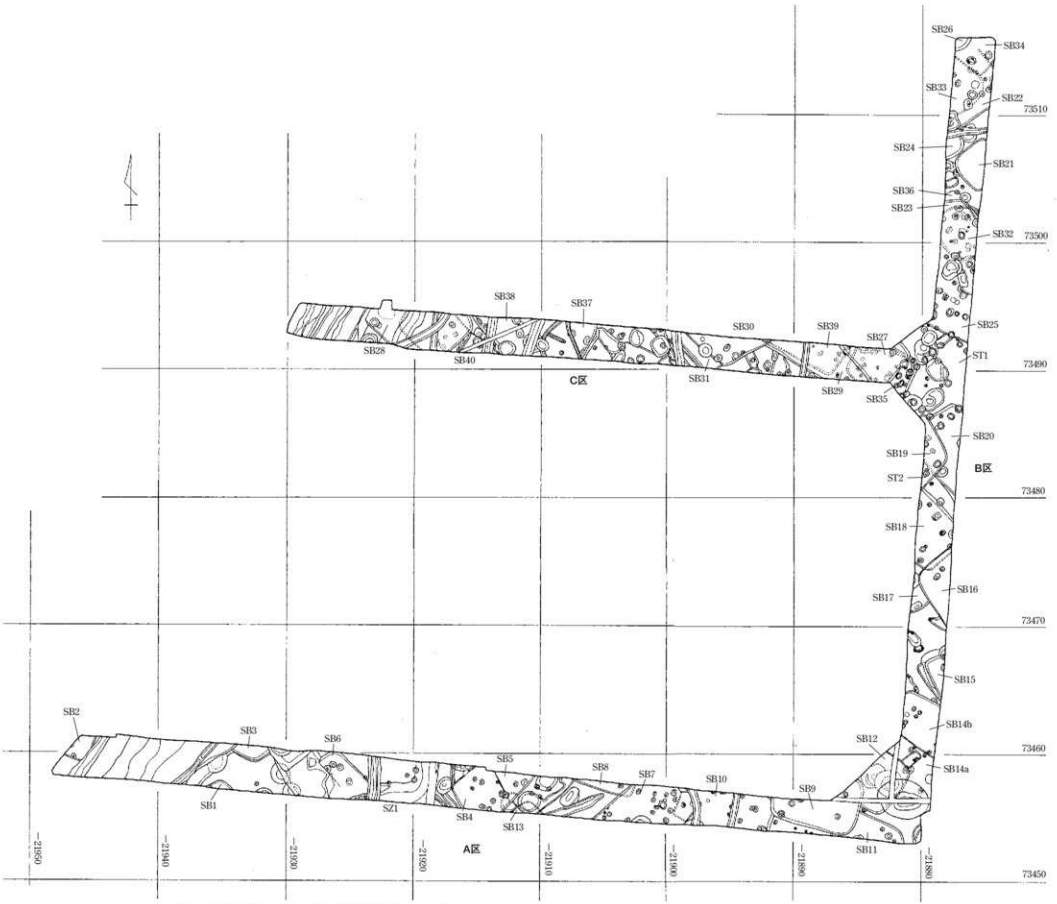


図8　調査区（山二小島団地地点）全体図（1：300）

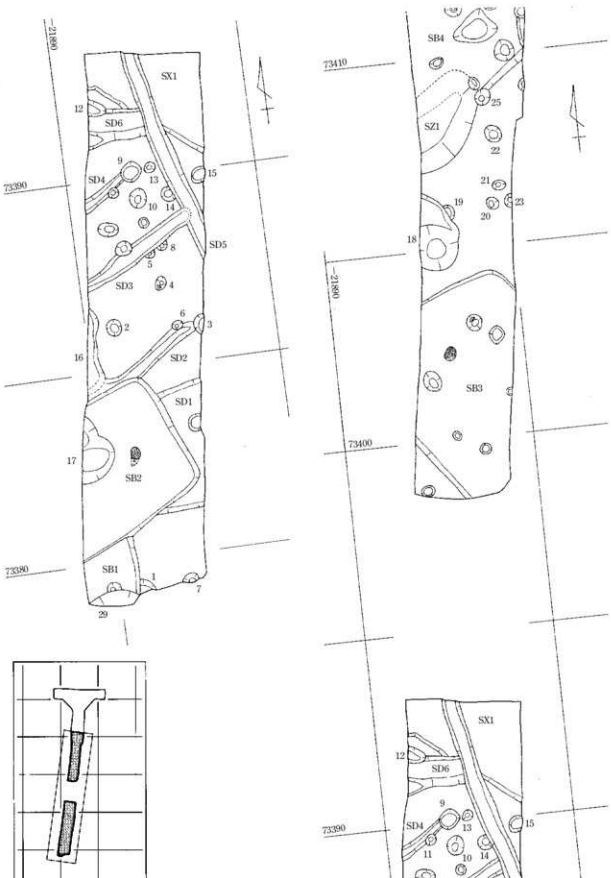


図9　ガーデンパーク小島地点（南半部）遺構分布図（1：100）

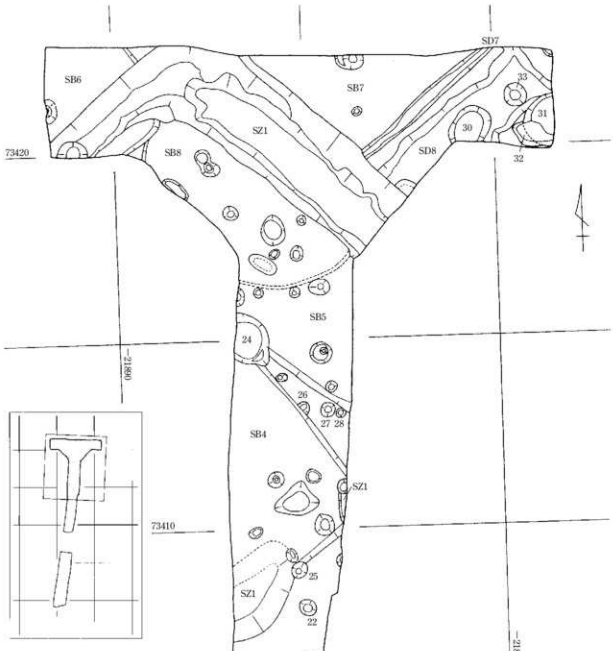
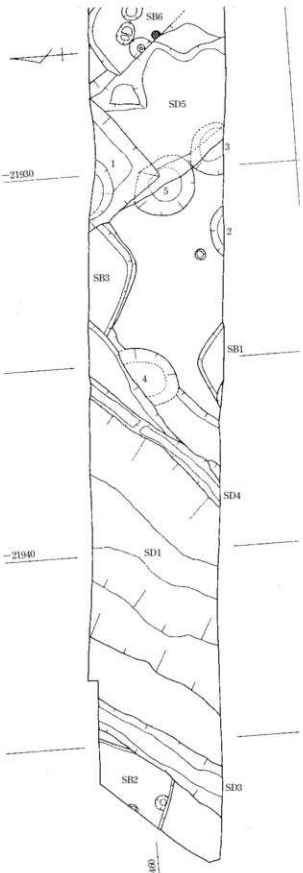


図10　ガーデンパーク小島地点（北半部）遺構分布図（1：100）

北半部全景（北から）

調査風景



A区全景（西から）

調査風景

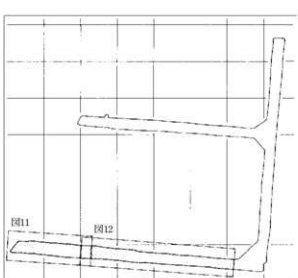


図11　山二小島団地地点A区（西端部）遺構分布図（1：100）

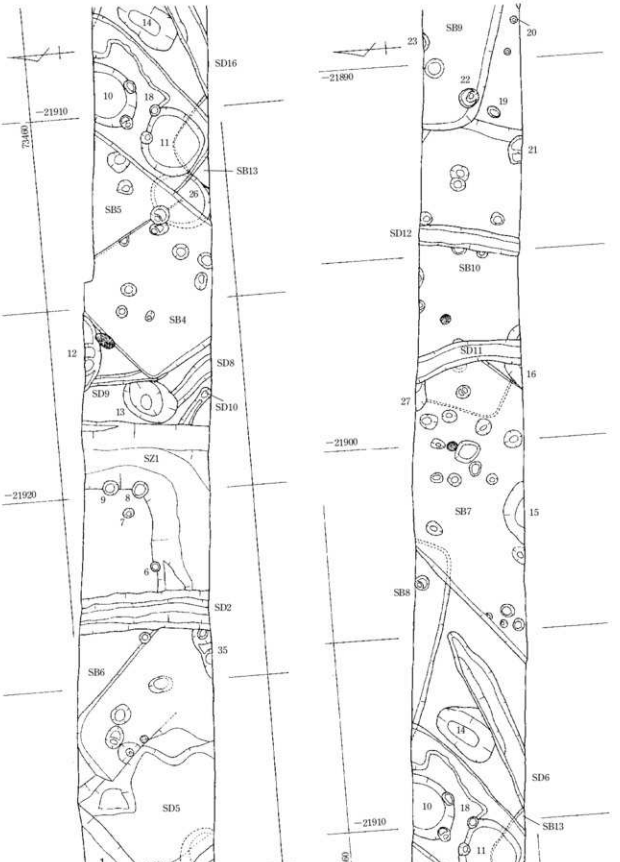


図12　山二小島団地地点A区（中央部）遺構分布図（1：100）

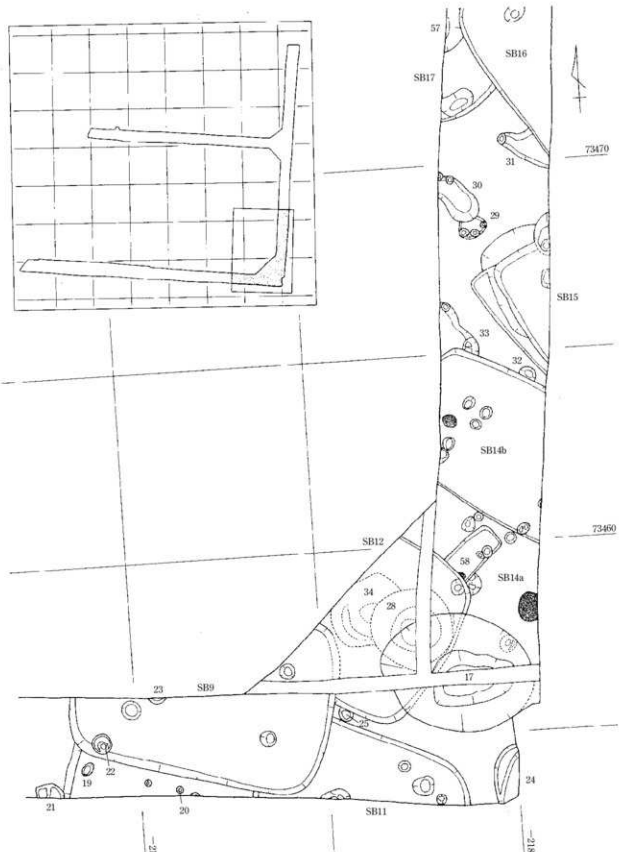


図13　山二小島団地地点A区（東端部）・B区（南端部）遺構分布図（1：100）

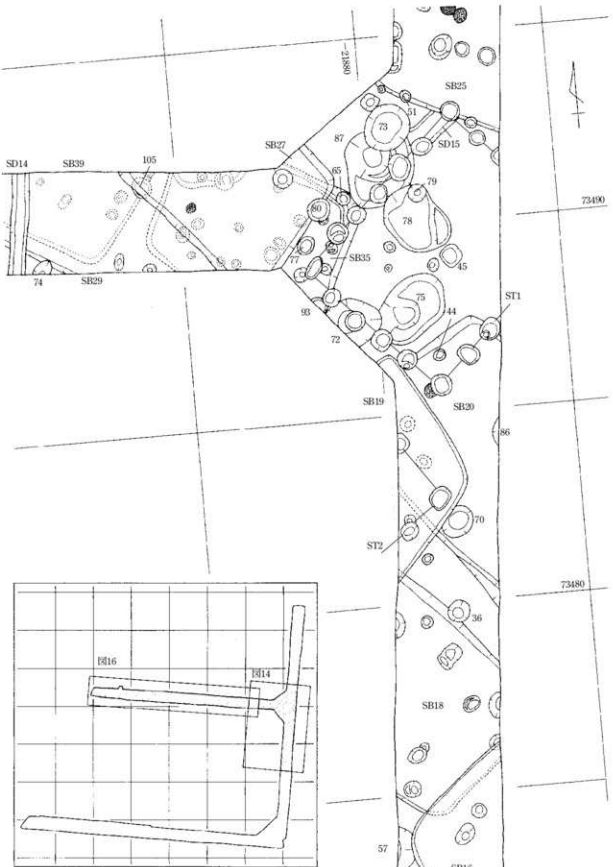
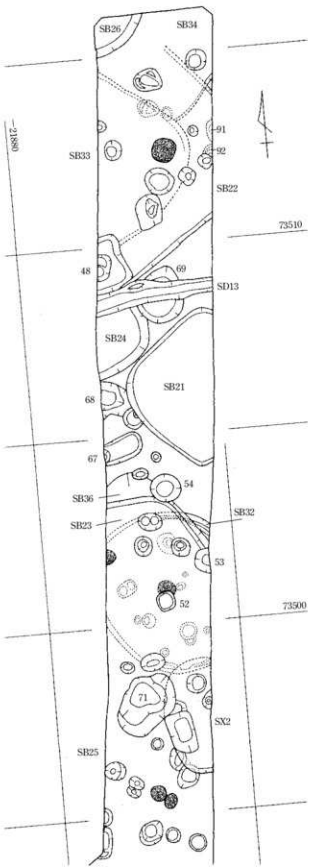


図14　山二小島団地地点B区（中央部）遺構分布図（1：100）



B区北半部（南から）

B区南半部（南から）

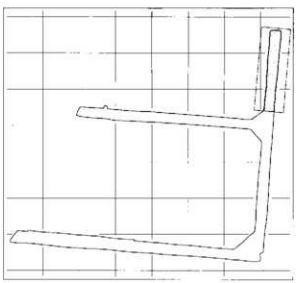


図15　山二小島団地地点B区（北半部）遺構分布図（1：100）

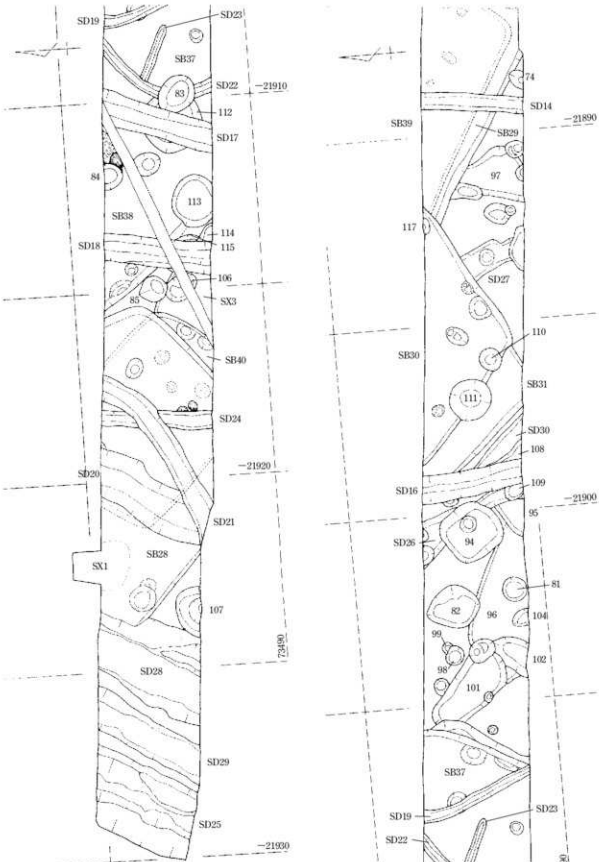


図16　山二小島団地地点C区遺構分布図（1：100）

竪穴住居跡

遺構名	時　期	平面形	規　模（m）	壁高（cm）	主　軸	施　設	重複関係	遺物出土状況	出土総重量(kg)	備　考
SB1	弥生後	—	—	34	—		→SB2		5.59	SB2土師遺物が混入
SB2	弥生後	隅丸長方	—×3.6	28～37	N67° E	地床炉	SB1→ SD1→	床面直上に高坏・壺・甕	3.37	
SB3	弥生後	隅丸長方	—×4.7	3～15	N36° W	地床炉・主柱穴3		床面より土製勾玉出土	1.80	
SB4	弥生後	隅丸長方?	—	24～31	N38° W	主柱穴1	→SZ1		16.28	SZ1出土遺物が混入
SB5	弥生後	隅丸長方?	—	18～23	N51° W		SB8→ →SZ1	床面直上よりガラス小玉出土	12.83	SB8出土遺物が混入
SB6	弥生後	隅丸長方?	—	17～24	N38° W		→SZ1	床面直上に壺・甕	9.91	
SB7	弥生中?	—	—	—	—		→SZ1 →SD7・8		2.14	
SB8	弥生後	楕円形	(7.5)×—	11	—	主柱穴1	→SB5 →SZ1		8.43	

方形周溝墓

遺構名	時　期	平面形	規　模（m）	周　溝		主　軸	埋葬施設	重複関係	遺物出土状況	出土総重量(kg)	備　考
				幅（m）	深（cm）						
SZ1	古墳前	中央陸橋型	(13.2)×—	1.8～2.3	70	N41° W	—	SB4→8→ SD7・8→	底面より完形壺出土	24.16	SB4出土遺物が混入

溝跡

遺構名	時　期	断面形	規　模		重複関係	遺物出土状況	出土総重量(kg)	備　考
			幅（m）	深（cm）				
SD1	弥生後?	—	3.2	10	→SH2	覆土より北陸系壺	1.62	溝跡ではなく大形土坑か SH2土師遺物が混入
SD2		U字形	0.3	7	SH2→		0.15	畝状遺構か
SD3	古墳前	U字形	0.4	7	→SD5	覆土より8字型A類・扁平片刃石斧出土	0.05	畝状遺構か
SD4		U字形	0.3	9			0.03	畝状遺構か
SD5		逆台形	0.5	33	SD3→6→		0.99	
SD6		U字形	0.8	17	→SD5 SX1↔		0.99	
SD7	弥生後?	U字形	0.3	9	SH7→ →SZ1		0.18	
SD8	弥生後	逆台形	1.6	27	SH7→ →SZ1		4.52	

・「規模」は長軸×短軸で表し、（ ）は復原値であることを示す。
・「壁高」及び「深さ」は遺構確認面からの計測値で表している。切り合いなどにより確認面が留手されているものや、底面が未検出のものは残存値を［ ］で記した。
・「重複関係」は旧→新で表し、↔は新旧不明を示す。
・主軸方位は磁北として北を基準に表している。

表1　ガーデンパーク小島地点遺構一覧表①

土坑・その他

遺構名	時 期	平面形	規 模 (cm)	深 さ (cm)	重複関係	遺物出土状況	出土総重量(kg)	備 考
SK1	—	—	—	—			—	撹乱を調認
SK2		円形	径42	13			0.11	
SK3		—	—	11	SD2→		0.05	
SK4		楕円形	40×28	37			0.15	
SK5		円形	径28	12	→SD3		0.02	
SK6		楕円形	32×24	13	SD2→		0.02	
SK7		—	(44)×—	15			0.03	
SK8		円形	径32	27	→SD3		0.02	
SK9		隅丸方形	52×46	8	SD4→		0.04	
SK10	弥生後	楕円形	52×44	38		下層より高坏出土	0.55	
SK11	—	円形	径28	8	SD4→		—	
SK12		楕円形	—×(40)	9	SD6→		0.05	
SK13		円形	径30	29			0.01	
SK14	—	円形	径40	32	→SD5		—	
SK15	—	楕円形	—×40	6			—	
SK16		不整形	—	43	SD2→		0.02	
SK17	弥生後期	楕円＋楕円?	(185)×—	[91] [97]	SB2→		1.33	土坑2基が重複、井戸跡か？ 湧水のため未完掘
SK18		不整楕円形	(220)×—	43			0.90	
SK19		円形?	径14	16	→SK18		0.07	
SK20		楕円形	38×32	28			0.02	
SK21	—	楕円形	36×26	21		覆土より扁平片刃石斧出土	—	
SK22	古墳前?	楕円形	48×40	34			0.13	
SK23		円形?	38×—	34			0.02	
SK24	古墳前	楕円形	—×116	[71]	SB4・5→		2.12	井戸跡？湧水のため未完掘
SK25		円形	径44	42	SZ1→		0.06	
SK26		円形?	径36	29	→SB4		0.06	
SK27		隅丸方形	38×38	21			0.08	
SK28		円形	径24	14			0.04	
SK29		—	—	—	SB1→		0.42	
SK30	弥生後?	隅丸方形	—×92	[34]	SD8→		0.14	
SK31	弥生後?	円形?	径136	29	SD8→		0.28	
SK32	弥生後?	不整形	—	13	→SK31		0.11	
SK33	弥生後?	円形	径62	45	SD8→		0.02	
SX1	弥生後?	—	—	21	→SD5		1.35	

表2　ガーデンパーク小島地点遺構一覧表②

竪穴住居跡

遺構名	地区	時期	平面形	規模(m)	壁高(cm)	主軸	施設	重複関係	遺物出土状況	出土総重量(kg)	備考
SB1	A		—	—	10～12	—				0.15	詳細不明
SB2	A	弥生後	—	—	10～22	N22° E		→SD3		1.14	
SB3	A	弥生後	—	—	39～43	—		→SD1 →SK1	覆土より太形蛤刃石斧出土	1.96	
SB4	A	弥生後	隅丸長方	4.0×3.6	18～20	N33° W	主柱穴4	SB4← SB5		9.51	調認のため2軒を同時掘削遺物は全てSB4出土として取り上げ、分別不能
SB5	A	弥生後?	—	—	[23]	—			床面に柱口土器		
SB6	A	弥生後	隅丸長方?	—	19～30	N45° W	地床炉	→SZ1 →SD2・5		4.00	
SB7	A	弥生後	隅丸長方	—×5.1	17～23	N50° E	地床炉・主柱穴1	SB8・10→ →SD11	床面に土器片密集、床面直上より扁平片刃石斧出土	34.84	床面と壁面に被熱痕、炭化物多量出土
SB8	A	弥生後?	隅丸長方?	—	51	(N72° W)		→SB7 →SK18		3.73	
SB9	A B	弥生後	隅丸長方	6.9×(4.8)	8～32	N75° W	主柱穴3	SB10・11・12→		8.89	
SB10	A	弥生後	隅丸長方	7.5×—	40	N71° W	地床炉・主柱穴3	→SB7・9	覆土下層より扁平片刃石斧出土	26.82	建て替え
SB11	A	弥生後?	—	(5.8)×—	11	N66° W		→SB9		0.76	
SB12	A B	弥生後	—	—×4.8	34	N54° W		→SB9 →SK17		10.80	
SB13	A		—	—	39	—		→SK18		0.18	詳細不明
SB14a	B	弥生中?	楕円形?	—	—	—	地床炉・主柱穴1	SB14a→ SB14b	床面直上より磨製石鏃出土	20.87	調認のため2軒を同時掘削出土土器の大半はa・b何れか判断できない
SB14b	B	弥生後	隅丸長方	—×3.7	26	N56° W	地床炉・主柱穴3				
SB15	B	弥生後	—	—	27～37	(N26° W)				4.36	
SB16	B	古墳後	—	—	12～19	(N35° W)	主柱穴1	SB17→ SB18→	床面、壁沿いに土師器壺・高坏・甕並ぶ	14.35	床面直上から白玉多量出土柱根残存
SB17	B	古墳中	—	—	16	—		SB18→ →SB16		1.76	竪穴住居か疑問
SB18	B	弥生後	隅丸長方	—×(4.5)	16～19	N42° W	主柱穴3	→SB16・17・19		12.94	
SB19	B	弥生後?	—	(5.0)×—	15～20	N28° W		SB18・20→ →ST2		2.13	
SB20	B	弥生後	隅丸長方	—×(4.8)	14～27	N32° W	地床炉・主柱穴1	→SB19 →ST1・2		4.59	
SB21	B	古墳中	隅丸方形	(3.4×3.5)	4～18	N38° W				4.99	竪穴住居か疑問、大形土坑か
SB22	B	弥生後～古墳前	—	—	30～35	—	地床炉?	SB33・34→ →SB26	石包丁(床面)、土製勾玉(ピット覆土)出土	14.26	
SB23	B	弥生後	—	—×(4.5)	15～24	N30° W	地床炉・主柱穴1	→SB25 SB32・36→	床面直上より太形蛤刃石斧出土	17.31	床面に炭化物・炭化材多量SB25出土遺物が混在
SB24	B	弥生後?	—	—	27	—		→SD13		1.93	竪穴住居か疑問
SB25	B	弥生後	—	—×(5.4)	29	N65° W	地床炉2・主柱穴2	SB23→ →SX2		2.66	上層出土遺物の一部がSB23に混入
SB26	B		—	—	28	—		SB22・34→		0.87	詳細不明
SB27	B C	弥生後	隅丸長方	(5.0)×3.9	24～32	N48° W		SB29・35→		11.26	
SB28	C	古墳中	隅丸長方	—×(6.2)	14～19	S43° E	炉?・主柱穴1	SB40→ →SD20・28	覆土より白玉出土	15.03	
SB29	C	弥生後	—	—	26～31	N58° W		SB35・39→ →SB27・30		10.11	

表3　山二小島団地地点遺構一覧表①

遺構名	地区	時 期	平面形	規 模（m）	壁高（cm）	主 軸	施 設	重複関係	出土土器	出土総重量(kg)	備 考
SB30	C	弥生後	—	—	33	（N36° W）	主柱穴1	SB29→ SB30→ SB31	床面より高杯・壺出土	11.45	
SB31	C	弥生後	—	—	13	N41° W				0.33	SB30の付随施設か
SB32	B	弥生中？	楕円形	（4.4×3.9）	39	N32° W	地床炉?・主柱穴・壁溝	→SB23・36		0.70	
SB33	B	弥生後？	—	—	[11]	N51° W		SB34→ →SB22		1.10	
SB34	B	弥生中	—	—	23	—	地床炉	→SB22・33	床面直上より扁平片刃石斧出土	6.59	
SB35	B C	弥生後	隅丸長方	5.1×(3.8)	16～ 22	N83° W	地床炉?・主柱穴4・周溝	→SB27・29		4.06	
SB36	B		隅丸長方？	—	—	N37° W		SB32→ →SB23		—	詳細不明
SB37	C	弥生後	隅丸長方	—	33～ 39	N62° W	地床炉?・主柱穴3	→SB38 →SD17・18		23.40	
SB38	C	弥生後	—	—	36	—		SB37→ →SD18		10.33	SB37出土土器が混在
SB39	C	弥生後？	隅丸長方	—	[8]	N58° W	主柱穴	→SB29		0.30	
SB40	C	弥生後	隅丸長方	5.3×3.8	41	N47° W	地床炉?・主柱穴4	→SB28 →SD20・21	擬土坑古墳式土器多量出土	5.71	

堀立柱建物

遺構名	地区	時 期	平面形		規 模		柱間距離		主軸	重複関係	出土総重量(kg)	備 考
			桁間	梁間	桁行（m）	梁行（m）	桁（cm）	梁（cm）				
ST1	B	古墳後？	6	5	5.5	4.6	74～124	90～106	N45° E	SB20・25・35→	2.38	
ST2	B	古墳後？	—	—	—	—	118	180	N83° E	SB19・20→	0.25	

方形周溝墓

遺構名	地区	時 期	平面形	規 模（m）	周 溝		主 軸	墳丘施設	重複関係	遺物出土状況	出土総重量(kg)	備 考
					幅（m）	深（cm）						
SZ1	A	古墳前	—	—	1.8～	34～ 45	—	—	SB46→ ←SD2		4.24	南東コーナー部のみ確認

・「規模」は長軸×短軸であり、（ ）は復原値であることを示す。
・「壁高」及び「深さ」は遺構確認面からの計測値であっている。切り合いなどにより確認面が個半されているものや、底面が未検出のものは残存値を［ ］で記した。
・「重複関係」は旧→新であり、←→は新旧不明を示す。
・主軸方位は原則として北を基準に表している。

表4　山二小島団地地点遺構一覧表②

溝跡

遺構名	地区	時期	断面形	規模 幅(m)	規模 深(cm)	重複関係	遺物出土状況	出土総重量(kg)	備考
SD1	A	奈良	逆台形	5.6	47～54	SB3→ →SD4	覆土より土師器・須恵器多量出土	23.95	SD25に接続か
SD2	A	奈良	逆凸字形	1.0	44～54	SB6→ SZ1→		1.04	
SD3	A	奈良	レンズ形	0.7～1.1	24	SB2→		0.21	出土遺物の一部がSD1に混入
SD4	A	奈良?	V字形	0.5	49	SD1→		0.55	
SD5	A	弥生後～古墳前	逆台形	3.3	41～54	SB6→		7.24	
SD6	A	弥生後?	逆台形	0.4～0.8	7	SB13→		0.28	
SD8	A	弥生後?	V字形	0.5	11	→SK13		0.08	
SD9	A	弥生後	U字形	0.3	11	→SB4		0.04	
SD10	A	弥生後?	半円形	0.2	9	→SZ1		0.04	
SD11	A	古墳後?	U字形	0.6	36	SB7・10→		2.25	SD16に接続か
SD12	A		U字形	0.5	11～22	SB10→		0.99	SD14に接続か
SD13	B	弥生後?	U字形	0.6	21～34	SB22・24→		0.65	
SD14	C		U字形	0.5	11	SB29・39→		0.13	SD12に接続か
SD15	B		半円形	0.7	12	→SB25 →ST1		0.32	詳細不明
SD16	C	古墳後?	U字形	0.7	24～35	SB30・31→ SD26・30→		0.63	SD11に接続か
SD17	C		U字形	0.8	38	SB37→		1.77	
SD18	C		U字形	0.8	29	SB37・38→		0.73	
SD19	C			0.3	12	SB37→		0.28	
SD20	C	奈良	レンズ形	1.3	24	SB28・19→ →SD21		5.06	
SD21	C	奈良	U字形	0.6	31	SB28・19→ SD20・24→		0.34	
SD22	C		V字形	0.3	11	SB37→		0.29	
SD23	C			0.2	10	SB37→		0.10	
SD24	C	奈良		0.8	14	SB28→ →SD21		0.38	
SD25	C	奈良	レンズ形	—	31			4.28	SD1に接続か
SD26	C			0.4～1.2	11			0.25	
SD27	C			0.7	7			0.05	
SD28	C	奈良	逆台形	1.8～2.2	16～25	SB28→		9.00	
SD29	C	奈良	逆台形	0.9	13			2.16	
SD30	C	弥生後～古墳前		—	11			0.60	

表5　山二小島団地地点遺構一覧表③

土坑・その他

遺構名	地区	時期	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	重複関係	遺物出土状況	出土総重量(kg)	備考
SK1	A		方形?	—	35	SB3・SD5→		1.20	
SK2	A		楕円形	136×—	66			0.79	
SK3	A	弥生後	円形	径(128)	82	→SD5		2.79	
SK4	A		楕円形	190×—	—	→SD1		0.56	未完掘
SK5	A	弥生後	不整楕円形	176×(150)	84	→SD5・SK1		1.27	
SK6	A		円形	径30	18	SB6→		0.02	
SK7	A		円形	径30	12			0.01	
SK8	A		円形	径44	13	SZ1→			
SK9	A		円形	径42	14	SZ1→		0.01	
SK10	A	弥生後	楕円形	—×154	50		覆土より土製紡錘車	3.55	SK18内土坑。一連の遺構と思われる
SK11	A	弥生後	不整楕円形	170×152	36			3.60	SK18内土坑。一連の遺構と思われる
SK12	A	古墳後	楕円形?	—	31	SD9→		1.41	
SK13	A		楕円形	150×106	27	SD8→		0.07	
SK14	A	弥生後	楕円形	172×110	74	→SD6		3.78	
SK15	A	古墳前	楕円形	(168)×—	[69]	SB7→		0.53	
SK16	A	古墳前	楕円形	(174)×—	[81]	SB7→ →SD11	底部より完形土器多数出土	9.26	湧水のため未完掘、井戸跡
SK17	A B	古墳前	楕円形	412×308	[125]	SB12・SK28→	下層より磨・太形蛤刃石斧・木片出土	17.46	井戸跡
SK18	A	弥生後	隅丸方形	—	20	SB8・13→ SB5→	覆土より塩形土製品	7.56	SK10・11と一連の遺構
SK19	A		楕円形	38×24	15				
SK20	A		円形	径20	14				
SK21	A		楕円形?	80×—	29	SD10→		0.19	
SK22	A		円形	径54	25	SB9→		0.04	
SK23	A		円形?	—	18	SB9→			
SK24	A		—	—	54			0.42	
SK25	A		円形	径40	42	→SB12			
SK26	A		楕円形	170×144	65	→SB4・5		0.71	
SK27	A		楕円形?	—	20	SB7→ →SD11		0.10	
SK28	B	弥生後?	不整円形	径216	[100]	SB12・SK34 →SK17	底部より完形壺	10.91	井戸跡
SK29	B		楕円形	78×—	3			0.01	
SK30	B		楕円形?	124×80	6			0.07	
SK31	B		不整形	—	8	→SB16		0.05	
SK32	B		円形?	径47	52	→SB14b		0.03	
SK33	B		不整形	—	22	→SB14b		0.10	
SK34	B	弥生後	不整楕円形	209×170	[130]	SB12→ →SK28		4.28	井戸跡
SK35	A		—	—	41	→SD2			
SK36	B		楕円形	61×56	28	SB18→		0.10	

表6　山二小島団地地点遺構一覧表④

遺構名	地区	時 期	平面形	規 模 (cm)	深 さ (cm)	重複関係	遺物出土状況	出土郎重量(kg)	備 考
SK44	B		楕円形	34×30	51	SK29→		0.02	
SK45	B		隅丸方形	54×54	22			0.06	
SK48	B		不整形	—	51	SB22→ →SD13		1.34	
SK51	B		楕円形	33×28	28	SK25→		0.05	
SK52	B		隅丸方形	50×48	51	SK23→		0.20	
SK53	B		楕円形?	68×—	46	SK23→		0.10	
SK54	B		楕円形	81×74	13	SK38→		0.02	
SK57	B	弥生後	楕円形?	(126)×—	92	→SB17	覆土上方ミニチュア土器	2.88	
SK58	B		長方形	—×80	5	→SB12 SB14a→		0.09	
SK65	B		円形	径36	39	SK35→		0.12	
SK66	B							0.02	詳細不明
SK67	B		楕円形?	—×64	24			0.53	
SK68	B		不整形		13	→SB21		0.34	
SK69	B	弥生後?	楕円形	152×124	44	SB24→ →SD13		0.63	
SK70	B	弥生後	円形	径90	106	SB20→ →SB19		3.10	井戸跡?
SK71	B	古墳前?	不整楕円形	183×130	[32]	SB23・25→ SX2→		1.78	
SK72	B		楕円形?	158×134	64	→ST1		0.63	
SK73	B		楕円形	131×114	69			0.95	
SK74	C		楕円形?	—×42	24	SK29→		0.04	
SK75	B	弥生後	楕円形	208×140	34	→ST1		0.37	
SK76	B							0.03	詳細不明
SK77	B		不整楕円形	52×43	24	SK35→		0.07	
SK78	B		楕円形	194×138	21			0.36	
SK79	B		円形	径48	66			0.08	
SK80	B		楕円形	63×58	24	SK27→		0.15	
SK81	C		円形	径66	24			0.13	
SK82	C	古墳中	楕円形	144×116	13			0.40	
SK83	C	弥生後	楕円形	(110)×90	22	SB37→ SD22→	覆土上方器形土製品	0.35	
SK84	C		円形?	径69	24	SK37→		0.15	
SK85	C		不整楕円形	78×69	18			0.39	
SK86	B		楕円形?	98×—	86	SK29→		0.21	
SK87	B	弥生後	楕円形	224×188	[151]	SK35→ →ST1		3.39	
SK88	B							0.16	SB22床下土坑
SK89	C							0.01	詳細不明
SK90	C							0.06	詳細不明
SK91	B		楕円形?	58×—	30	→SB22		0.06	

表7　山二小島団地地点遺構一覧表⑤

遺構名	地区	時期	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	重複関係	出土土器	出土総重量(kg)	備考
SK92	B		楕円形?	—	31	→SB22		0.03	
SK93	B		楕円形?	57×46	22	SB35→		0.05	
SK94	C	弥生後	隅丸方形	152×146	83	SD26→		1.25	
SK95	C		—	—	5			0.26	SK108に接続か
SK96	C		—	—	10			1.47	落ち込みか
SK97	C		不整形	—	13	→SB29		0.77	
SK98	C		楕円形	52×46	16			0.04	
SK99	C		円形	径28	14			0.05	
SK101	C		不整楕円形	246×112	12	SK102→		1.25	
SK102	C		不整形	—×90	20	→SK101		0.07	
SK104	C		楕円形?	61×45	57	SK96→		0.05	
SK105	C		楕円形	58×49	17	SB39→ →SB27		0.26	SB29に伴う土坑か
SK106	C		楕円形	91×62	37	→SK85		0.16	
SK107	C	弥生後	楕円形?	—×134	55	→SB28		2.26	
SK108	C		—	—	8	SD30→		0.03	SK95に接続か
SK109	C		楕円形	64×52	44	SD26→ →SD16		0.11	
SK110	C		円形	径60	44	SB30・31→		0.05	
SK111	C	弥生後	円形	径108	[91]	SB30・31→		4.05	
SK112	C		楕円形	173×160	—	SB37→ →SD17		0.12	底面未検出
SK113	C		楕円形	140×(120)	31	SB37→		1.27	
SK114	C		—	—	15	→SD18		0.13	
SK115	C		—	—	8	→SD18		0.05	
SK116	C	弥生後	—	—	—			0.69	詳細不明
SK117	C		円形?	—	28	SB30→		0.02	
SX1	C	古墳中	—	—	—	SB28→	高坏・坏・蓋などが規則的に配列	13.43	土器集中
SX2	B		楕円形?	(309)×—	—	SB23・25→		0.24	土坑
SX3	C		—	—	9			0.81	落ち込みか

表8　山二小島団地地点遺構一覧表⑥

第２節　ガーデンパーク小島宅地造成地点の遺構

１　竪穴住居跡

１号・２号住居跡［ＳＢ１・２］(図17)

調査区南端に位置し、１号住居跡を切って２号住居跡が構築される。１号住居跡は東壁の一部を確認しただけで、大部分は調査区外にあり、平面形態や規模など全容は明らかでない。竪穴住居とする積極的根拠は希薄であるが、床面と思われる平坦な硬化面を有することから住居跡と判断した。

２号住居跡は、西半部が調査区外に延びるため長軸は計測できないが、短軸3.6ｍの隅丸長方形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、比較的遺存状態の良い南壁中央付近で壁高約37㎝を測る。平坦で堅緻な貼床面が確認され、床面中心軸の奥壁寄りに、規模34×28㎝の楕円形を呈する地床炉が設置される。柱穴など他の住居内施設は、繰り返し精査を行ったものの確認することができなかった。

２号住居跡の床面直上より、高坏脚部片・蓋・甕口縁部片（図60－６・９・10）が奥壁沿いに並んで出土しており、これら出土土器の様相から、本住居跡は弥生時代後期箱清水式期の所産と想定される。土器以外では、１号住居跡覆土中より石槌（図84－24）が出土した。なお、遺構確認時、重複関係が不明瞭であったため、２号住居跡の覆土上層より出土とすべき遺物の多くを、１号住居跡もしくは１号溝出土と誤認して取り上げている。

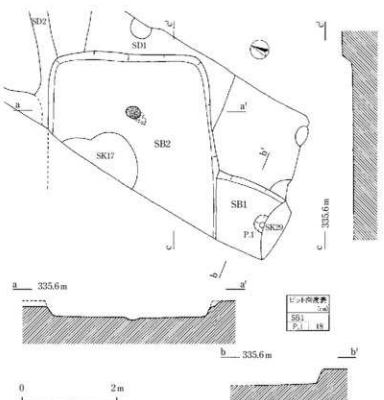


図17　１号・２号住居跡（１：80）

１号・２号住居跡

２号住居跡

3号住居跡［ＳＢ３］（図18）

調査区中央に位置する。部分的な検出ではあるが、平面形態は短軸4.7ｍを測る隅丸長方形と想定される。遺構確認面からの掘り込みは３～15㎝と浅く、壁際を除いて平坦な硬化面が形成される。検出した６基のピットは、何れも深さ20㎝未満と掘り込みが浅いものの、位置関係から、P.１・P.２・P.４の３基を４本柱配置の主柱穴と判断した。床面中心軸上、奥壁側柱穴の中間より、規模約36×30㎝の楕円形をした地床炉を検出した。

出土土器は少量で図示し得る資料は僅かだが、箱清水式期に比定できるだろう。土器以外では、床面より土製勾玉１点（図88－５）が出土している。

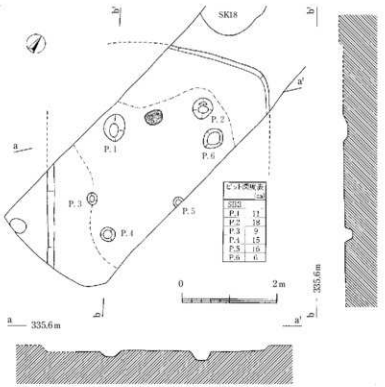


図18　3号住居跡（１：80）

4号住居跡［ＳＢ４］（図19）

調査区北側より南東隅付近を確認したが、１号周溝墓などに切られ遺存状態は良くない。遺構確認面からの掘り込

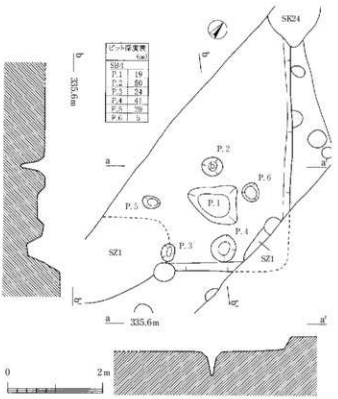


図19　4号住居跡（１：80）

3号住居跡

4号住居跡

みは24～31㎝を測り、壁面は外側に開き気味に立ち上がる。床面はやや凹凸がみられるものの堅く締まった硬化面が確認される。ピット・土坑を６基検出しているが、位置関係や形態などから、P.２を主柱穴、P.３を入口施設に関連する柱穴と推定した。なお、P.１については本住居跡に伴うものか疑問が残る。

覆土上・中層より多量の土器片が出土しているが、住居廃絶後に投棄されたものであろう。床面及び床面直上に伴う土器は極めて少なく、唯一図示できた壺胴部片（図60－14）などから箱清水式期の所産と想定した。

５号住居跡［ＳＢ５］（図20）

調査区北側、８号住居跡を壊して構築される。大半が調査区外に位置する上に、１号周溝墓に北東半部を開削されるなど遺存状態は良くない。また、８号住居跡との重複範囲が判然としないため、平面形態や規模は明らかでない。壁面は外側に開き気味に立ち上がり、壁高は唯一確認できた南壁で約20㎝を測る。平坦で堅緻な床面が形成される。ピット・土坑11基を伴うが、主柱穴と特定できるものはなかった。

土器の出土量は、隣接する４号住居跡に次いで多いが、重複関係が不明瞭な８号住居跡に伴う土器の一部が混在している可能性は高い。床面及び床面直上出土の土器から後期箱清水式期の竪穴住居と想定される。土器以外では、床面直上よりガラス小玉４点（図87－42～45）を検出した。

６号住居跡［ＳＢ６］（図20）

調査区北西端に位置する。南東隅の一部を検出するに止まり、平面形態や規模など全容は明らかでない。１号周溝墓に開削され、壁面は殆ど残存していないが、遺構確認面からの掘り込みは17～24㎝を測る。床面は平坦な硬化面が形成される。ピット１基を検出したが、主柱穴に該当するかは判然としない。

床面直上及び覆土下層より、壺や甕（図62－38・39・44）が横位に破砕された状態で出土している。これら出土土器の様相から後期箱清水式期の竪穴住居と判断した。

７号住居跡［ＳＢ７］（図20）

調査区北端より検出したが、１号周溝墓や７号・８号溝に切られ壁面を確認することはできない。床面と思われる平坦な硬化面の存在をもって竪穴住居跡と判断したが、平面形態や規模、主軸方位など詳細は不明である。遺構確認面と床面との比高差が殆どなく、住居内施設もピット２基を確認したに過ぎない。

覆土の大半を削平されているため、出土土器は少量の破片資料を検出するに止まる。

８号住居跡［ＳＢ８］（図20）

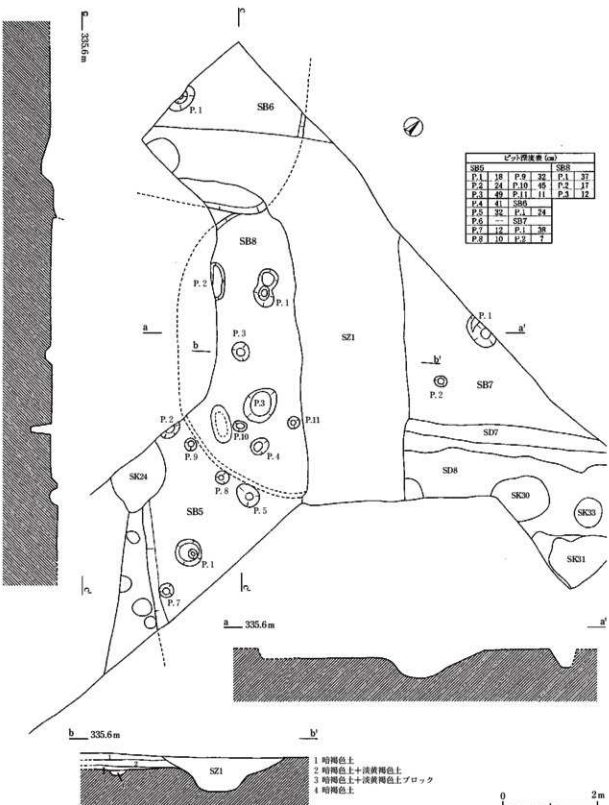
調査区北端に位置する。５号住居跡や１号周溝墓に切られ北東半部を欠損するが、当該地点では、平面形態を判別できない７号住居跡を除き、唯一楕円形を呈する住居跡で、長軸約7.5ｍと復原される。壁高は北西隅部で約11㎝を測り、重複する５号住居跡の床面高との比高差は僅少である。床面は平坦だが、明確な硬化面は確認さ

５号・７号・８号住居跡

６号住居跡

れていない。検出したピット３基のうち、位置関係や深度からP.１を主柱穴と想定した。

出土土器の様相から、本住居跡の帰属時期は後期箱清水式期に比定できるだろう。



ピット深度表 (cm)					
SB5				SB8	
P.1	18	P.9	32	P.1	37
P.2	24	P.10	45	P.2	37
P.3	49	P.11	11	P.3	12
P.4	41	SB6			
P.5	32	P.1	24		
P.6	—	SB7			
P.7	12	P.1	38		
P.8	10	P.2	7		

図20　5号・6号・7号・8号住居跡（1：80）

2　方形周溝墓

1号方形周溝墓［ＳＺ１］（図21）

調査区北半に展開し、竪穴住居群などを開削して造墓される。当初は方形周溝墓と認識できず、溝と土坑として別個に調査を進めていたが、平面図などから同一遺構と判断した。北コーナー部と開口部付近を検出しただけだが、平面形態は１辺の中央に陸橋部を有する、所謂「中央陸橋型」と推定される。方台部の規模は主軸方向で１辺約10.0ｍを測り、周溝幅を含めると13.3ｍと復原される。周溝は断面逆台形を呈し、外周側に比べ方台部側は強い傾斜をもって立ち上がる。遺存状態が比較的良好な北東溝で、溝幅2.3ｍ、底面幅0.8ｍ、深さ約60㎝を測る。既に削平されているためか、方台部上に盛土は残存せず、埋葬施設及び副葬品を確認することはできなかった。主軸方位はＮ41°Ｗを指し、重複する竪穴住居群とともに北西方向を主軸とする。

中期栗林式土器から土師器まで多量の土器片が出土し、覆土下層からは擬凹線文を施した北陸系の壺口縁部片（図63－63）も検出されているが、大半は周溝の埋没過程で混入したものであろう。箱清水式期の竪穴住居を開削することや、溝底に掘え置かれた状態で出土した壺（図63－50）の帰属時期などから判断して、古墳時代前期の所産と想定される。なお、遺構検出時、４号住居跡との重複関係が不明瞭で、上層部分を同時に掘り下げ再確認を行ったため、出土遺物の一部が混在している。

3　溝跡

1号溝［ＳＤ１］（図９）

遺構検出時、西側に接する２号住居跡とともに調査区を横切る大溝と捉えていたが、一段掘り下げたところ、切り合い関係が認められたため別遺構とした。便宜的に、当初の遺構番号のまま１号溝としているが、平面形態や掘り込みの形状から大形土坑と捉えるのが妥当であろう。規模は南北軸で3.2ｍ、深さは約10㎝を測る。

遺物は少量の土器片を伴うだけだが、覆土中より擬凹線文を施した北陸系の壺口縁部片（図63－64）が検出された。なお上記の通り、遺構検出時に誤認したため、２号住居跡の上層出土遺物の一部が混入している。

2号・３号・４号溝［ＳＤ２・３・４］（図９）

調査区南側より、東西方向に平行する溝跡３条を検出した。溝跡は何れも幅約0.3ｍ、深さ10㎝未満の断面Ｕ字形を呈する。２号溝は２号住居跡と重複するが、新旧関係は把握できなかった。形状から畑作に関連する畝状遺構の可能性も考えられるが、判断材料に乏しく可能性を指摘するに止めたい。

各溝とも、出土遺物は土器片数点を伴うに過ぎないが、３号溝からはＳ字状口縁甕口縁部片（図63－51）が検出された。土器以外では、扁平片刃石斧（図83－14）が３号溝覆土から出土している。

５号溝［ＳＤ５］（図９）

調査区南側で検出された、幅0.5ｍ、深さ33㎝程の断面逆台形を呈する溝跡で、３号・６号溝などを切って南北方向に縦走する。出土土器は少量で図示できる資料は検出されず、具体的な帰属時期は不明である。

６号溝［ＳＤ６］（図９）

調査区南側に位置する。幅約0.8ｍ、深さ17㎝を測り、１号性格不明遺構と重複関係にあるが、新旧は不明である。少量の土器片が出土しているだけで、時期比定の明確な根拠となる資料は検出されていない。

７号溝［ＳＤ７］（図10）

調査区北端より検出された、幅0.3ｍ、深さ９㎝程の溝跡で、１号周溝墓の北東溝と直交するように延びる。

少量の土器破片を検出しただけで時期比定の明確な根拠となる資料はないが、併走する８号溝が弥生時代後期に帰属することから、ほぼ同時期の所産と推定される。

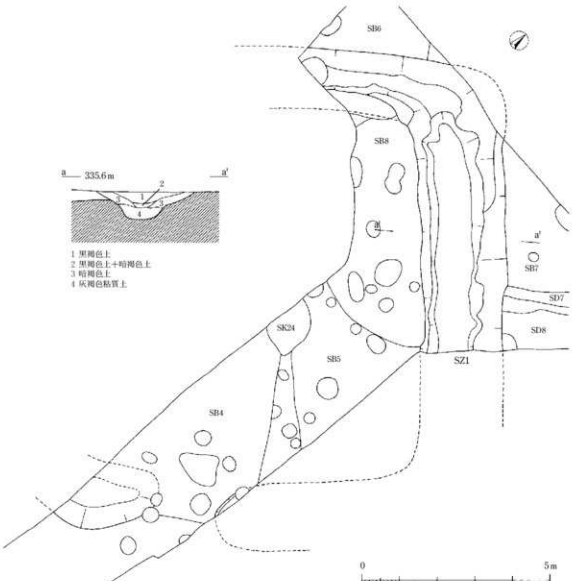


図21　1号方形周溝墓（1：100）

1号方形周溝墓

1号方形周溝墓出土状況

8号溝［ＳＤ８］（図10）

調査区北西端に位置する溝跡で、幅約1.6m、深さ27cmを測る。７号溝とともに７号住居跡を切り、１号周溝墓と直交するように北東方向に延びる。

箱清水式土器を主体とする比較的多量の土器片を伴うものの、小破片が多く図示できる資料はない。

4　土坑・その他

10号土坑［ＳＫ10］（図22）

調査区南側より検出された、規模52×44cmの楕円形を呈する小規模土坑で、遺構確認面からの深さは約38cmを測る。

覆土下層より、箱清水式に比定される高坏と鉢底部片（図63－52・53）が出土している。

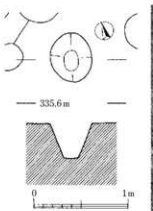


図22　10号土坑（１：40）

10号土坑出土状況

17号土坑［ＳＫ17］（図23）

調査区南端、２号住居跡中より検出した。本来は土坑２基の重複と考えられるが、切り合い関係が不明瞭のため、同時に掘り下げた。

出土土器は少量で、図示できる資料はないが、箱清水式期の所産と想定される。

24号土坑［ＳＫ24］（図24）

調査区中央付近に位置し、４号・５号住居跡を切って掘り込まれる。遺構検出時、切り合い関係を誤認し調査を進めてしまったため、図面上ではやや歪な形態となっているが、本来は整った楕円形を呈するものと思われる。遺構確認面から約１ｍ掘り下げたが、湧水が著しく完掘はしていない。

出土土器は比較的多量であるが、小破片が大半を占める。

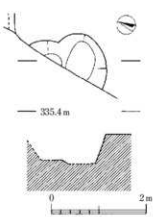


図23　17号土坑（１：80）

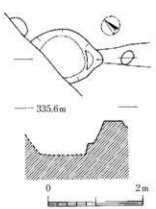


図24　24号土坑（１：80）

第３節　㈱山二小島団地二期工事地点の遺構

１　竪穴住居跡

１号住居跡［ＳＢ１］（図25）

Ａ区西側に位置するが、北隅部の一部を確認するに止まる。竪穴住居とする積極的根拠は希薄だが、床面と思われる平坦で堅く締まった硬化面を有することから住居跡と位置付けた。

出土遺物は少量の土器片のみで、時期比定の明確な根拠となる資料は検出されていない。

２号住居跡［ＳＢ２］（図26）

Ａ区西端にて南東隅部のみを検出した。壁面は垂直に立ち上がり、壁高は南壁で約22㎝を測る。床面は平坦で堅緻な硬化面が形成される。ピット２基を検出しているが、南壁に接するP.２は入口施設に関連した柱穴と推定される。

出土土器の様相から後期箱清水式期の所産と思われる。

３号住居跡［ＳＢ３］（図27）

Ａ区西側に位置する。南隅部のみの検出で、大部分は調査区外に延びる。床面と覚しき平坦な硬化面を有すること以外に、竪穴住居跡とする積極的根拠はない。

箱清水式土器の小破片が少量出土しているだけで、図示できる資料は検出されていない。土器以外では、覆土中より太形蛤刃石斧の未製品（図84－20）が検出された。

４号・５号住居跡［ＳＢ４・５］（図28）

Ａ区中央に位置する。当初、単独の遺構として調査を進めていたが、床面まで掘り下げたところ段差が確認されたことから、竪穴住居２軒の重複と判断した。両住居跡の新旧関係は明らかでなく、出土遺物の分別も不可能となっている。

４号住居跡は、規模4.0×3.6ｍの隅丸長方形を呈する。壁高は

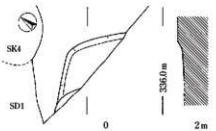


図25　１号住居跡（1：80）

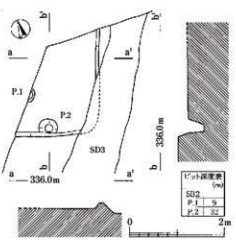


図26　２号住居跡（1：80）

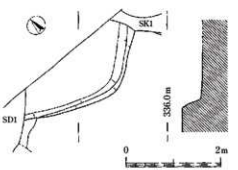


図27　３号住居跡（1：80）

２号住居跡

３号住居跡

20cm前後で、外側に開き気味に立ち上がる。やや凹凸の残る堅く締まった貼床面を確認した。2軒併せて11基のピットを検出しているが、位置関係などからP.1・P.2・P.9・P.11を4号住居跡に伴う4本柱配置の主柱穴、P.10を補助的な柱穴と想定した。炉跡などは検出されていない。なお、北西辺中央付近に被熱痕が確認されたが、本住居跡とは関連ないものと判断した。

5号住居跡は南東壁を確認しただけで、平面形態や規模などは不明である。4号住居跡の床面高とは比高差5cm程で、同様に凹凸の残る硬化面が確認されている。

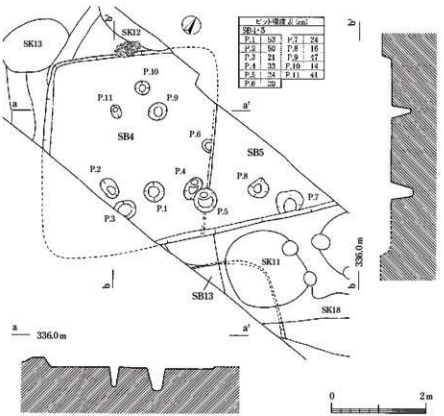


図28　4号・5号・13号住居跡（1：80）

前述の通り、両住居跡は重複関係に気付かないまま床面まで掘り下げてしまったため、遺物は全て4号住

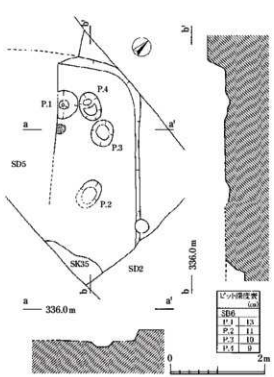


図29　6号住居跡（1：80）

4号・5号住居跡

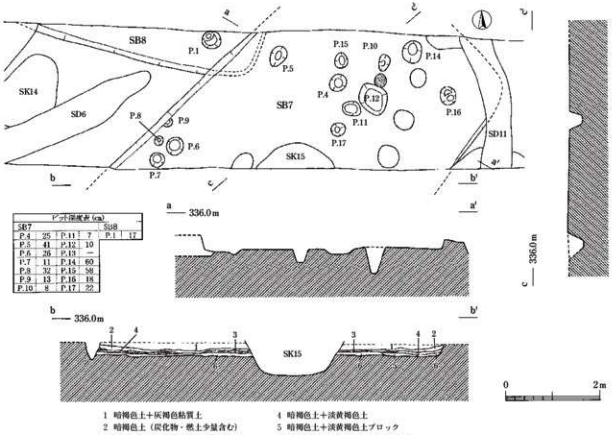
6号住居跡

居跡出土として取り上げている。床面及び床面直上より出土した土器の様相から、４号住居跡は後期箱清水式期の所産と想定されるが、５号住居跡は確実に伴う資料がなく、具体的な帰属時期は特定できない。

６号住居跡［ＳＢ６］（図29）

A区中央付近より検出されるが、２号・５号溝に開削され、北隅部の一部を確認するに止まる。壁高は約30㎝を測る。平坦で堅緻な貼床面が形成され、５号溝との切り合い付近に径22㎝の円形をした地床炉が設けられる。ピット４基を検出したが、何れも深さ10㎝前後と浅く、主柱穴と特定できるものはない。

図示した土師器２点（図64－９・10）を含め、出土遺物の大半は覆土上層からの検出で、床面及び床面直上に伴う遺物はごく少量の土器片に過ぎないが、その様相から本住居跡は箱清水式期の所産と想定される。



ピット深度表（cm）					
SB7				SB8	
P.4	25	P.11	7	P.1	17
P.5	41	P.12	10		
P.6	26	P.13	—		
P.7	11	P.14	60		
P.8	32	P.15	38		
P.9	13	P.16	18		
P.10	8	P.17	22		

図30　７号・８号住居跡（１：80）

７号住居跡

８号住居跡

７号住居跡［ＳＢ７］（図30・31）

A区中央より検出された所謂「焼失住居」である。北東隅を11号溝に切られる上に、北西隅と南半部が調査区外に延びるため全容は把握できないが、短軸約5.1ｍの隅丸長方形を呈するものと思われる。壁高は北西壁中央で23㎝を測り、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。やや凹凸のみられる壁際を除き、平坦で堅く締まった貼床面が形成される。床面直上からは多量の炭化物や焼土塊のほか、僅かではあるが炭化材も検出され、床面及び北西壁面

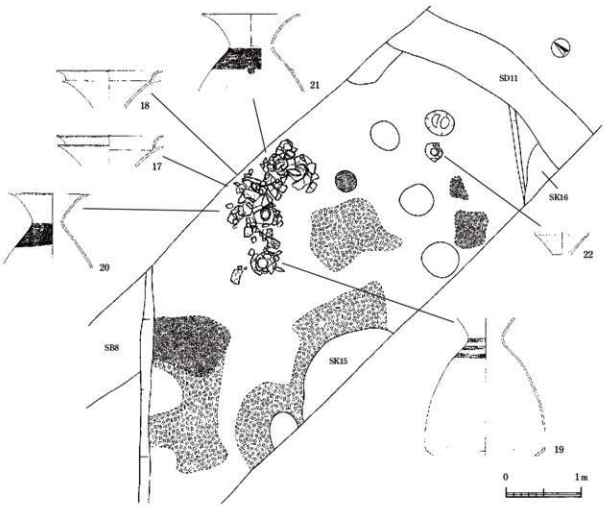


図31　７号住居跡出土状況図（1：50）

７号住居跡遺物炭化物・焼土出土状況

７号住居跡土器出土状況

には部分的に被熱痕が認められる。ピット14基を検出しているが、主柱穴は特定できなかった。なお、P.12は掘り方検出時に確認された床下土坑である。床面中心軸上、P.16より1.2m西側に、径25cm程の円形をした地床炉が設置される。当該地点で検出された竪穴住居は、北西方向を主軸とするものが大半を占めるが、本住居跡の主軸方位はN50°Eと北東方向を指す。

箱清水式土器を中心に多量の土器片が出土している。他の住居跡に比べ、床面及び床面直上に伴う土器が多く、特に炉跡西側の床面上には、幅75cm、長さ2mの範囲に列を成して密集する。土器以外では、床面直上より扁平片刃石斧の未製品（図83－11）が検出された。

8号住居跡［ＳＢ８］（図30）

A区中央に位置する。南東隅部から南辺の一部を確認しているが、大部分は調査区外に位置するため、平面形態や規模など詳細は不明である。壁高は約51cm。平坦な床面からピット1基を検出したが、主柱穴か否かは判断できない。

覆土中より少量の土器片を検出しただけで、床面及び床面直上に伴うものは極めて少ない。具体的な帰属時期を示す資料はないが、箱清水式期に比定される9号・10号住居跡とほぼ主軸を同じくすることから、同時期の住居跡と推定した。

9号住居跡［ＳＢ９］（図32）

A区東端に位置し、10号～12号住居跡を壊して構築される。北西隅部を調査区外のため欠くものの、平面形態は規模6.9×4.8mの隅丸長方形を

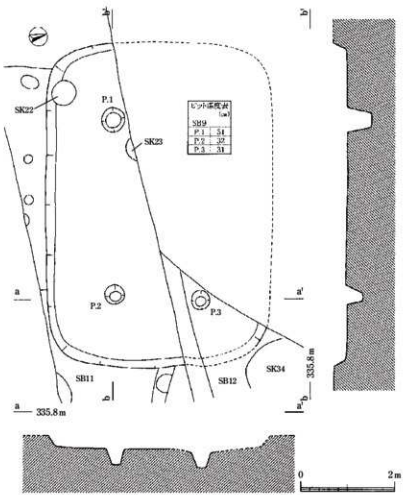


図32　9号住居跡（1：80）

9号住居跡出土状況

9号住居跡

呈する。壁高は比較的遺存状態の良い南西隅部で32cmを測るものの、全体的に掘り込みは浅く、壁面は外側へ開くように立ち上がる。平坦で堅く締まった床面からは、４本柱配置の主柱穴３基（P.１～P.３）が検出された。

覆土の大半が既に削平されているため、出土遺物は少量に止まるが、床面出土の高坏や甕（図64－13・14）などから後期箱清水式期の住居跡と思われる。

10号住居跡［ＳＢ10］（図33）

A区東側に位置する。南西隅を７号住居跡に、北東隅を９号住居跡に切られるなど遺存状態は良くないが、長軸7.5ｍの隅丸長方形を呈するものと思われる。壁高は比較的遺存状態の良好な東壁で約40cmを測る。床面は平坦で堅緻な貼床面を２層確認しているが、上層床面と下層床面では主軸方位に若干のずれが認められる。上層・下層併せてピット14基を検出しているが、位置関係などからP.２・P.11・P.13を上層床面に伴う主柱穴、P.10・P.12を入口施設に関連する土坑と判断した。上層床面中心軸上、奥壁側主柱穴の中間に、規模34×28cmの隋円形をした地床炉が設置され、下層床面でもほぼ同位置より炉跡が検出されている。

多量の土器片が出土しているが、床面及び床面直上出土の土器の様相から箱清水式期の所産と想定される。土器以外では、覆土下層より扁平片刃石斧（図83－18）、床面直上より土製円板（図88－9）が検出された。

11号住居跡［ＳＢ11］（図34）

A区東端より検出される。南半部を調査区外で欠く上に、北西隅を９号住居跡に切られるなど遺存状態は良く

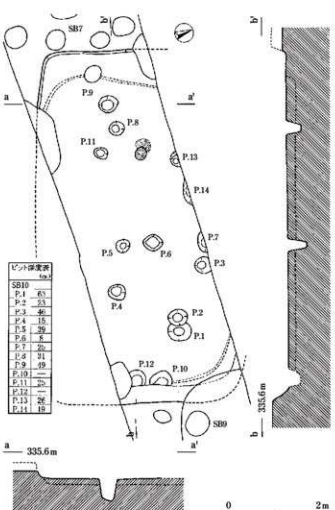


図33　10号住居跡（1：80）

10号住居跡

10号住居跡下層床面検出

ないが、平面形態は長軸約5.8ｍを測る隅丸長方形と復原される。遺構確認面からの掘り込みは約12cmと浅く、明確な硬化面は確認されていない。主柱穴や炉跡など住居内施設も検出されず、本遺構を竪穴住居とする積極的根拠は希薄である。

出土遺物は少量の土器片を検出するに止まり、時期比定の明確な根拠となり得る資料は出土していない。

12号住居跡［ＳＢ12］（図34）

A区とB区の境に位置する。南東半部のみの検出で、９号住居跡や17号土坑に切られるなど遺存状態は良くない。壁高は南隅部で34cmを測り、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦だが脆弱で、明確な硬化面は確認されていない。主柱穴や炉跡など住居内施設も未検出である。

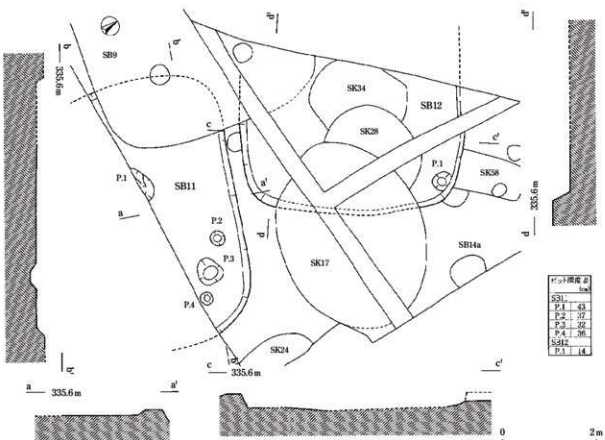


図34　11号・12号住居跡（1：80）

9号・11号・12号住居跡

11号住居跡

出土遺物は比較的多量の土器片が検出されている。床面及び床面直上に伴う遺物は確認されていないが、覆土中層より検出された壺（図67－37）から、弥生時代後期吉田式期の住居跡と想定される。

13号住居跡［ＳＢ13］（図28）

Ａ区中央より北隅部を確認しているが、検出範囲は狭小で遺存状態は極めて劣悪である。住居跡とする根拠は希薄だが、平坦な床面を有することや隣接する４号住居跡と主軸方位を同じくすることから、竪穴住居と位置付けた。少量の土器片を検出しただけで、帰属時期を比定し得る遺物は確認されていない。

14a・14b号住居跡［ＳＢ14a・14b］（図35）

Ｂ区南端に位置する。単独の遺構として調査を進めていたが、床面に段差が確認されたため、住居跡２軒の重複と判断した。14ａ号住居跡は、12号住居跡や17号土坑などに壁面を切られ全容は不明だが、炉跡を中心に円を描くようにピット群が配置されることから、平面形態は円形もしくは楕円形を呈するものと推定される。

14ｂ号住居跡は、東隅部と南東半部を調査区外のため欠くが、短軸3.7ｍの隅丸長方形を呈するものと想定される。壁高は北東壁で約30㎝を測り、壁面はやや外側に開き気味に立ち上がる。床面は平坦で、壁際を除き堅く締

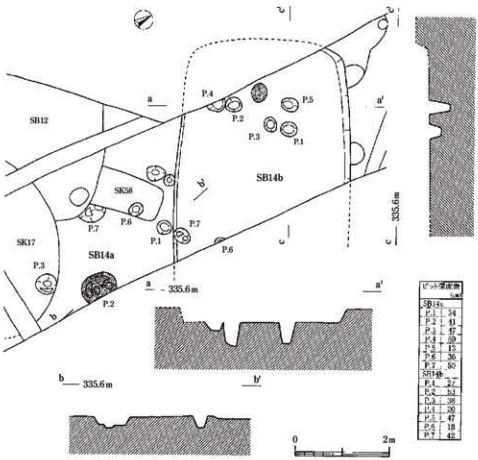
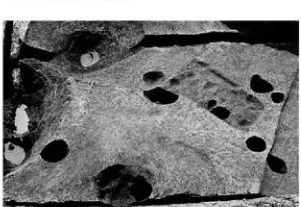


図35　14a・14b号住居跡（1：80）



14a号住居跡

14b号住居跡

まった硬化面が形成される。ピット７基を検出しているが、位置関係や掘り込みの深さなどから、P.２・P.５・P.６を４本柱配置の主柱穴と想定した。炉跡は床面中心軸上、やや奥壁寄りに、規模40×34㎝の楕円形をした地床炉が設置される。

両住居跡の帰属時期だが、14ｂ号住居跡は出土土器の様相から箱清水式期に比定され、14ａ号住居跡は平面形態から栗林式期の所産と推定される。

15号住居跡［ＳＢ15］（図36）

Ｂ区南側より北西隅部のみを検出した。南西壁は階段状に立ち上がり、遺構確認面からの掘り込みは約37㎝を測る。ピット１基を確認しているが、検出範囲が限られ、主柱穴か否かは判断できない。少量の土器片を検出するに止まるが、その様相から箱清水式期に比定できるだろう。

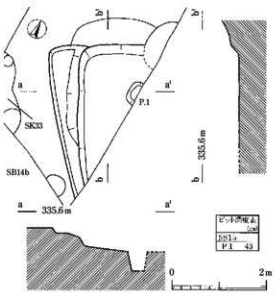


図36　15号住居跡（１：80）

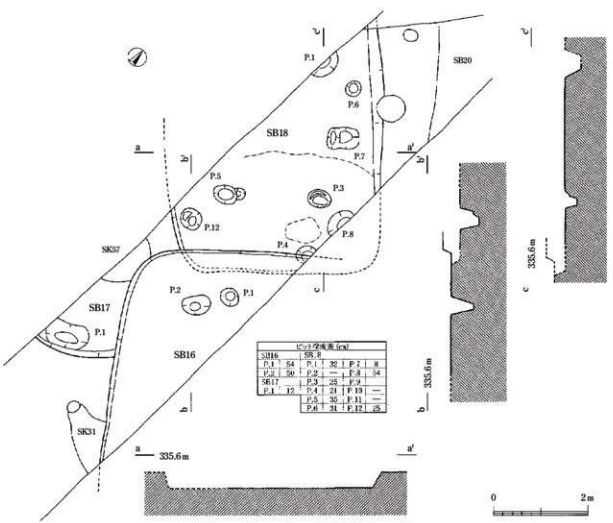


図37　16号・17号・18号住居跡（１：80）

16号住居跡［ＳＢ16］（図37・38）

Ｂ区南側、17号・18号住居跡を壊し構築されるが、小範囲の検出で全容は不明である。壁高は12～19㎝と浅く、壁際を除き平坦な硬化面が形成される。主柱穴１基（P.２）が検出され、底部付近より柱根が確認された。

床面上には、古墳時代後期に比定される土師器壺・高坏・甕（図68－51・52・55～57）などが南西壁に沿うように並ぶ。このほか、床面直上及び覆土下層からは、臼玉38点（図87－1～38）が検出されている。

17号住居跡［ＳＢ17］（図37）

Ｂ区南側より南東辺の一部を検出したが、16号住居跡に切られるなど遺存状態は芳悪で、18号住居跡との重複部分は平面プランが判然としない。竪穴住居とする積極的根拠は皆無だが、便宜的に、調査現場での遺構番号をそのまま用いている。

少量の土器片が出土しているが、その様相から古墳時代中期の所産と想定される。

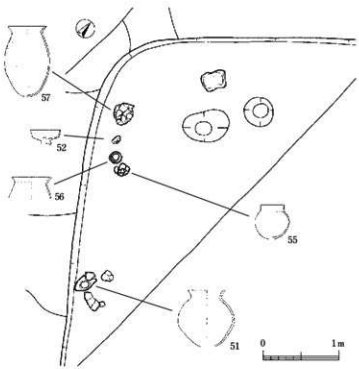
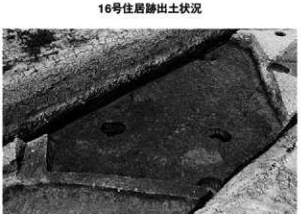


図38　16号住居跡出土状況図（1：50）

16号住居跡床面検出

16号住居跡出土状況

16号住居跡掘り方



18号住居跡

18号住居跡［ＳＢ18］（図37）

Ｂ区中央付近に位置する。南東壁を16号住居跡に切られ、東隅部と北西半部を調査区外で欠くが、平面形態は短軸4.5ｍの隅丸長方形を呈するものと思われる。壁高は北東壁で約16cmを測り、壁面は外側へ開くように立ち上がる。床面は全体的に平坦だが、奥壁側では堅く締まった貼床面が形成されるのに対して、入口側は脆弱で明確な硬化面は確認されていない。４本柱配置の主柱穴３基（P.１・P.３・P.５）を検出した。

比較的多量の土器片が出土しているが、床面及び床面直上に伴うものは極めて少なく、大半は竪穴住居の埋没過程において投棄されたものと推定される。出土土器の様相から、本遺構は後期箱清水式期の所産と思われる。

19号住居跡

［ＳＢ19］（図39）

Ｂ区中央にて北東壁と南東壁の一部を検出した。大半が調査区外に延びるため平面形態は判然としないが、南北軸で約5.0ｍを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は15～20cmを測る。平坦で堅く締まった貼床面が形成される。主柱穴や炉跡など住居内施設は確認されていない。

出土遺物は少量の土器片のみで、図示し得る資料は検出されていないが、切り合い関係などから弥生時代後期の住居跡と想定される。

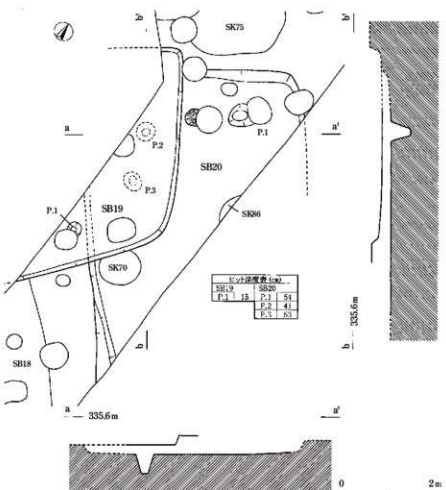


図39　19号・20号住居跡（1：80）

19号住居跡

20号住居跡

20号住居跡［ＳＢ20］（図39）

Ｂ区中央に位置する。西隅部を19号住居跡に切られ、南東半部を調査区外で欠くなど遺存状態は良くないが、短軸約4.8ｍの隅丸長方形を呈するものと思われる。遺構確認面からの掘り込みは北西壁で約27㎝を測り、平坦で堅緻な貼床面が確認された。主柱穴２基（P.１・P.２）が検出され、床面中心軸上、奥壁寄りに、短軸38㎝程の楕円形をした地床炉が設置される。

出土遺物は、箱清水式土器や土師器の小破片を少量検出しただけだが、床面直上出土の高坏（図69－67）などから、後期箱清水式期の住居跡と想定される。

21号住居跡［ＳＢ21］（図40）

Ｂ区北側にて西半部を確認した。平面形態は１辺約3.5ｍの隅丸方形と復原される。遺構確認面からの掘り込みは４～18㎝と浅く、壁面は緩やかに立ち上がる。床面は凹凸が残り、明確な硬化面は確認されない。本遺構を竪穴住居とする積極的根拠は皆無であり、大形土坑と捉えるのが妥当であろう。

出土遺物は土師器の小破片を主体とするが、覆土下層から古墳時代中期の坏（図69－71）が完形状態で出土している。

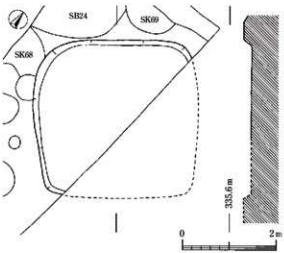
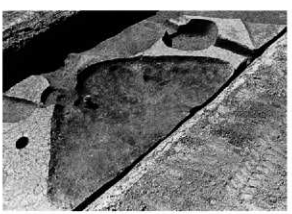


図40　21号住居跡（１：80）


21号住居跡

22号住居跡［ＳＢ22］（図41）

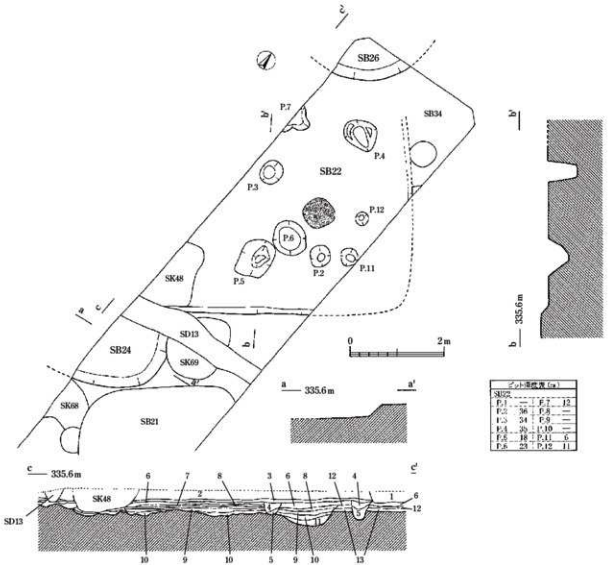
Ｂ区北端より検出されたが、26号住居跡や48号土坑などに切られる上に、34号住居跡と重複する北東壁が判然としないため、平面形態や規模など詳細は明らかでない。壁高は南東壁で約35㎝を測り、平坦で堅緻な貼床面が確認される。ピット数基を検出しているが、主柱穴を特定することはできなかった。床面中心軸から大きく外れた南東隅部寄りの床面上に、１辺約62㎝の隅丸方形を呈する酸化被熱痕を確認した。

北陸系の甕口縁部片（図69－75）を含む多量の土器片が出土しているが、床面及び床面直上出土の土器の様相から、本住居跡は弥生時代後期～古墳時代前期の所産と思われる。土器以外では、床面より石包丁（図83－4）、P.５覆土中より土製勾玉１点（図88－6）を検出した。

23号・25号住居跡［ＳＢ23・25］（図42）

Ｂ区中央付近に位置する。竪穴住居４軒（ＳＢ23・25・32・36）と土坑数基が複雑に切り合うが、重複部分の平面プランが不明瞭なため、同時に掘り下げ調査を進めた。新旧関係は土層断面などから、32号→36号→23号→25号住居跡の順に構築されたことが看取される。23号住居跡は、小範囲の検出に止まるため全容は明らかでないが、隅丸長方形を呈するものと推定される。遺構確認面からの掘り込みは約20㎝。平坦で堅く締まった硬化面が形成され、床面上には炭化材及び炭化物・焼土の堆積が認められた。検出されたピット５基のうち、P.２を主柱穴と判断した。また、P.２の約65㎝西側には、径40㎝程の地床炉が設置される。

25号住居跡も、71号土坑や２号性格不明遺構に切られるなど遺存状態は良くないが、短軸5.4ｍ程の隅丸長方形を呈するものと思われる。壁高は南西壁で約27㎝を測る。床面は平坦で堅緻な硬化面が確認されるが、23号住



ピット深度(cm)			
SB22			
P.1	—	P.7	12
P.2	36	P.8	—
P.3	34	P.9	—
P.4	20	P.10	—
P.5	18	P.11	6
P.6	23	P.12	11

S B 26
1 暗褐色土

S B 22
2 暗褐色土＋灰褐色粘質土
3 暗褐色土＋淡黄褐色土粒
4 暗褐色土＋淡黄褐色土
5 黒褐色粘質土
6 暗褐色土＋淡黄褐色土（貼床土）

S B 33
7 暗褐色土
8 暗褐色土＋淡黄褐色土（土層貼床土）
9 淡黄褐色土＋暗褐色土（下層貼床土）
10 黒褐色粘質土＋暗褐色土
11 灰褐色粘質土

S B 34
12 暗褐色土＋淡黄褐色土（貼床土）
13 淡黄褐色土＋暗褐色土（貼床土）

図41　22号・24号・26号住居跡（1：80）

22号住居跡

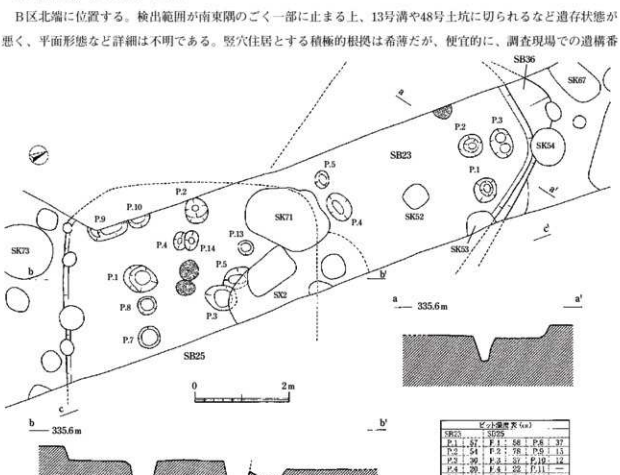
22号住居跡貼床除去

居跡床面との比高差は認められない。ピット11基を検出しているが、P.1・P.5を主柱穴、P.2を補助的な柱穴と位置付けた。主柱穴間中央より楕円形をした地床炉2基を検出しているが、床面中央側が古く、奥壁側が新たに設置された炉跡である。

前述の通り、重複関係が不明瞭であったため、25号住居跡の覆土上層遺物の一部が、23号住居跡出土遺物に混入している。23号住居跡が多量の土器片を伴うのに対して、25号住居跡は少量で図示し得る資料もないが、両住居跡とも床面及び床面直上出土の土器から、帰属時期は箱清水式期に比定できるだろう。土器以外では、23号住居跡の床面直上より太形蛤刃石斧（図84－19）、覆土下層より磨製石鏃（図83－3）が出土している。

24号住居跡［ＳＢ24］（図41）

B区北端に位置する。検出範囲が南東隅のごく一部に止まる上、13号溝や48号土坑に切られるなど遺存状態が悪く、平面形態など詳細は不明である。竪穴住居とする積極的根拠は希薄だが、便宜的に、調査現場での遺構番



ピット深度 (cm)					
SB23		SD75			
P.1	67	P.1	58	P.8	37
P.2	54	P.2	78	P.9	13
P.3	39	P.3	37	P.10	12
P.4	20	P.4	22	P.11	—
P.5	20	P.5	58	P.12	—
		P.6	—	P.13	6
		P.7	11	P.14	8

1 暗褐色土＋灰褐色粘質土
2 暗褐色土
3 暗褐色土＋淡黄褐色土ブロック
ＳＸ２
4 暗褐色土＋灰褐色粘質土
5 暗褐色土
6 暗褐色土（焼土粒含む）
7 淡黄褐色土＋暗褐色土
ＳＢ25
8 暗褐色土＋灰褐色粘質土
9 暗褐色土＋淡黄褐色土粒（焼土粒含む）
10 淡黄褐色土
11 暗褐色土＋淡黄褐色土
12 暗褐色土
13 暗褐色土＋淡黄褐色土ブロック
ＳＢ23
14 暗褐色土＋灰褐色粘質土
15 暗褐色土（炭化物・焼土粒多量含む）
16 暗褐色土（焼土粒含む）
ＳＢ36
17 灰褐色粘質土＋淡黄褐色土ブロック
18 淡黄褐色土＋灰褐色粘質土
19 淡黄褐色土
ＳＢ32
20 灰褐色粘質土＋暗褐色土
21 灰褐色粘質土＋淡黄褐色土ブロック
22 灰褐色粘質土＋淡黄褐色土

図42　23号・25号・36号住居跡（1：80）

23号・25号住居跡

23号住居跡炭化物出土状況

25号住居跡

25号住居跡貼床除去

号をそのまま用いている。

出土遺物は少量の土器片だけで、具体的な帰属時期を比定し得る資料は検出されていない。

26号住居跡［ＳＢ26］（図41）

B区北端より南東隅の一部を確認しているが、小範囲の検出に止まるため全容は不明である。平坦な硬化面が検出されたこと以外に、竪穴住居とする明確な根拠は確認されていない。

帰属時期を比定し得る遺物は検出されていないが、遺構検出時の所見並に土層断面観察では、本遺構は弥生時代後期～古墳時代前期の所産である22号住居跡に後出する住居跡と位置付けられる。

27号住居跡［ＳＢ27］（図43）

B区とC区の境に位置する。南隅部と北隅部が調査区外に延びるため未検出だが、平面形態は規模5.0×3.9ｍの隅丸長方形と復原される。壁高は南西壁で約32㎝を測る。床面はやや凹凸が残り、明確な硬化面は確認されていない。ピット１基を検出したが、掘り込みも浅く主柱穴か否かは判然としない。

床面直上から出土した高坏（図70－82・83）などから、本住居跡は後期箱清水式期の所産と想定される。

28号住居跡［ＳＢ28］（図44）

C区西側より検出されるが、重複関係が複雑で遺存状態は良くない。28号溝に北西壁を開削されるため長軸は計測できないが、短軸約6.2ｍの隅丸長方形を呈するものと推定される。壁高は15㎝前後と浅く、平坦で堅く締まった床面が形成される。ピット３基を検出しているが、位置関係などからP.３を主柱穴と想定した。床面中心軸上、南東壁より約80㎝内側に酸化被熱痕を確認した。主軸方位はＳ43°Ｅを指し、当該地点においては、唯一南東方向を主軸とする竪穴住居である。

土師器を中心に多量の土器片が出土しているが、P.1西脇の床面上より検出された小形丸底壺（図70−91）など、床面及び床面直上出土の土器の様相から、本住居跡は古墳時代中期の所産と想定される。土器以外では、覆土中より臼玉2点（図87−39・40）を検出した。

29号住居跡［ＳＢ29］（図43）

C区東端より南西壁の一部を検出したが、27号・30号住居跡に切られるなど遺存状態は劣悪で、平面形態や規模など全容は明らかでない。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は約26cmを測る。床面は全体的に凹凸がみられるものの、堅く締まった硬化面が形成される。主柱穴や炉跡など住居内施設は確認されていない。

床面上より出土した甕（図71−97）などから、後期箱清水式期の住居跡と考えられる。

27号・29号住居跡

30号・31号住居跡［ＳＢ30・31］（図45）

C区中央に位置する。当初、単独の遺構として掘り下げていたが、南西辺に段差が確認されたため遺構番号を別にした。但し、31号住居跡を独立した竪穴住居とする積極的根拠は希薄であり、30号住居跡に付随する施設の可能性が考えられる。30号住居跡は検出範囲が限られ詳細は不明である。遺構確認面からの掘り込みは南東壁で約30cmを測り、壁面は外側に開き気味に立ち上がる。床面は平坦な硬化面が確認された。遺構の全容が明らかでないため断定はで

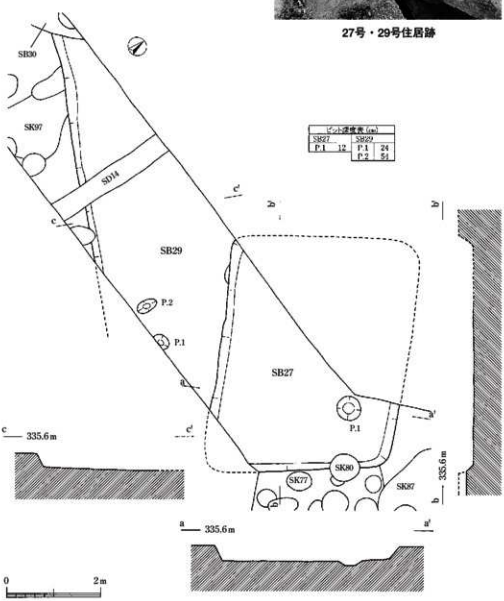


図43　27号・29号住居跡（1：80）

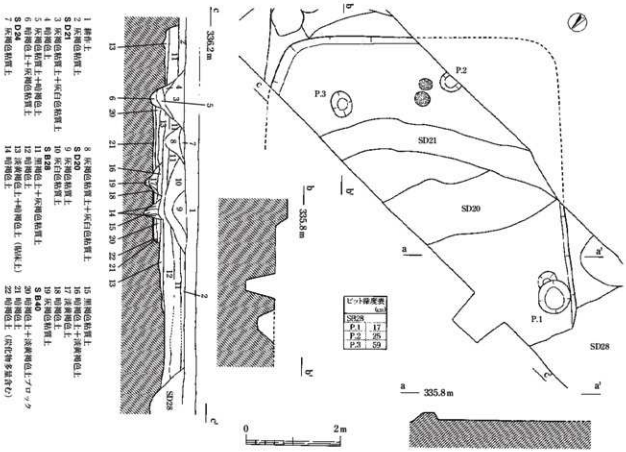


図44　28号住居跡（1：80）

28号住居跡

28号住居跡床面検出

28号住居跡出土状況

28号住居跡出土状況

きないが、検出されたピット４基のうち、P.２を主柱穴、南東壁に接するP.１とP.３を入口施設に関連する柱穴と位置付けた。南西壁際の床面上に被熱痕を確認した。

前述の通り、遺構検出時に重複関係を把握できなかったため、31号住居跡出土とすべき遺物の大半が、30号住居跡出土遺物に混入している。比較的多量の土器片が出土しており、30号住居跡の床面上からは、東海系と思われる高坏（図71－101）も検出されている。出土土器の様相から本住居跡は後期箱清水式期の所産と想定される。

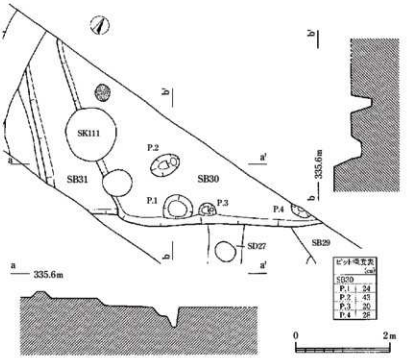


図45　30号・31号住居跡（１：80）

32号住居跡［ＳＢ32］（図46）

Ｂ区中央に位置する。23号住居跡などに切られ遺存状態は良くないが、平面形態は規模4.4×3.9ｍの楕円形を呈する。壁高は、僅かに残存する北東壁で約39㎝を測る。床面はやや凹凸がみられるものの、北西壁付近を除いて、堅く締まった硬化面が形成される。北東壁及び南壁際を断面Ｕ字形の壁溝が絶続的に巡り、床面

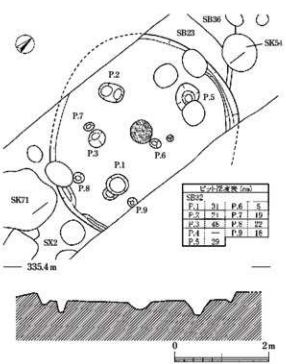


図46　32号住居跡（１：80）

30号・31号住居跡

32号住居跡

中央には、径48cm程の円形をした地床炉が設置される。主柱穴は４本柱もしくは６本柱配置と推定され、位置関係や規模などから、P.１～P.３・P.５がこれに該当するものと思われる。

23号住居跡などに覆土の大半を削平されるため、出土遺物は極めて少なく、具体的な帰属時期の根拠となり得る資料も検出されていないが、切り合い関係や平面形態から中期栗林式期の住居跡と推定される。

33号住居跡［ＳＢ33］（図47）

Ｂ区北端にて検出された。上層に位置する22号住居跡の床面を精査した際に平面プランを確認したが、東隅部の一部を検出しただけで、平面形態や規模など詳細は明らかでない。平坦で堅緻な貼床面を２層確認しているが、主柱穴や炉跡など住居内施設は検出されていない。

検出範囲が限られる上に覆土の大半が削平されるため、出土遺物は少量の土器片を検出するに止まる。具体的な帰属時期を比定し得る資料はないが、切り合い関係などから弥生時代後期の所産と推定される。

34号住居跡［ＳＢ34］（図47）

Ｂ区北端より南東壁の一部を検出しているが、22号・33号住居跡に切られるなど重複関係が複雑で、遺存状態は良くない。遺構確認面からの掘り込みは約23cmを測り、平坦で堅く締まった貼床面が２層形成される。検出範囲の北西端部より、短径約56cmの楕円形をした地床炉が確認された。ピット４基を検出したが、主柱穴と特定できるものはなかった。

床面直上から出土した壺・甕（図72－107～110）などから、本住居跡は中期栗林式期の所産と思われる。土器以外では、床面直上より扁平片刃石斧（図83－15）が検出されている。

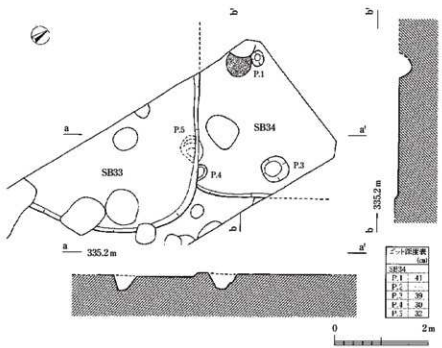


図47　33号・34号住居跡（１：80）

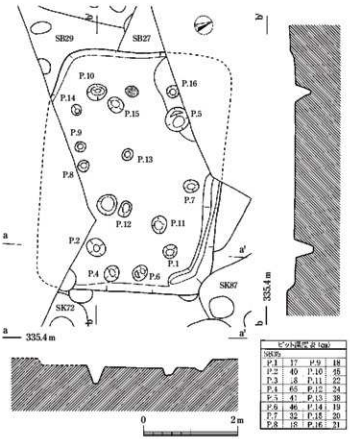
33号住居跡掘り方

34号住居跡

35号住居跡［ＳＢ35］（図48）

C区東端、B区との境に位置するが、北西隅と南東隅を調査区外で欠く上に、重複する27号・29号住居跡に覆土の大半を削平されるなど遺存状態は良くない。規模5.1×3.8ｍの隅丸長方形を呈する。壁高は南東壁で約22㎝を測り、床面は凹凸が残るものの、堅緻な貼床面が形成される。床面中心軸上、奥壁寄りに規模30×25㎝程の楕円形をした地床炉が設置され、北東壁から東隅部にかけて、断面U字形の壁溝が確認された。主柱穴は４本柱配置で、P.１・P.２・P.５・P.10をこれに該当するものとし、南東壁に接するP.４とP.６を入口施設に関連する柱穴と位置付けた。

出土遺物は、弥生時代後期を主体とする土器片を少量検出した。なお、図示した有孔鉢（図71－106）は本住居跡の床面直上より出土となっているが、出土状況から判断して、重複する27号住居跡に伴う可能性が高い。



ピット規模 単位(cm)			
SB35			
P.1	37	P.9	18
P.2	40	P.10	55
P.3	8	P.11	22
P.4	65	P.12	24
P.5	41	P.13	38
P.6	46	P.14	19
P.7	32	P.15	20
P.8	15	P.16	21

図48　35号住居跡（1：80）

36号住居跡［ＳＢ36］（図42）

B区中央に位置するが、23号住居跡などに切られ、北隅部の一部を確認したに過ぎない。詳細は不明で、竪穴住居とする積極的根拠は皆無だが、便宜的に調査現場での遺構番号をそのまま用いる。出土遺物も、本遺構に確実に伴うものは確認されていない。

35号住居跡

37号・38号住居跡［ＳＢ37・38］（図49）

C区中央より検出された両住居跡は、重複部分の平面プランが判然としないため数回に渡って精査を繰り返したが、調査現場では判断がつかず、整理段階で遺構平面図や土層断面図などを照らし合わせ、平面形態の復原を行った。新旧関係は、37号住居跡を壊して38号住居跡が構築される。38号住居跡は南西壁の一部を検出しただけで全容は明らかでないが、遺構確認面からの掘り込みは約36㎝を測り、平坦で堅緻な貼床面が確認された。一方、37号住居跡も遺存状態は良くないが、平面形態は隅丸長方形を呈するものと思われる。壁高は南東壁で約38㎝を測り、平坦で堅く締まった貼床面が確認された。ピット５基を検出しているが、P.３～P.５を４本柱配置の主柱穴、P.１・P.２を入口施設に関連する柱穴と想定した。P.５の北脇より、径40㎝程の円形をした地床炉が検出された。

上記の通り、重複範囲が判然としなかったため出土遺物の一部が混在しているものの、その様相から両住居跡は後期箱清水式期の所産と想定される。なお、38号住居跡の覆土上層より、口縁部に擬凹線文を施した北陸系小形壺（図73－124）が出土している。

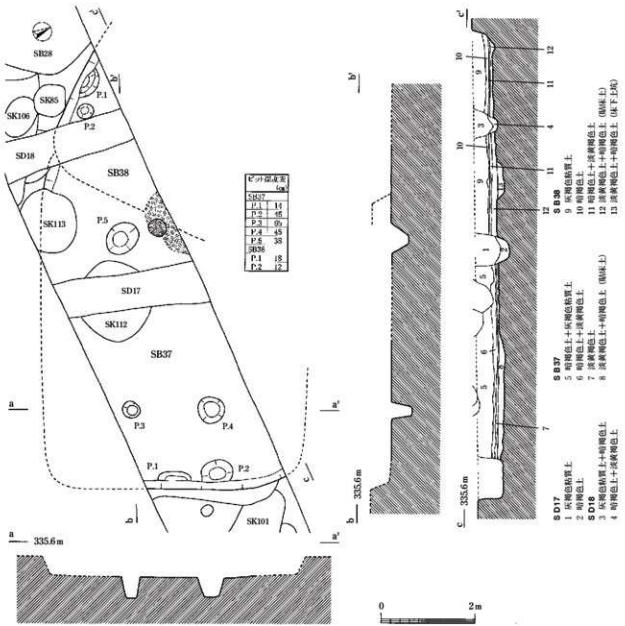


図49　37号・38号住居跡（1：80）

37号・38号住居跡掘り下げ

37号・38号住居跡

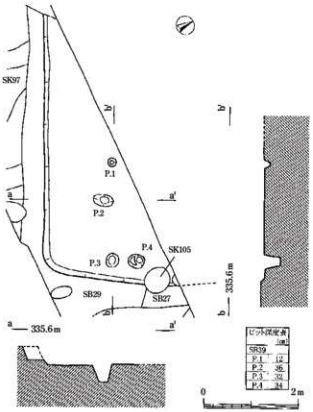


図50　39号住居跡（1：80）

39号住居跡

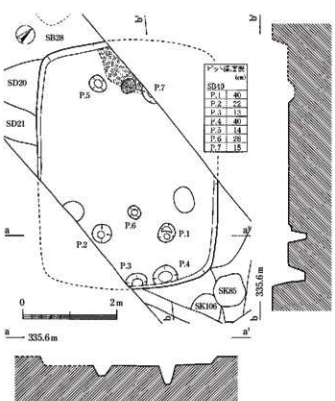


図51　40号住居跡（1：80）

40号住居跡

40号住居跡炉跡

39号住居跡［ＳＢ39］（図50）

C区東端に位置する。29号住居跡の床面を精査した際に平面プランを確認した。南東隅付近を検出しただけで遺存状態は良くないが、平面形態は隅丸長方形を呈するものと思われる。床面は平坦な硬化面が形成される。検出されたピット５基のうち、P.２を主柱穴、P.３・P.４を入口施設に付随する柱穴と想定した。重複する29号住居跡とは、床面高に殆ど比高差がなく主軸方位も揃うことから、平面プランの拡張の可能性も考えられる。

上層に位置する29号住居跡に覆土の大半を削平されるため、出土遺物は極めて少なく、具体的な帰属時期を比定し得る資料は検出されていない。

40号住居跡［ＳＢ40］（図51）

C区西側より検出されるが、28号住居跡や20号・21号溝などに切られ、遺存状態は良くない。平面形態は規模5.3×3.8ｍの隅丸長方形を呈する。遺構確認面からの深さは東隅部で41㎝を測り、床面は平坦で堅緻な硬化面が形成される。４本柱配置の主柱穴４基（P.１・P.２・P.５・P.７）と、入口施設に関連する柱穴２基（P.３・P.４）を検出した。床面中心軸上、奥壁側主柱穴の中間には、径32㎝程の円形をした地床炉が設置され、炉跡から奥壁際にかけて炭化物の堆積が認められる。

覆土の上半を28号住居跡に削平されるため、出土遺物は多くないが、床面及び床面直上より出土した土器の様相から、弥生時代後期吉田式期～箱清水式期の所産と想定される。

２　掘立柱建物跡

１号建物跡［ＳＴ１］（図52）

B区中央に位置する。東隅部は調査区外に延びるため未検出だが、桁行5.5ｍ、梁行4.6ｍを測る６間×５間の掘立柱建物跡で、19号・20号・25号・35号住居跡などを切って構築される。柱穴16基を検出しているが、柱痕などを確認することはできなかった。柱穴掘り方の平面形態は円形もしくは楕円形、断面形態はＵ字形や逆台形を呈し、遺構確認面からの深さ23～57㎝を測る。柱間距離は均等でなく、桁行で74～124㎝、梁行で90～106㎝とばらつきがみられる。主軸方位はＮ45°Ｅを指す。

少量の土師器片を検出しただけで、帰属時期を比定し得る遺物は皆無に近いが、切り合い関係や遺構の位置関係などから古墳時代後期の建物跡と推定した。

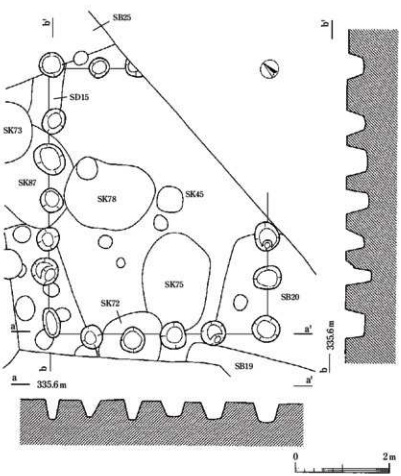


図52　１号掘立柱建物跡（１：80）

1号建物跡（北東から）

1号建物跡（南から）

2号建物跡［ＳＴ２］（図53）

B区中央、1号建物跡の南側に主軸を揃えるように隣接する。柱穴3基を検出しただけで、大部分は調査区外に位置するため、柱間数や桁行・梁行など詳細は明らかでない。柱穴掘り方の平面形態は楕円形、断面形態はU字形を呈し、遺構確認面からの深さ約50cmを測る。柱間距離は南東側柱穴列で118cm、北東側柱穴列で180cmである。1号建物跡と同じく北東方向を主軸とし、N53°Eを指すものと思われる。

出土遺物は土器片数点を検出しただけで、図示し得る資料はない。1号建物跡と柱穴覆土を同じくすることや、主軸を揃えて隣接することなどから、同様に古墳時代後期の建物跡と推定される。

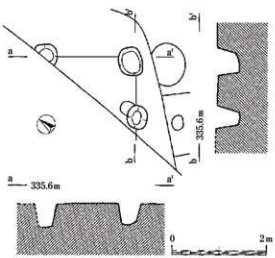


図53　2号掘立柱建物跡（1：80）

3　方形周溝墓

1号方形周溝墓［ＳＺ１］（図54）

A区中央に位置するが、調査区幅が狭く、南東コーナー部の一部を確認したに過ぎない。2号・5号溝に切られる上に、6号住居跡との境が判然としないなど遺存状態は劣悪で、平面形態や規模など全容は明らかでない。周溝幅は東溝で約1.8m、底面幅約0.6m、深さ34～45cmを測る。調査区南壁の土層断面には、陸橋部と覚しき立ち上がりが認められることから、ガーデンパーク小島地点1号方形周溝墓と同様、平面形態は1辺の中央に開口部を有する「中央陸橋型」の可能性も考えられるが、現時点では推測の域を出ない。

出土遺物は少量の土器片を検出するに止まるが、覆土下層から出土した壺・脚台（図74－132・134）などから、本遺構の帰属時期は、ガーデンパーク小島地点1号周溝墓と同じく、古墳時代前期に比定できるだろう。

4　溝跡

1号溝［ＳＤ１］（図55）

A区西端より検出された、北東から南西方向にかけて延びる幅広の溝跡である。幅約5.6m、遺構確認面からの深さ54cmを測り、底面にはなだらかな平坦面が形成される。位置関係や覆土の堆積状況などから、C区西端に位置する25号溝に延伸するものと推定される。

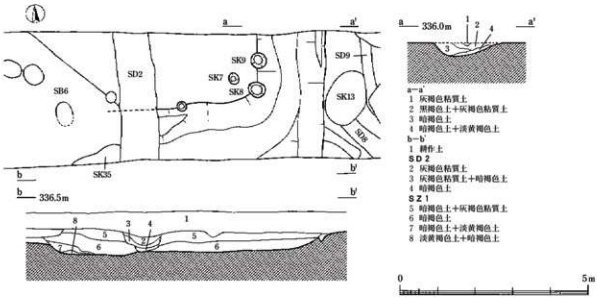


図54　1号方形周溝墓（1：100）

1号方形周溝墓（北東から）

1号方形周溝墓（南東から）

出土遺物は、栗林式土器から須恵器まで多量の土器片が検出されているが、その様相から本溝跡は奈良時代の所産と思われる。

2号溝［ＳＤ２］（図12）

A区中央付近より検出された、幅1.0m、深さ54cm程の溝跡で、逆凸字状に2段に掘り込まれる。6号住居跡や1号方形周溝墓を開削し、南北方向へ直線的に延びる。C区で検出された溝跡に延伸するものと思われるが、どの溝跡と接続するかは特定できない。

出土遺物は少量の土器片を伴うだけだが、その様相から奈良時代の溝跡と判断した。

3号溝［ＳＤ３］（図55）

A区西端に位置する。最大幅1.1m、深さ24cmを測り、断面形態はやや凹凸の残るレンズ形を呈する。1号溝に併走するように、北東から南西方向に延びる。当初、1号溝と一連の遺構として調査を進めていたが、土層断面から後出する溝跡と判断した。1号溝と同様、C区西端に延伸するものと思われる。

出土遺物の大半を1号溝に伴うものとして取り上げてしまったが、覆土下層より伏せ置かれた状態で出土した須恵器高台坏（図74－145）などから、奈良時代の溝跡と位置付けた。

4号溝［ＳＤ４］（図55）

A区西端より検出された、幅0.5ｍ、深さ49㎝程の断面Ｕ字形を呈する溝跡で、１号溝を切って北東から南東方向に延びる。出土遺物は少量の土器片を検出しただけで、図示できる資料は確認されていない。

5号溝［ＳＤ５］（図11・12）

A区西側に位置する。底面になだらかな平坦面を有する断面逆台形をした溝跡で、最大幅3.3ｍ、深さ54㎝を測る。検出範囲が限られているため全容は不明だが北西から南東方向にかけて延びる。３号・６号住居跡を開削し、１号土坑に切られるなど重複関係は複雑である。

土師器を中心に比較的多量の土器片が検出されているが、覆土下層出土の土器の様相から、弥生時代後期～古墳時代前期の溝跡と考えられる。

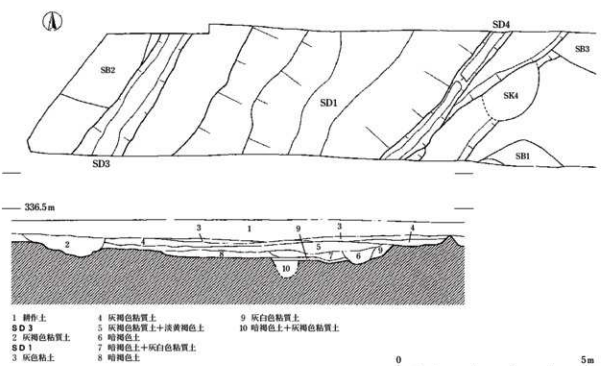


図55　１号・3号・4号溝（1：100）

１号・3号・4号溝

１号溝（北東から）

6号溝［ＳＤ６］（図12）

A区中央にて検出された。幅0.8ｍ、深さ７㎝程の浅い溝跡で、断面逆台形を呈する。８号住居跡の南側から南西方向に延びる。出土遺物は少量の土器片を検出しただけで、具体的な帰属時期は不明である。

11号溝［ＳＤ11］（図12）

A区東側より検出された、幅約0.6ｍ、深さ36㎝、断面U字形の溝跡である。７号・10号住居跡などを開削し、南北方向にやや弧を描いて延びる。位置関係や覆土の堆積状況が類似することから、C区検出の16号溝に接続するものと推定される。

比較的多量の土器片を検出したが、具体的な帰属時期を比定し得る資料は確認されていない。

12号・14号溝［ＳＤ12・14］（図12・15）

A区東側より検出された12号溝とC区東側検出の14号溝は、ともに断面U字形を呈する幅0.5ｍ程の溝跡で、遺構確認面からの深さは12号溝が11～22㎝、14号溝が約11㎝を測る。位置関係や覆土の堆積状況が類似することなどから、12号溝と14号溝は南北方向に延伸し接続する、同一遺構と判断した。

両溝跡とも少量の土器片を伴うだけで、帰属時期を比定する明確な根拠となる資料は検出されてない。

13号溝［ＳＤ13］（図15）

B区北側に位置する。最大幅0.6ｍ、深さ21～34㎝を測る、断面U字形の溝跡で、22号・24号住居跡などを開削し、東西方向に延びる。少量の土器片を検出するに止まり、具体的な帰属時期は明らかでない。

15号溝［ＳＤ15］（図14）

B区中央に位置する。幅0.7ｍ、深さ12㎝程の、断面半円形をした溝跡だが、25号住居跡や１号建物跡、87号土坑に切られるなど遺存状態は良くない。少量の土器片を検出したが、具体的な帰属時期は明らかでない。

16号溝［ＳＤ16］（図16）

C区東側に位置する。幅約0.7ｍ、深さ24～35㎝、断面U字形の溝跡で、30号・31号住居跡などを開削し、南北方向に直線的に延びる。位置関係や覆土堆積状況などから、A区検出の11号溝に接続するものと推定される。

少量の土器片を検出するに止まるが、その様相から古墳時代後期の所産と想定される。

17号溝［ＳＤ17］（図16）

C区中央付近に位置する。幅0.8ｍ、深さ38㎝程の、断面U字形をした溝跡で、37号住居跡などを開削し、南北方向に直線的に延びる。

出土遺物は少量の土器片だけで、帰属時期を比定する明確な根拠となる資料は確認されていない。

18号溝［ＳＤ18］（図16）

C区中央付近にて検出された、幅0.8ｍ、深さ29㎝程の、断面U字形をした溝跡である。37号・38号住居跡などを開削し、17号溝と併走するように南北方向に直線的に延びる。

少量の土器片を検出するに止まり、具体的な帰属時期は明らかでない。

20号溝［ＳＤ20］（図16）

C区西側より検出された溝跡で、最大幅1.3ｍ、遺構確認面からの深さ約24㎝を測り、断面レンズ形を呈する。北東から南西方向へ、やや蛇行しながら延びる。28号・40号住居跡を開削し、21号溝に切られる。

比較的多量の土器片を伴うが、図示し得る資料は検出されていない。出土遺物の様相や覆土堆積状況から、帰属時期は奈良時代に比定できるだろう。

21号溝［ＳＤ21］（図16）

C区西側より検出された、幅0.6ｍ、深さ31㎝程の、断面U字形をした溝跡である。28号・40号住居跡や20号

溝などを開削し、北東から南西方向にかけて弧を描きながら延びる。

帰属時期を比定し得る遺物は検出されていないが、切り合い関係などから奈良時代の所産と判断した。

24号溝［ＳＤ24］（図16）

Ｃ区西側に位置する。幅約0.5ｍ、深さ14㎝を測る、断面Ｖ字形の溝跡で、南北方向に直線的に延びる。

少量の土器片を伴うだけだが、切り合い関係や覆土堆積状況などから、奈良時代の溝跡と想定される。

25号溝［ＳＤ25］（図16）

Ｃ区西端にて検出された。西壁が調査区外に位置するため溝幅は不明だが、遺構確認面からの深さは約31㎝を測り、断面レンズ形を呈するものと思われる。北東から南西方向にかけて直線的に延びるが、位置関係や覆土堆積状況などから、Ａ区西端検出の１号溝に接続するものと位置付けた。

比較的多量の土器片が検出されているが、図示できる資料は確認されていない。出土土器の様相から奈良時代の所産と想定される。

28号溝［ＳＤ28］（図16）

Ｃ区西端に位置する。最大幅2.2ｍ、遺構確認面からの深さ16－25㎝を測る。断面逆台形を呈するが、底面には若干凹凸が残る。28号住居跡を開削し、29号溝と併走するように北東から南西方向へ直線的に延びる。

土師器や須恵器を中心に多量の土器片が出土しており、その様相から本溝跡は奈良時代の所産と思われる。

29号溝［ＳＤ29］（図16）

Ｃ区西端に位置し、25号溝と28号溝に挟まれるように北東から南西方向へ併走する。幅約0.9ｍ、深さ13㎝を測る、断面逆台形の溝跡である。具体的な帰属時期を比定し得る遺物は検出されていないが、併走する25号・28号溝と同じく奈良時代の溝跡と位置付けた。

5　土坑・その他

３号・５号土坑［ＳＫ３・５］（図58）

Ａ区西側より検出された土坑で、ともに５号溝に北東半部を切られる。３号土坑は南端部が調査区外に位置するが、径1.3ｍ程の円形を呈するものと思われる。遺構確認面からの深さは82㎝を測る。５号土坑は長径1.8ｍ、推定短径1.5ｍを測る不整楕円形で、掘り込みの深さは84㎝、断面逆台形を呈する。

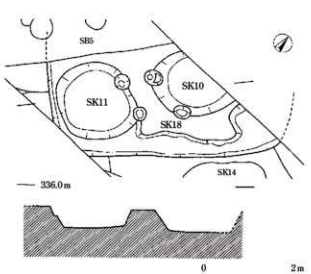


図56　10号・11号・18号土坑（1：80）

10号・11号・18号土坑

3号土坑は、底部付近より出土した壺（図75－153～155）などから、後期箱清水式期の所産と想定される。5号土坑も出土土器の様相からほぼ同時期に比定できるだろう。

10号・11号・18号土坑

［ＳＫ10・11・18］（図56）

A区中央に位置する18号土坑は、重複する5号住居跡との新旧関係が判然としないものの、平面形態は隅丸長方形と復原される。遺構確認面からの深さは約20㎝で、底面長軸上に10号・11号土坑が並ぶ。10号土坑は短径1.5ｍの楕円形を呈し、18号土坑底面からの深さは約50㎝を測る。11号土坑は規模1.7×1.5ｍを測る不整楕円形で、36㎝程掘り下げられる。当初、それぞれ別個の土坑として調査を進めていたが、柳原東西線道路改良地点などで類例が確認されていることから、一連の土坑と判断した。

比較的多量の土器片が検出されており、その様相から帰属時期は箱清水式期と想定される。

12号土坑　［ＳＫ12］（図58）

A区中央より検出されるが、大半が調査区外にあるため詳細は不明である。覆土上層に多量の炭化物を伴い、底部付近からは土師器鉢（図75－163）が完形状態で出土している。古墳時代後期に比定される。

14号土坑　［ＳＫ14］（図58）

A区中央に位置し、南東隅を6号溝に切られる。平面形態は規模1.7×1.1ｍの楕円形を呈し、遺構確認面からの深さ74㎝を測る。出土土器の様相から後期箱清水式期の所産と想定される。

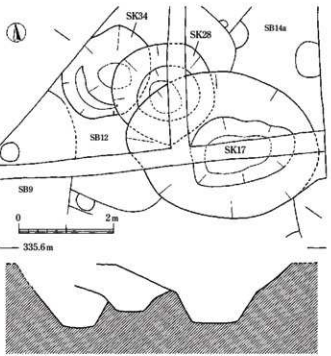
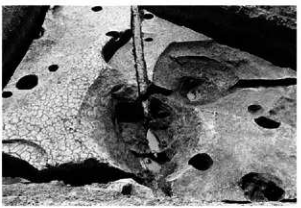
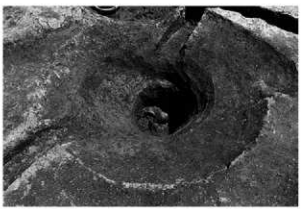


図57　17号・28号・34号土坑（1：80）



17号・28号土坑



28号土坑出土状況

34号土坑

15号土坑［ＳＫ15］（図58）

Ａ区中央付近より検出された土坑で、７号住居跡を切って掘り込まれる。南半部が未検出のため全容は不明である。７号住居跡床面から69㎝程掘り下げたが、湧水のため底面を確認することはできなかった。

出土土器の様相から古墳時代前期の所産と思われる。

16号土坑［ＳＫ16］（図58）

Ａ区東側、７号・10号住居跡を切って掘り込まれる。11号溝に中央部分を開削されるなど遺存状態は良くないが、長径約1.7ｍの楕円形を呈するものと思われる。遺構確認面から81㎝程掘り下げたが、湧水が著しく底面までは完掘していない。覆土下層から、甕壺・高坏・台付甕（図76）など完形個体が多量に出土している。

出土土器の様相から古墳時代前期の井戸跡と位置付けた。

17号・28号・34号土坑［ＳＫ17・28・34］（図57）

Ａ区とＢ区の境付近にて井戸跡と覚しき土坑３基を検出した。34号→28号→17号土坑の順に掘り込まれる。17号土坑は規模4.1×3.1ｍの楕円形を呈した大規模土坑で、壁面中位に稜をもって立ち上がる。遺構確認面から125㎝程掘り下げたが、湧水が著しく完掘はしていない。多量の土器片とともに太形蛤刃石斧刃部片（図84－22）が検出され、底部付近からは完形の土師器壺（図75－169）が出土している。28号土坑は径2.2ｍ程の不整円形を呈し、壁面中位に稜を有する。遺構確認面から約100㎝掘り下げたが、底面は未検出である。覆土下層からは、箱清水式土器に混ざって中期壺（図77－200）が検出された。34号土坑は規模2.1×1.7ｍの不整楕円形を呈する。約130㎝掘り下げたが、やはり湧水のため底面は確認していない。南西側壁面の立ち上がりに段がみられる。

出土土器の様相や重複関係から、17号土坑は古墳時代前期、28号・34号土坑は弥生時代後期に比定される。

57号土坑［ＳＫ57］（図58）

Ｂ区南側、17号住居跡内に位置する。当初、住居跡に伴う土坑と捉えていたが、帰属時期に大きな隔たりが認められたため別遺構と判断した。西半部が調査区外のため詳細は不明。覆土中より鉢・甕（図78－211－213）のほか、ミニチュア土器（図88－４）が検出された。出土土器の様相から後期箱清水式期に比定される。

70号土坑［ＳＫ70］（図58）

Ｂ区中央に位置し、20号住居跡を切って掘り込まれる。平面形態は径90㎝程の円形を呈し、遺構確認面からの深さは106㎝を測る。底部付近より完形の広口壺や壺底部片（図78－214・215）が出土しており、後期箱清水式期の所産と思われる。本土坑は、掘り込みの深さや土器の出土状況などから、井戸跡の可能性が考えられる。

71号土坑［ＳＫ71］（図58）

Ｂ区北側より検出された土坑で、23号・25号住居跡を切って掘り込まれる。平面形態は不整楕円形を呈し、規模1.8×1.3ｍを測る。土師器を中心に少量の土器片が検出された。

75号土坑［ＳＫ75］（図58）

Ｂ区中央に位置し、１号建物跡や72号土坑に切られる。規模2.1×1.4ｍの楕円形を呈し、遺構確認面からの深さは34㎝を測る。出土遺物の様相から後期箱清水式期の所産と想定される。

82号土坑［ＳＫ82］（図58）

Ｃ区中央にて検出された、規模1.4×1.2ｍを測る楕円形の土坑で、遺構確認面からの深さが13㎝と極めて浅い。出土遺物は、古墳時代中期の土師器高坏（図79－220）など、少量の土器片を検出するに止まる。

87号土坑［ＳＫ87］（図58）

Ｂ区中央より検出された楕円形の土坑で、規模2.2×1.9ｍを測る。遺構確認面から151㎝程掘り下げたが、湧水が著しく底面まで達していない。出土土器の様相から、帰属時期は後期箱清水式期に比定される。

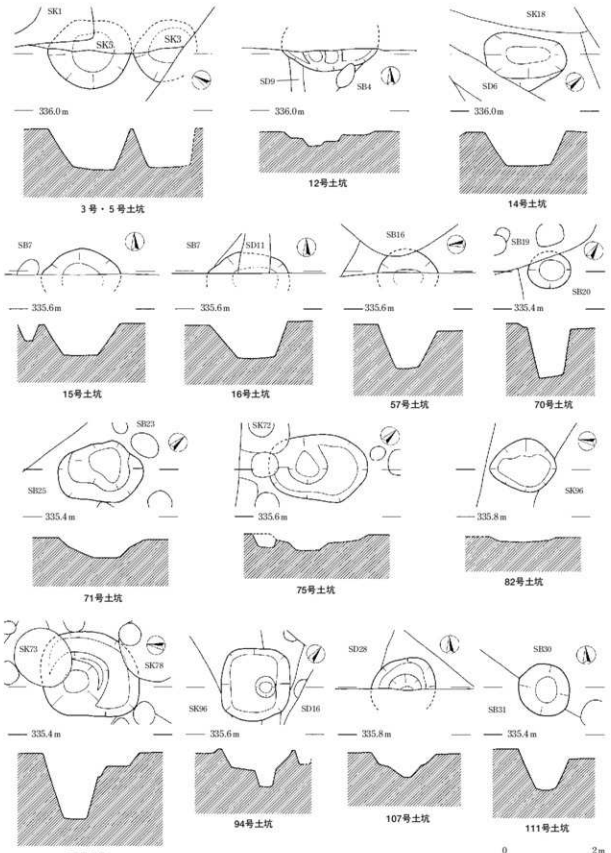


図58　山二小島団地地点検出の土坑（1：80）

94号土坑 ［ＳＫ94］（図58）

Ｃ区中央より検出された隅丸方形の土坑で、１辺約1.5ｍ、深さは83㎝を測る。底面に径50cm程のピットを伴う。多量の土器片が検出されているが、図示できたのは高坏坏部片（図79－221）のみである。出土土器の様相から、帰属時期は後期箱清水式期に比定される。

107号土坑 ［ＳＫ107］（図58）

Ｃ区西端に位置し、28号溝に切られる。北半部のみの検出だが、短径1.3ｍの楕円形を呈するものと思われる。遺構確認面からの深さは55㎝を測る。出土土器の様相から後期箱清水式期の所産と想定される。

111号土坑 ［ＳＫ111］（図58）

Ｃ区中央付近より検出された土坑で、30号・31号住居跡を切って掘り込まれる。径1.1ｍ程の円形を呈し、深さは31号住居跡床面から計測して91㎝を測る。多量の土器片が出土しており、弥生時代後期に比定される壺・高坏・蓋（図79－225～229）とともに、北陸系甕（図79－230）が検出された。

１号性格不明遺構 ［ＳＸ１］（図59）

Ｃ区西端にて確認された、古墳時代中期後半代の土器集中である。南北約1.4ｍ、東西約1.1ｍの範囲に、土師器坏・高坏・甑（図80・81）などが規則的に配置される。北西－南東方向を意識して列が形成されることや、坏を伏せた上に二重に重ね置くことなど、何らかの意図をもって土器を配置したことは疑いないが、具体的な遺構の性格については不明である。

平面プランは判然とせず、繰り返し精査を行ったが、土坑状の掘り込みなどは確認されなかった。本遺構は、古墳時代中期前半代に帰属する28号住居跡と重複しており、検出面は床面高より約15㎝上位に位置する。竪穴住居がある程度埋没した段階で、埋土を整地して土器を設置したものと思われる。

２号性格不明遺構 ［ＳＸ２］（図42）

Ｂ区中央に位置し、23号・25号住居跡を切って掘り込まれる。遺存状態が劣悪で詳細は不明である。重複関係が複雑な上に、平面プランが不明瞭であったため性格不明遺構に分類した。整理作業の段階で土坑と判断したが、便宜的に、調査現場での遺構番号をそのまま用いている。

１号性格不明遺構出土状況

１号性格不明遺構（上位破片資料取上げ後）

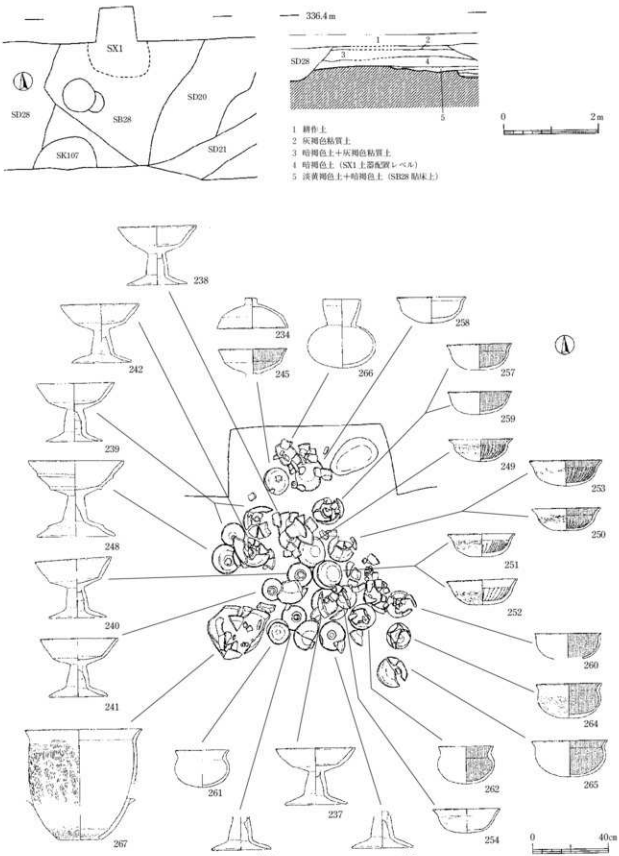


図59　1号性格不明遺構出土状況図（1：80・1：20）

ガーデンパーク小鳥宅地造成地点(KYMO－D)　遺構別遺物一覧表

遺構名	時　期	重複関係	備　考	土器（出土量：kg、5g以下は0、実測数：個）			石器・土製品・その他の遺物	
				出土量	実測数	概要	実測図等掲載	未掲載
SB1	弥生後期	→SB2	SB2上層遺物混入	5.59	5	弥生中期(壺) 後期(高坏・蓋)	石錘	
SB2	弥生後期	SB1→ SD1→		3.37	5	弥生後期(高坏・蓋・甕)		剥片類
SB3	弥生後期			1.80	2	弥生後期(壺)	土製勾玉	
SB4	弥生後期	→SZ1	SZ1出土遺物混入	16.28	9	弥生後期(壺・広口壺・鉢・甕)		木炭
SB5	弥生後期	SB8→ →SZ1	SB8出土遺物混入	12.83	11	弥生後期(壺・高坏・片口・鉢・蓋・甕)	ガラス小玉	剥片類
SB6	弥生後期	→SZ1		9.91	9	弥生中期(壺・高坏) 後期(壺・甕・台付甕)		
SB7	弥生中期?	→SZ1 →SD7・8		2.14	3	弥生中期(壺・蓋・甕)		剥片類
SB8	弥生後期	→SB5 →SZ1		6.43	1	弥生後期(壺)	ミニチュア土器	剥片類
SZ1	古墳前期	SB4～8→ SD7・8→	SB4出土遺物混入	24.16	5	弥生中期(壺) 古墳前期(壺)	打製石斧敲石	剥片類
SD1	弥生後期?	SB2→	土坑? SB2上層遺物混入	1.62				剥片類
SD2		SB2←	畝状遺構?	0.15				
SD3	古墳前期	→SD5	畝状遺構?	0.05	1	弥生後期～古墳前期(S字甕A類)	扁平片刃石斧	
SD4			畝状遺構?	0.03				
SD5		SD3・6→		0.99				
SD6		→SD5 SX1←		0.99				
SD7	弥生後期?	SB7→ →SZ1		0.18				
SD8	弥生後期	SB7→ →SZ1		4.52				
SK1	—		攪乱?	—				
SK2				0.11				
SK3		SD2→		0.05				
SK4				0.15				
SK5		→SD3		0.02				
SK6		SD2→		0.02				
SK7				0.03				
SK8		→SD3		0.02				
SK9		SD4→		0.08				
SK10	弥生後期			0.55	2	弥生後期(高坏)他		
SK11	—	SD4→		—				
SK12		SD6→		0.05				
SK13				0.01				
SK14	—	→SD5		—				
SK15	—			—				
SK16		SD2→		0.02				

表9　遺構別遺物一覧表①

遺構名	時 期	重複関係	備 考	土器（出土量：kg、5g以下は0、実測数：個）			石器・土製品・その他の遺物	
				出土量	実測数	概要	実測図等掲載	未掲載
SK17	弥生後期	SB2→	土坑2基重複 未完掘	1.33				
SK18				0.90				
SK19		→SK18		0.07				
SK20				0.02				
SK21	—			—			扁平片刃石斧	
SK22	古墳前期?			0.13			打製石斧	
SK23				0.02				
SK24	古墳前期	SB4・5→	未完掘	2.12	2	古墳前期(甕)他		
SK25		SZ1→		0.06				
SK26		→SB4		0.06				
SK27				0.08				
SK28				0.04				
SK29		SB1→		0.42				
SK30	弥生後期?	SD8→		0.14				
SK31	弥生後期?	SD8→		0.28				
SK32	弥生後期?	→SK31		0.11				
SK33	弥生後期?	SD8→		0.02				
SX1	弥生後期?	→SD5		1.35			敲石	
検出面				13.86	2	弥生後期(高坏) 奈良(土師坏)	扁平片刃石斧 ヒスイ勾玉	剥片類
合 計				113.16	57			

(株)山二小島団地二期工事地点(KYMO－Y) 遺構別遺物一覧表

遺構名	時 期	重複関係	備 考	土器（出土量：kg、5g以下は0、実測数：個）			石器・土製品・その他の遺物	
				出土量	実測数	概要	実測図等掲載	未掲載
SB1			詳細不明	0.15				
SB2	弥生後期	→SD3		1.14	3	弥生後期(壺・蓋・台付甕)		
SB3	弥生後期	→SD1 →SK1		1.96			太形蛤刃石斧	
SB4 (SB5)	弥生後期	新旧不明	2軒同時掘削 遺物分別不能	9.51	5	弥生後期(高坏・注口) 古墳中期(高坏)	砥石 剥片刃器	剥片類
SB6	弥生後期	→SZ1 →SD2・5		4.00	2	古墳前期(甕) 中期(高坏)		剥片類
SB7	弥生後期	SB8・10→ →SD11	焼失住居	34.84	10	弥生後期(大形壺5) 古墳中期(高坏・壺)	扁平片刃・打製石斧 ミニチュア土器	剥片類
SB8	弥生後期?	→SB7 →SK18		3.73	2	古墳中期?(甕)		剥片類
SB9	弥生後期	SB10・11・ 12→		8.89	4	弥生後期(高坏・広口壺・台付壺)		剥片類
SB10	弥生後期	→SB7・9		26.82	10	弥生後期(壺・甕・台付甕) 古墳前期(壺)	扁平片刃石斧 土製円板	剥片類・木炭
SB11	弥生後期?	→SB9		0.76				
SB12	弥生後期	→SB9 →SK17		10.80	2	弥生後期初(壺・鉢)	敲石	剥片類

表10 遺構別遺物一覧表②

遺構名	時　期	重複関係	備　考	土器（出土量：kg、5g以下は0、実測数：個）			石器・土製品・その他の遺物	
				出土量	実測数	概要	実測図等掲載	未掲載
SB13		→SK18	詳細不明	0.18				
(SB14)	弥生後期	SB14a・14b混合	2軒同時掘削遺物分別不能	12.83	3	弥生後期(高坏)	土製円板	剥片類
SB14a	弥生中期?	→SB14b		2.29	4	弥生後期(台付甕・蓋・壺)	磨製石鏃	剥片類
SB14b	弥生後期	SB14a→		5.75	4	弥生後期(壺・高坏・甕)	敲石	
SB15	弥生後期			4.36	1	弥生後期(台付甕)		
SB16	古墳後期	SB17→SB18→		14.35	7	古墳後期(壺・鉢・高坏・坏・甕)	石製紡錘車　臼玉　砥石	剥片類
SB17	古墳中期	→SB16→SB18	竪穴住居?	1.76	2	古墳中期(高坏・甕)		
SB18	弥生後期	SB17→→SB16・19		12.94	7	弥生後期(壺・高坏・鉢)	土製円板	剥片類
SB19	弥生後期?	SB18・20→→ST2		2.13				
SB20	弥生後期	→SB19→ST1・2		4.59	1	弥生後期(高坏)		剥片類
SB21	古墳中期		竪穴住居?	4.99	3	古墳中期(高坏・坏)		剥片類
SB22	弥生後～古墳前	SB33・34→→SB26		14.26	7	弥生後期～古墳前(壺・北陸甕・甕壺・甕)	石包丁　土製勾玉	剥片類　軽石
SB23	弥生後期	→SB25SB32・36→	焼失住居	17.31	3	弥生後期～古墳前(甕・北陸甕・器)	磨製石鏃太形蛤刃石斧	剥片類
SB24	弥生後期?	→SD13	竪穴住居?	1.93				剥片類
SB25	弥生後期	SB23→→SX2		2.66			砥石	
SB26		SB22・34→	詳細不明	0.87	1	弥生後期(壺)	剥片刃器	
SB27	弥生後期	SB29・35→		11.26	7	弥生後期(高坏・蓋・甕・台付甕・外来壺?)		剥片類
SB28	古墳中期	SB40→→SX1		15.03	5	古墳中期(壺・高坏・小形丸底・甕)他	敲石　砥石　臼玉	剥片類
SB29	弥生後期	SB35・39→→SB27・30		10.11	7	弥生後期(甕・蓋)古墳前期(器台・甕)		剥片類
SB30	弥生後期	新旧不明		11.45	4	弥生後期～古墳前期(高坏・壺)	磨製石鏃	
SB31	弥生後期		SB30付随施設?竪穴住居?	0.33				
SB32	弥生中期?	→SB23・36		0.70			砥石(ミガキ石)	剥片類
SB33	弥生後期?			1.10				
SB34	弥生中期			6.58	4	弥生中期(壺・台付甕)	扁平片刃石斧土製円板	剥片類
SB35	弥生後期	→SB27・29		4.06	2	弥生後期(高坏・甑)	敲石	
SB36			詳細不明	—				
SB37(SK100)	弥生後期	→SB38→SD17・18	SK100を一連の遺構と認定	23.40	11	弥生後期(壺・無頸壺・高坏・鉢・蓋・甕)	敲石　軽石製品土製紡錘車	
SB38	弥生後期	SB37→→SD18	SK37と一部土器混在	10.33	5	弥生後期(壺・高坏・甕・北陸小型)	敲石・砥石	剥片類
SB39	弥生後期?	→SB29		0.30				剥片類
SB40	弥生後期	→SB28→SD20・21		5.71	5	弥生後期(壺・高坏・甕・台付甕)		剥片類
ST1	古墳後期?	SB20・25・35→		2.38				剥片類
ST2	古墳後期?	SB19・20→		0.25				
SZ1	古墳前期	SB6→→SD2	南東コーナー部のみ確認	4.24	4	古墳前期(壺・脚台)古墳中期(高坏・甕)		剥片類
SD1	奈良	SB3→→SD4		23.05	8	古墳中期(高坏・坏)奈良(須恵瓶・坏)	太形蛤刃石斧石錘　敲石	剥片類

表11　遺構別遺物一覧表③

遺構名	時 期	重複関係	備 考	土器（出土量：kg、5g以下は0、実測数：個）			石器・土製品・その他の遺物	
				出土量	実測数	概要	実測図等掲載	未掲載
SD2	奈良	SB6→ SZ1→		1.04	1	奈良（須恵鉢）		
SD3	奈良			0.21	1	奈良（須恵坏）		
SD4	奈良?	SD1→		0.55				剥片類
SD5	弥生後期～古墳前期	SB6→ →SK1		7.24	2	弥生後期～古墳前期?（高坏・壺）		
SD6	弥生後期?			0.28				
SD8	弥生後期?			0.08				
SD9	弥生後期	→SB4		0.04				
SD10	弥生後期?	→SZ1		0.04				
SD11	古墳後期?	SB7・10→		2.25			敲石	
SD12		SB10→		0.98				
SD13	弥生後期?	SB22・24→		0.65				
SD14		SB29・39→		0.13				
SD15	—	→ST1		0.32				
SD16	古墳後期?	SB31→ SD26・30→		0.63	1	古墳後期（高坏）		
SD17		SB37→		1.77				
SD18		SB37・38→		0.73				
SD19		SB37→		0.28				
SD20	奈良	SB28→ →SD21		5.06				剥片類 木炭
SD21	奈良	SB28→ SD20・24→		0.34				剥片類
SD22		SB37→		0.20				
SD23		SB37→		0.10				
SD24	奈良	SB28→ →SD21		0.38				
SD25	奈良			4.26				剥片類 モモ核
SD26				0.25				
SD27				0.05				
SD28	奈良	SB28→		9.00	3	奈良（須恵坏・短頸壺）	玉状小石	クルミ殻 木片
SD29	奈良			2.16				
SD30	弥生後期～古墳前期			0.60	1	古墳前期（台付甕）		
SK1		SB3→ SD5→		1.20				
SK2				0.79				
SK3	弥生後期	→SD5		2.79	3	弥生後期（壺・広口壺）		
SK4		→SD1		0.56				
SK5	弥生後期	→SD5・SK1		1.27	1	弥生後期（壺）		
SK6		SB6→		0.02				

表12　遺構別遺物一覧表④

遺構名	時期	重複関係	備考	土器（出土量：kg、5g以下は0、実測数：個）			石器・土製品・その他の遺物	
				出土量	実測数	概要	実測図等掲載	未掲載
SK7		SZ1→		0.01				
SK8		SZ1→		0.00				
SK9				0.01				
SK10	弥生後期		SK18内土坑	3.55	1	弥生後期（高坏）	土製紡錘車	
SK11	弥生後期		SK18内土坑	3.60	2	弥生後期（鉢・台付甕）		剥片類
SK12	古墳後期	SD9→		1.41	1	古墳後期（鉢）		
SK13		SD8→		0.07				
SK14	弥生後期	→SD6		3.78	2	弥生中期（壺） 弥生後期（高坏）		
SK15	古墳前期	SB7→		0.53	1	古墳前期（高坏）		
SK16	古墳前期	SB7→ →SD11	井戸	9.26	22	弥生後期（高坏） 古墳前期（壺ほか・多数）	敲石	
SK17	古墳前期	SB12・SK28→	井戸	17.46	13	古墳前期（壺・小壺・台付甕）	太形蛤刃石斧	木片　剥片類
SK18	弥生後期	SB8・13→ SB5←→	SK10・11と一連の遺構	7.56	1	古墳中期?（壺?）	磨形土製品	炭化物
SK19				0.00				
SK20				0.00				
SK21		SB10→		0.19				
SK22		SB9→		0.04				
SK23		SB9→		—				
SK24				0.42				
SK25		→SB12		0.00				
SK26		→SB4・5		0.71				
SK27		SB7→ →SD11		0.01				
SK28	弥生後期?	SB12・SK34→ →SK17	井戸	10.91	5	弥生中期（壺） 弥生後期（壺）他		
SK29				0.01				
SK30				0.07				
SK31		→SB16		0.05				
SK32		→SB14b		0.03				
SK33		→SB14b		0.10				
SK34	弥生後期	SB12→ →SK28	井戸	5.43	6	弥生後期（高坏・甕）		
SK35		→SD2		—				
SK36		SB18→		0.10				
SK44		SB20→		0.02				
SK45				0.06				剥片類
SK48		SB22→ →SD13		1.36				
SK51		SB25→		0.05				

表13　遺構別遺物一覧表⑤

遺構名	時期	重複関係	備考	土器（出土量：kg、5g以下は0、実測数：個）			石器・土製品・その他の遺物	
				出土量	実測数	概要	実測図等掲載	未掲載
SK52		SB23→		0.20				剥片類
SK53		SB23→		0.10				
SK54		SB36→		0.02				
SK57	弥生後期	→SB17		2.88	3	弥生後期（鉢・甕）	ミニチュア土器	
SK58（SK27）		→SB12 SB14a→		0.09				
SK65		SB35→		0.12				
SK66			詳細不明	0.02				
SK67				0.53				剥片類
SK68		→SB21		0.34				
SK69	弥生後期?	SB24→ →SD13		0.63				
SK70	弥生後期	SB20→ →SD19	井戸?	3.10	2	弥生後期（壺・広口壺）		
SK71	古墳前期?	SB23・25→ SX2→		1.78	2	弥生後期（高坏） 古墳前期（高坏）	敲石	
SK72		→ST1		0.63				
SK73				0.95				
SK74		SB29→		0.04				
SK75	弥生後期	→ST1		0.37	1	弥生後期（広口壺）		
SK76			詳細不明	0.03				
SK77		SB35→		0.07				
SK78				0.36				
SK79				0.08				
SK80		SB27→		0.15				
SK81				0.13				
SK82	古墳中期			0.40	1	古墳中期（高坏）		
SK83	弥生後期	SB37→ SD22→		0.35			鳥形土製品	
SK84		SB37→		0.15				
SK85				0.39				
SK86		SB20→		0.21				
SK87	弥生後期	SB35→ →ST1		3.39	1	弥生後期（壺）		
SK88			SB22床下土坑	0.16				
SK89			詳細不明	0.01				
SK90			詳細不明	0.06				
SK91		→SB22		0.06				
SK92		→SB22		0.03				
SK93		SB35→		0.05				

表14　遺構別遺物一覧表⑥

遺構名	時 期	重複関係	備 考	土器（出土量：kg、5g以下は0、実測数：個）			石器・土製品・その他の遺物	
				出土量	実測数	概要	実測図等掲載	未掲載
SK94	弥生後期	SD26→		1.25	1	弥生後期(高坏)		剥片類 ドング状炭化物
SK95			SK108に接続?	0.26				
SK96			落ち込み?	1.47				
SK97		→SB29		0.77				
SK98				0.04				
SK99				0.05				
SK101		SK102→		1.25				
SK102		→SK101		0.07				
SK104		SK96→		0.05				
SK105		SB39→ →SB27	SB29に伴う?	0.26				
SK106		→SK85		0.16				
SK107	弥生後期	→SD28		2.26	2	弥生後期(甕)		
SK108		SD30→	SK95に接続?	0.03				
SK109		SD26→ →SD16		0.11				
SK110		SB30・31→		0.05				
SK111	弥生後期	SB30・31→		4.05	6	弥生後期(壺・広口壺・高坏・蓋・北陸甕)		
SK112		SB37→ →SD17		0.12				
SK113		SB37→		1.27				
SK114		→SD18		0.13				
SK115		→SD18		0.05				
SK116	弥生後期		詳細不明	0.69	1	弥生後期(高坏)		
SK117	−	SB30→		0.02				
SX1	古墳中期	SB28→	土器集中	13.43	37	古墳中期(蓋6・高坏12・坏17・壺1・甑1)	軽石製品	
SX2	−	SB23・25→	土坑	0.24				
SX3	−		落ち込み?	0.81				
A区検出				23.59	14	弥生後期(壺・高坏) 古墳中期(高坏)他		剥片類
B区検出				38.63	9	弥生後期(蓋) 古墳前期(甕)他		剥片類
C区検出				20.93	3	古墳前期(壺)他	扁平片刃石斧	剥片類
合 計				579.05	293			

表15　遺構別遺物一覧表⑦

第4節　遺　物

今回の調査ではガーデンパーク小鳥宅地造成地点約280㎡、（株）山二小鳥団地二期工事地点約760㎡、計約1,040㎡の調査範囲内において、濃密に遺構が検出され、かつ遺構同士の重複も多く認められた。一部、遺構確認面において重複関係が判然としなかった遺構や、検出しきれなかった遺構が存在する可能性を考えると、遺物の時間的混在は免れないものと判断され、また遺物取り上げ時の不備と混乱も免れないものであることをまず明記しておきたい。

上記の状況を鑑みた上で、整理作業においては出土遺物の全容を把握することを第1の目標とし、出土遺構別に資料提示を行い、遺構別遺物一覧表としてまとめる方針とした。加えて、土器・石器・玉類・土製品の各遺物の概要を記すと共に、図上では表現しきれない所見を極力提示できるよう、観察表などを用いてそれぞれの個体に関する観察を記載することにする。

1　土器

出土した全ての個体・破片について遺構別に重量を計測した。一概に比較することは危険が伴うものの、遺跡単位や遺構単位で土器の出土量を比較する上では重量表示が最も有効であると思われる。出土土器量はガーデンパーク小鳥地点 113.16kg、山二小鳥団地地点 578.40kg、計691.56kgに達した。これらの中から全周の1/3以上遺存するものを抽出し、前者57個体、後者293個体、計350個体を図化した。なお、外来系土器など特徴的な破片資料に関しては、残存率に係らず実測し図示していることをあらかじめ断っておく。また、写真図版中の番号は実測図の番号と対応する。

今回の調査では、弥生時代中期から奈良・平安時代までの所産と思われる土器が出土しているが、土器の出土量から判断すると、弥生時代後期から古墳時代中期の資料が目立ち、特に弥生時代後期の出土土器量が最も多いという所見を得た。限られた中ではあるが、時間を追って出土資料の概要を以下に記す。

弥生時代

中期の所産と思われるものは壺・高坏・蓋・甕が検出された。図示できる資料に乏しく、出土量も後期に比べて少ない。壺はなで肩で胴部最大径を胴下半に測る所謂無花果形を呈し、縄紋や竟描沈線が施されたものが多く見られる。また、後期に特徴的にみられる様な赤彩が施されたものは稀で、図62－37が僅かに認められるのみである。中期の高坏の形態的特徴としては後期に比べて脚部高が低いことが挙げられ、図67－30のような所謂コップ形高坏も出土している。他の器種に比べて赤彩が施されるものが多く見られることから、日常的に使用されていたものとは一線を画していた可能性も考えられる。該期の蓋として判断したものは、文様が施され紫縛孔を持ち、摘部を持たない図75－157の1点に止まる。甕は図64－5、図72－110の2点のみである。

先に記した様に後期の所産と考えられる土器の出土量は多く、壺・高坏・鉢・注口・甑・蓋・甕が出土した。壺の第1の特徴として口縁部内外面と胴部外面に赤彩が施されることが挙げられる。もう1つの特徴としては胴部内面の調整方法が挙げられる。赤彩が施される部位はミガキ調整を伴うが、胴部内面はナデ調整のものがほとんどで、図60－13、図61－27の2点にミガキ調整が認められるのみである。後に触れるが、一方で甕は胴部内面ミガキ調整のものの方が一般的であり、壺とは異なる在り方を示す。以上の特徴を踏まえると、図60－18、図62－43、図64－14、図75－155、図78－218、図79－226は赤彩が施される部位が一致することから壺の一種と捉えられ、その形態から広口壺と呼称した。また図72－119は壺が口縁部を喪失した形態と捉え、無頸壺とした。図78－215・219は赤彩が認められず、図62－44と同じく甕として捉えることも出来るが、口縁部内面がミガキ調

整で胴部内面がナデ調整という特徴を踏まえ、本稿では壺の一種として捉えた。

高坏の特徴は坏部内外面と脚部内面に赤彩が施されるということである。形態では坏部が鉢形のものと有段口縁を持つもの2つの形態が存在し、図化した資料数を比較すると両者はほぼ同数である。高坏の坏部と同様に内外面に赤彩が施されるものを鉢とした。図82－269は底部のみの遺存で、他に比べて大形で突帯を持つが、他遺跡の類例などから鉢と判断した。なお、赤彩が施されず、やや大形で底部に穿孔を持つ鉢形土器を、本稿では一括して甑とした。図70－83は高坏が甑に転用された例である。鉢・甑としたものの形態は種々認められ、或いは他の時期のものが含まれる可能性は考えられる。蓋は頂部穿孔を持つものと持たないものが認められるが、今回の調査では前者の出土量が多かった。

甕は頸部文様帯に櫛描直線文または簾状文を施し、口縁部と胴部の櫛描波状文を画するような文様構成を基本とするが、図62－44の様に無文の甕も見られる。図化した甕を観察した結果、櫛描文描出手法は全てが所謂「中部高地型」であった。形態は平底と台付が認められ、後者は法量が小さい傾向にある。一般的に壺の胴部内面はナデ調整が、甕の胴部内面はミガキ調整が施されると先述したが、その差は用途の違い、すなわち壺は貯蔵用の容器であり、甕は煮沸用の容器であることに起因するのではなかろうか。

古墳時代

前期の所産と思われる土器の出土量は少なく、壺・器台・高坏・鉢・甑・甕が出土している。弥生時代後期に見られた様な赤彩を施すものは少なくなり、今回の調査では二重口縁壺（図76－177）などに認められる程度である。出土量に乏しいと先述したが、山二小島団地地点16号・17号土坑からは該期の土器がまとまって出土しており、所謂「甕壺」（図76－181）や小形壺（図76－184～187）、小形甕（図76－182・183）など様々な器種が見られる。検出された小形土器は形態的な類似性を指摘することが出来るが、調整方法などからそれぞれ壺や甕として分類した。小形土器はその法量から壺や甕の本来的な用途とは異なる可能性が考えられる。その他には図63－51、図75－165や図69－75のような外来系の土器も認められる。

中期の所産と思われるものは弥生時代後期に次いで出土量が多く、壺・高坏・坏・蓋・鉢・甑・甕が出土している。高坏は脚部屈折高坏が多く見られるようになるが、図64－8の様に赤彩が施されるものは類例に乏しい。また、図81－261～265の様な頸部に明確な屈曲を持つ深めのものも、系統は異なるが、図81－249～260と同じく坏として捉えた。山二小島団地地点1号性格不明遺構は竪穴住居の埋土を利用した土器集中だが、遺構を構成する一群の土器は（図80・81）、蓋・高坏・鉢のそれぞれに胎土・形態・調整・焼成・法量において共通性を顕著に観察することができ、同一制作者或いは集団による同時制作の可能性を示唆する良好な資料と言える。

後期の所産と捉えたものは出土量が非常に少ないが、高坏・坏・鉢・甕を検出している。山二小島団地地点16号住居跡出土土器（図68）が該当すると思われ、内面黒色処理が施された高坏や長胴甕が出土している。

古墳時代に於いては壺や甕などに複数の系統が存在し、また時期によって複雑な様相を示す。紙面の都合上、細かな分類など記載することができず、器種判定に際し若干の混乱が生じていることを断っておきたい。

奈良時代以降

奈良時代以降の所産と考えられるものは、黒色土器の坏、須恵器の短頸壺・長頸瓶・横瓶・鉢・杯・甕が出土している。限られた調査範囲内で判断することはできないが、これらは全て溝跡或いは検出面からの出土であり、しかもほとんどが欠損品であることから、調査範囲内に限ってみれば、奈良時代以降もなんらかの土地利用が行われてはいたが、集落として機能していたのは弥生時代中期～古墳時代後期までであったと考えられる。

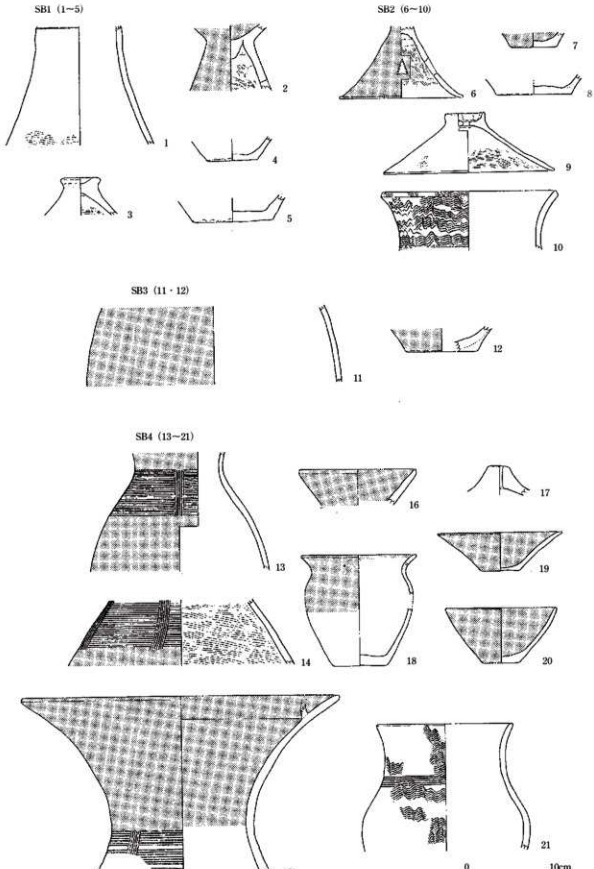


図60　ガーデンパーク小島地点出土土器実測図①（1：4）

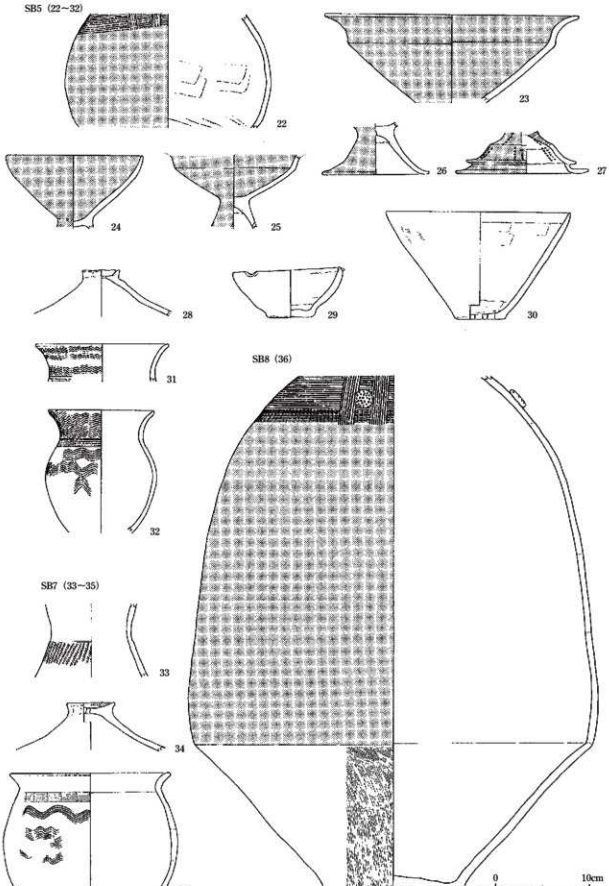


図61　ガーデンパーク小島地点出土土器実測図②（1：4）

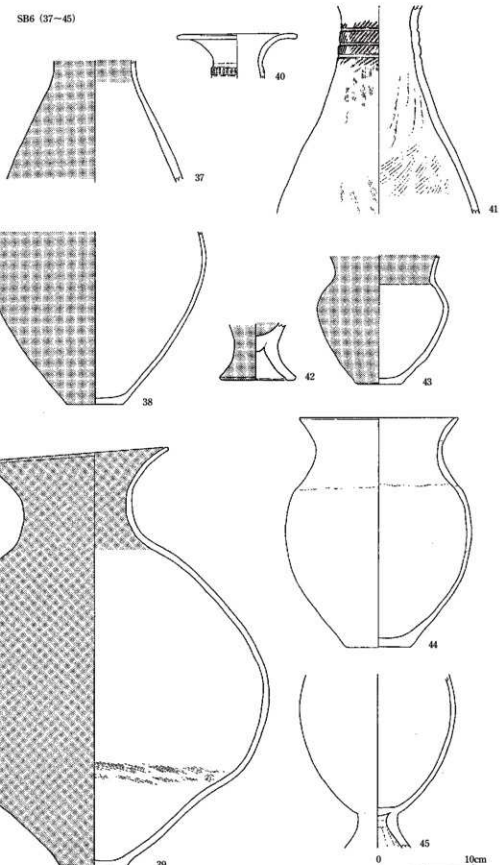


図62　ガーデンパーク小島地点出土土器実測図③（1：4）

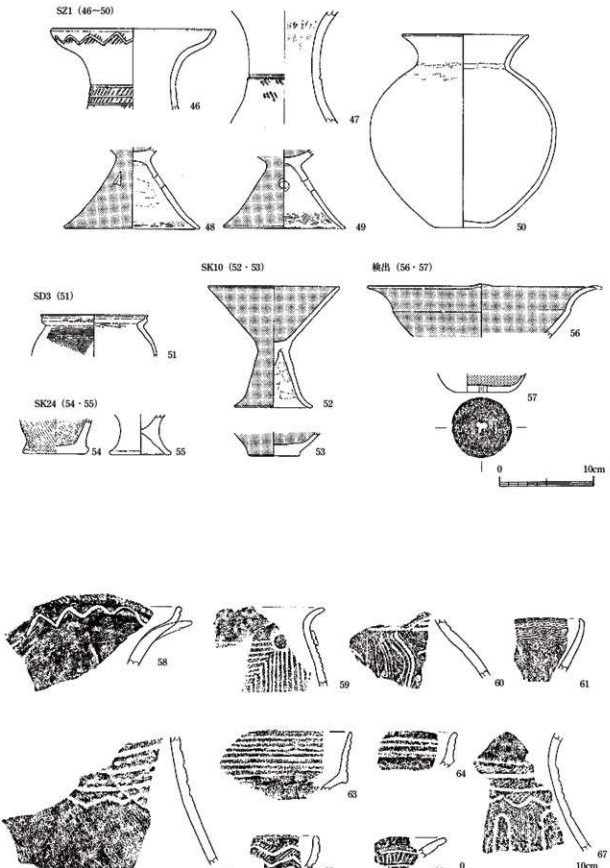


図63　ガーデンパーク小島地点出土土器実測図④（1：4）・拓影図（1：3）

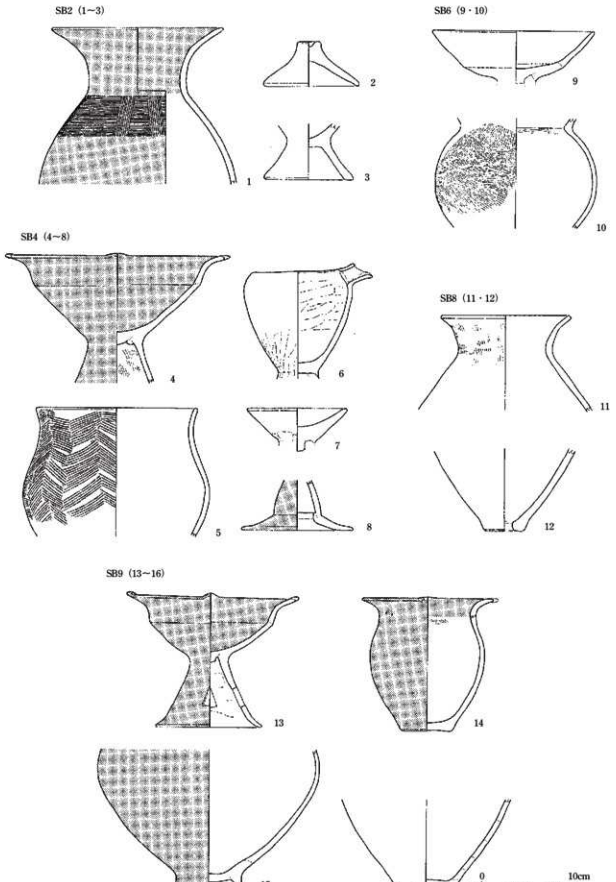


図64　山二小島団地地点出土土器実測図①（1：4）

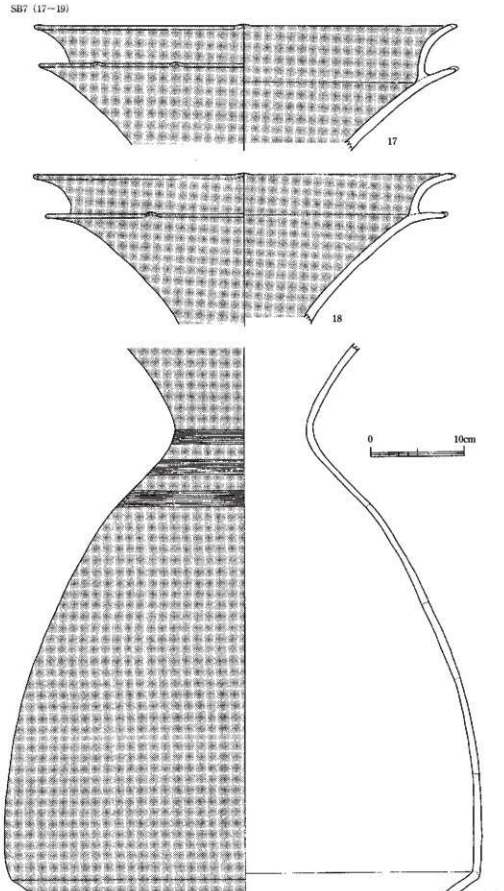


図65　山二小島団地地点出土土器実測図②（１：４）

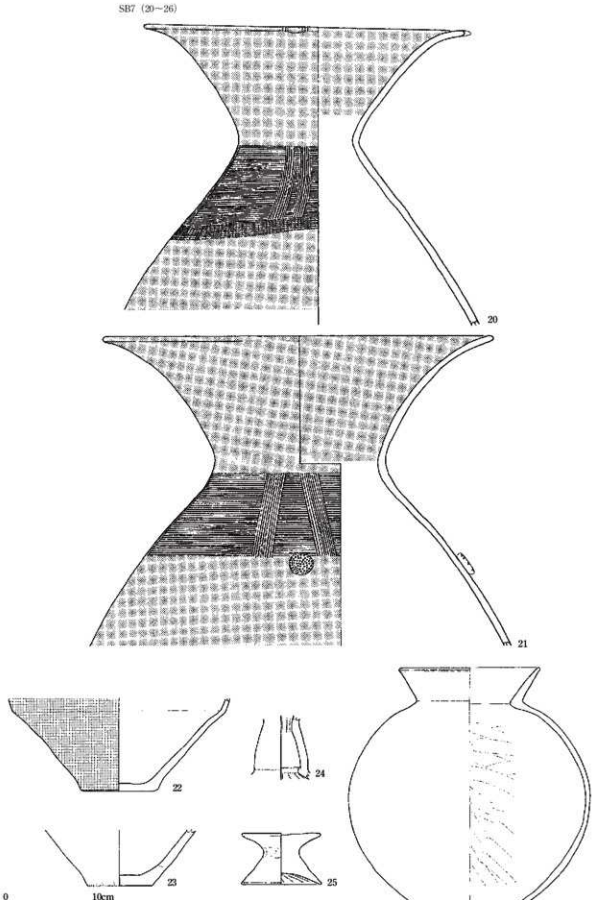


図66　山二小島団地地点出土土器実測図③（１：４）

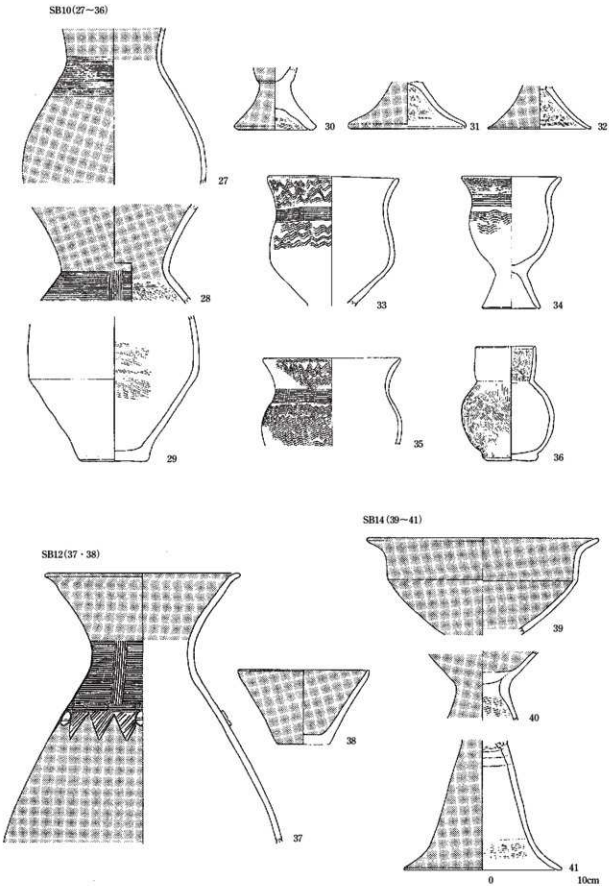


図67　山二小島団地地点出土土器実測図④（1：4）

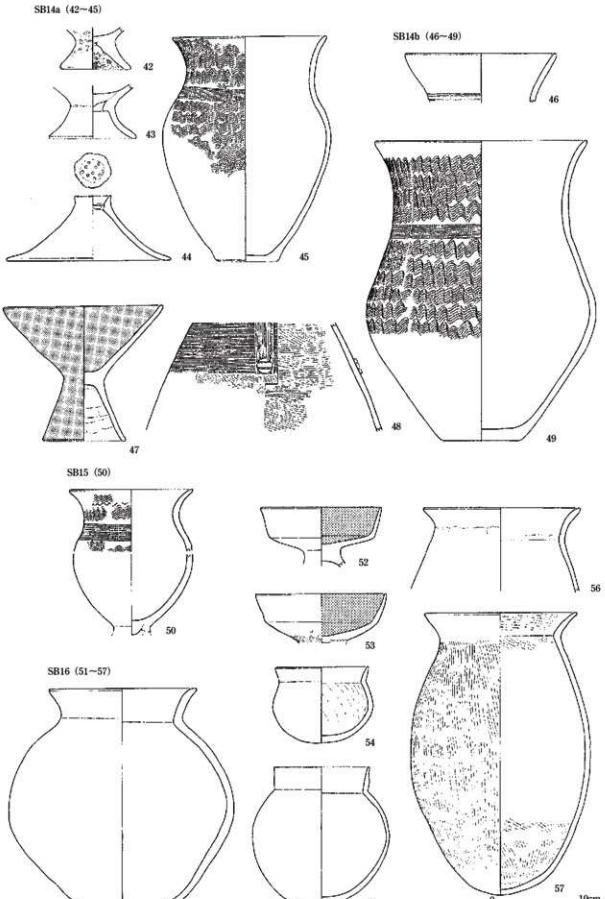


図68　山二小島団地地点出土土器実測図⑤（1：4）

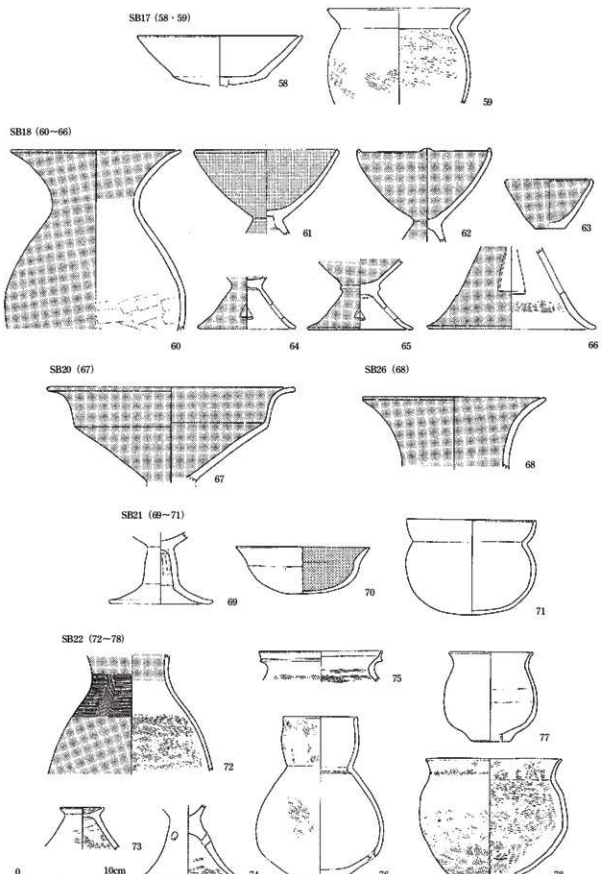


図69　山二小島団地地点出土土器実測図⑥（1：4）

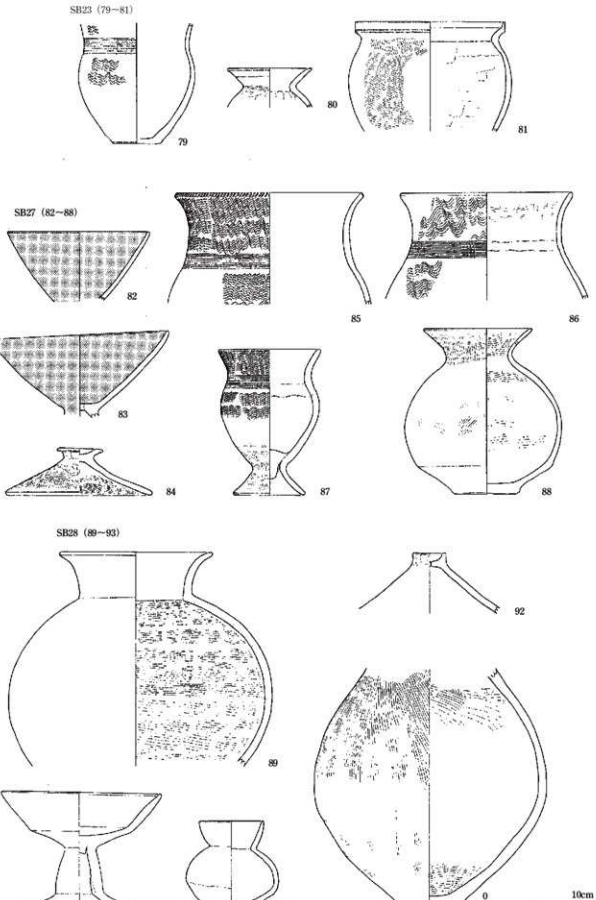


図70　山二小島団地地点出土土器実測図(7)（1：4）

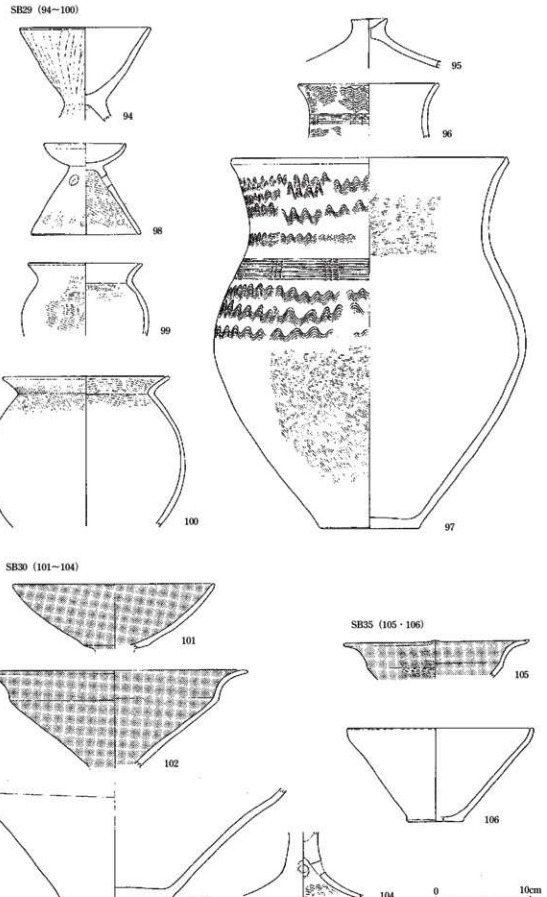


図71　山二小島団地地点出土土器実測図⑧（1：4）

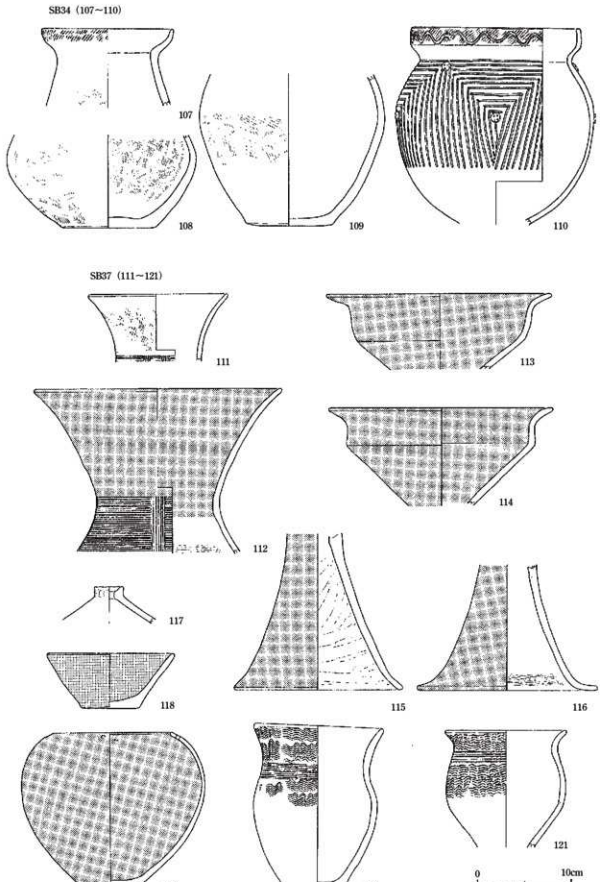


図72　山二小島団地地点出土土器実測図⑨（1：4）

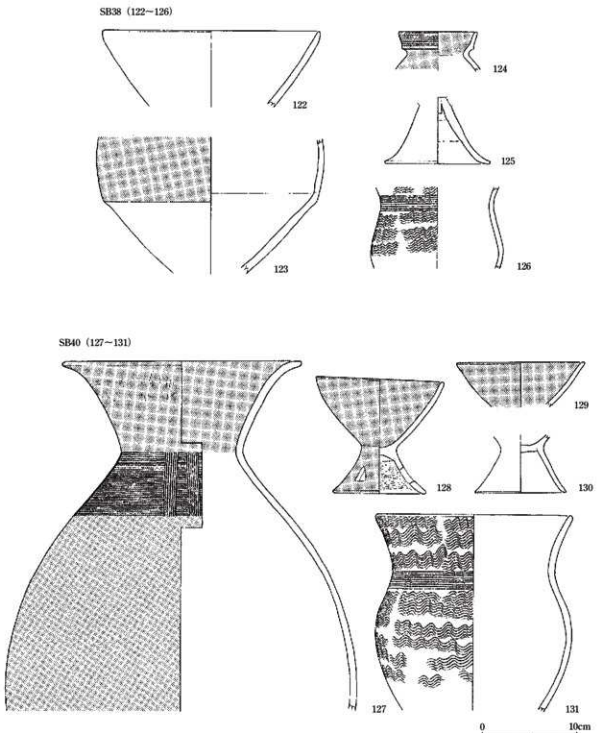


図73　山二小島団地地点出土土器実測図⑩（1：4）

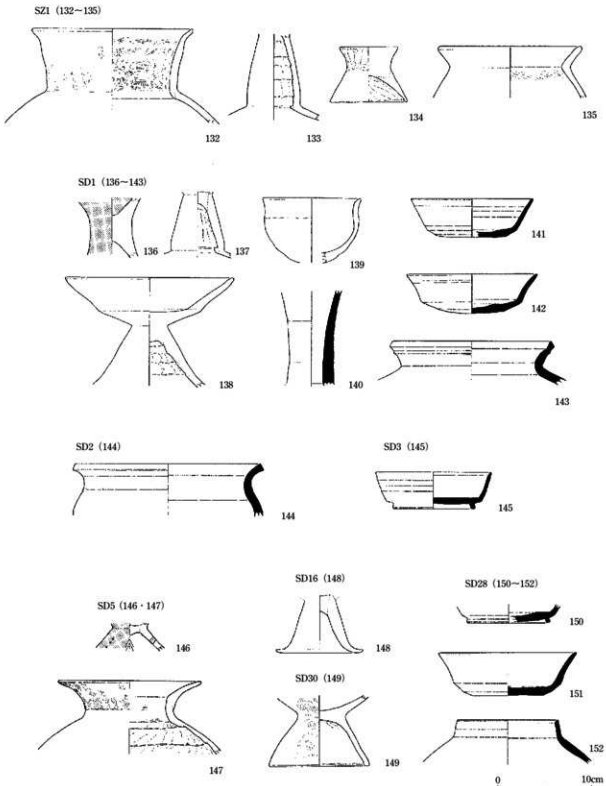


図74　山二小島団地地点出土土器実測図⑪（１：４）

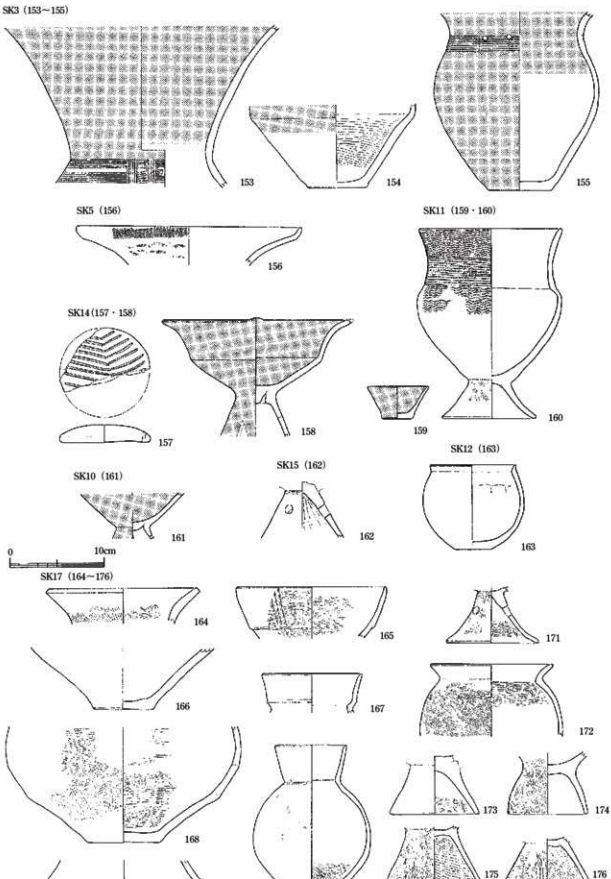


図75　山二小島団地地点出土土器実測図⑫（１：４）

SK16（177～198）

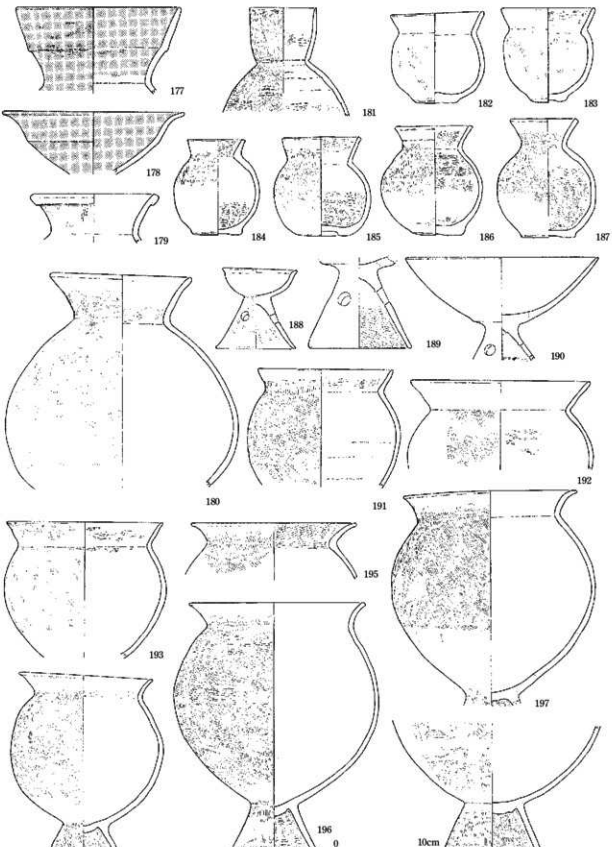


図76　山二小島団地地点出土土器実測図⑪（１：４）

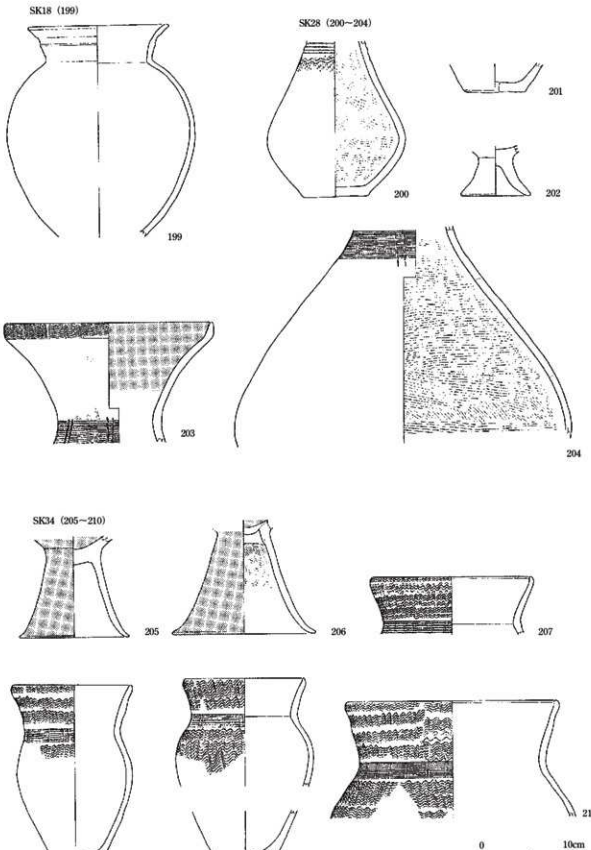


図77　山二小島団地地点出土土器実測図⑭（１：４）

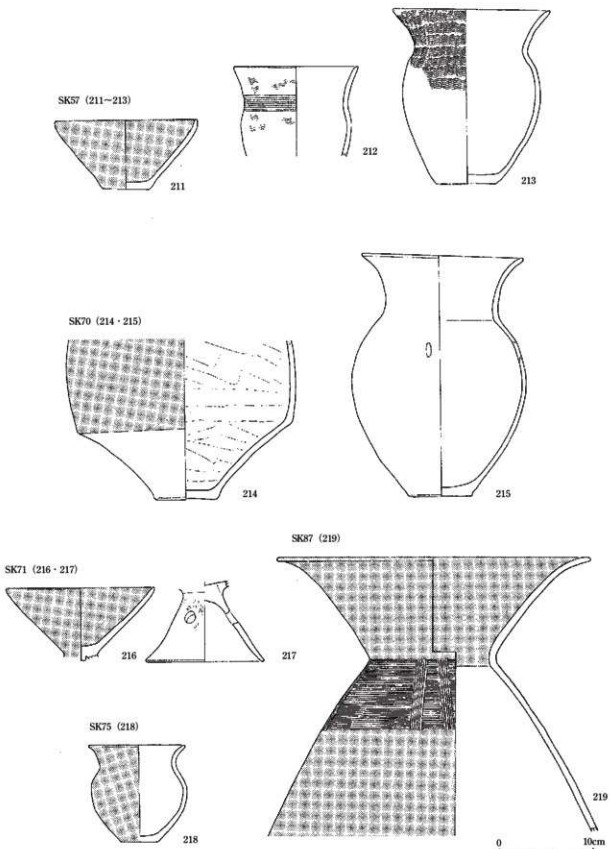


図78　山二小島団地地点出土土器実測図⑮（１：４）

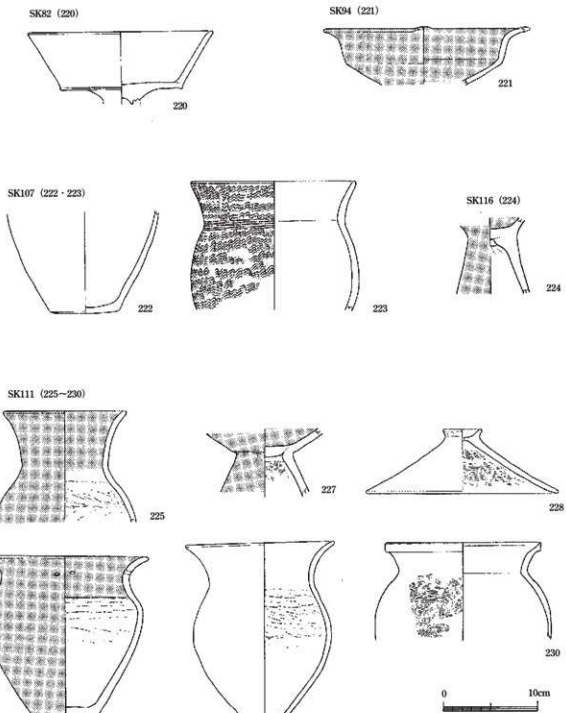


図79　山二小島団地地点出土土器実測図⑯（1：4）

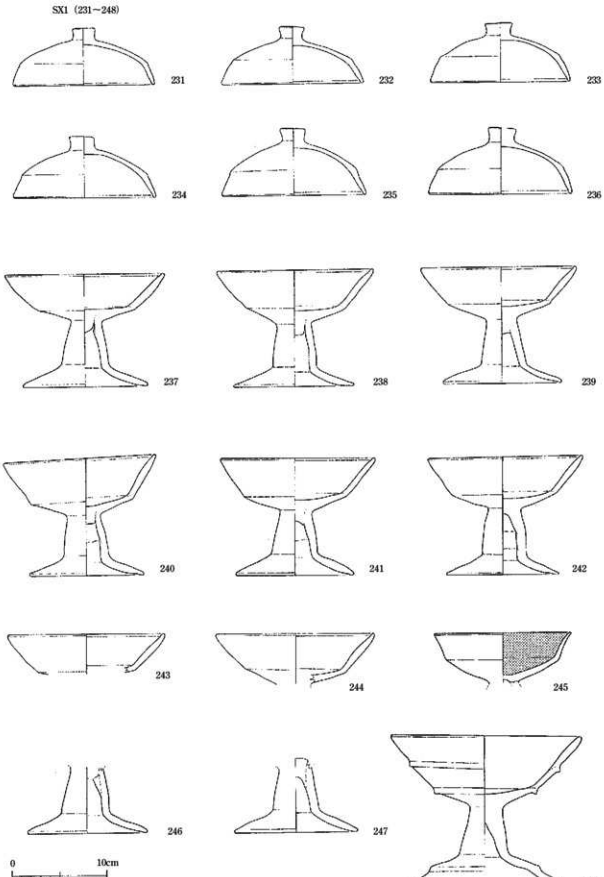


図80　山二小島団地地点出土土器実測図⑰（1：4）

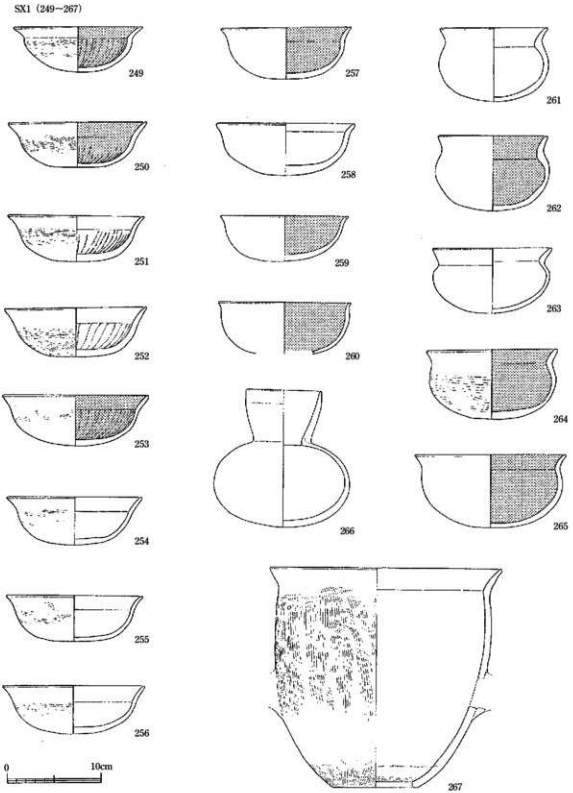


図81　山二小島団地地点出土土器実測図①（1：4）

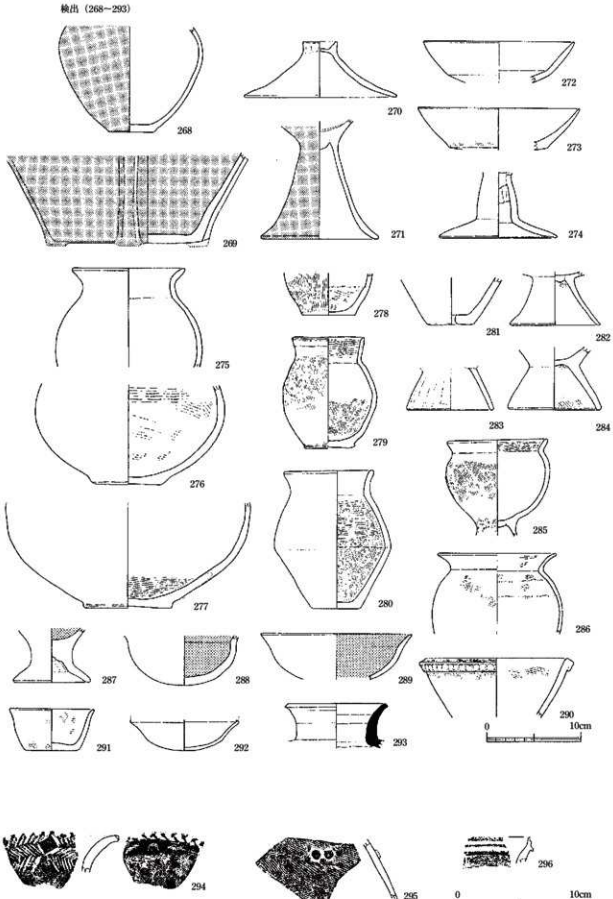


図82　山二小島団地地点出土土器実測図⑲（1：4）・拓影図（1：3）

20

27

30

44

30

39

36

ガーデンパーク小島地点住居跡出土土器

6

6

5

12

12

36

34

13

14

37

ガーデンパーク小島地点住居跡出土土器

17

17

18

19

20

21

山二小島団地地点 7 号住居跡出土土器

45

49

47

44

44

山二小島団地地点14a号住居跡出土土器

51

55

57

52

54

山二小島団地地点16号住居跡出土土器

61

62

65

60

76

77

71

70

78

84

87

88

山二小島団地地点住居跡出土土器

90

91

98

101

97

110

120

119

128

山二小島団地地点住居跡出土土器

52（図63）

155

160

159

163

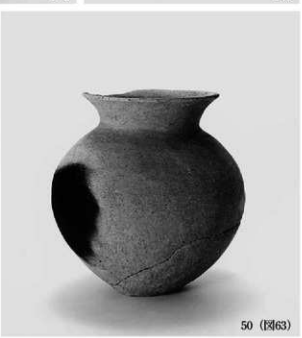
215

280

157

169

175
173
174
176


50（図63）

ガーデンパーク小島・山二小島団地地点方形周溝墓・土坑

182

183

184

186

185

187

188

189

181

180

190

191

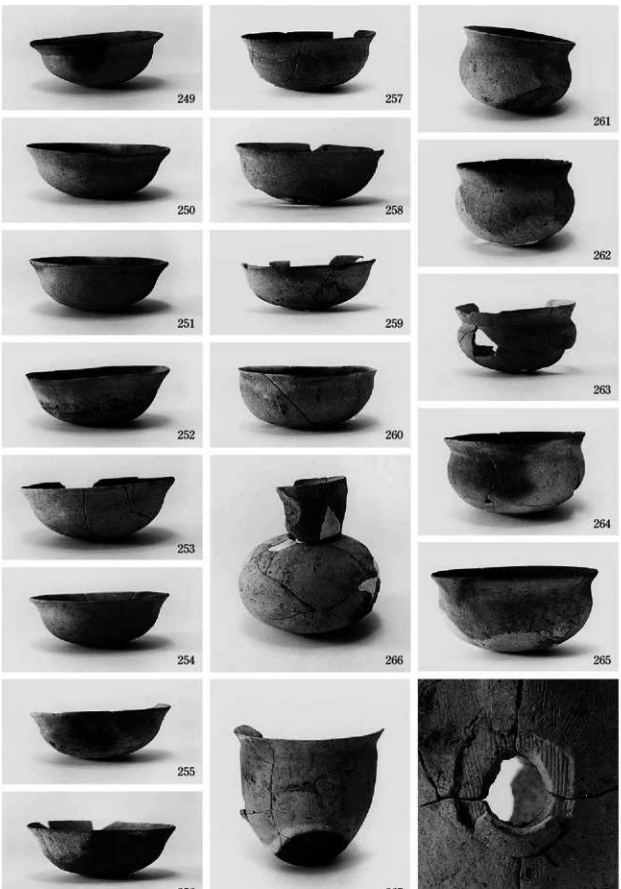
196

197

194

山二小島团地地点16号土坑出土土器

山二小島団地地点1号性格不明遺構出土土器



山二小島団地地点1号性格不明遺構出土土器

ガーデンパーク小島宅地造成地点(KYMO-D)

No.	種別	器種	遺存度	出土層位	調整	文様等
1号住居跡(SB1)						
1	弥生	壺	1/2	中層	外面:ハケメ→横ナデ　内面:縦・横ナデ	
2	弥生	高坏	2/3	下層	外面:坏部－横ミガキ 脚部－縦ミガキ　内面:ハケメ	三角形透孔 赤彩
3	弥生	蓋	ママ	下層	外面:裾部－横ミガキ 摘部－指おさえ　内面:ハケメ→ミガキ	
4	弥生	甕	ママ	下層	外面:ケズリ→縦ナデ　内面:ナデ→ミガキ	
5	弥生	甕	ママ	中層	外面:縦ミガキ→縦ナデ・ケズリ　内面:ナデ→横ミガキ　外底面:ミガキ	
2号住居跡(SB2)						
6	弥生	高坏	ママ	床直	外面:縦ミガキ　内面:ハケメ→ナデ	三角形透孔4孔 赤彩
7	弥生	鉢	ママ	下層	外面:ミガキ　内面:不明	赤彩
8	弥生	甕	ママ	下層	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	
9	弥生	蓋	2/3	床直	外面:ハケメ→ミガキ　内面:裾部－ハケメ 摘部－指おさえ	頂部穿孔
10	弥生	甕	ママ	床直	内面:横ミガキ	簾状文 波状文(下→上)
3号住居跡(SB3)						
11	弥生	壺	1/3	覆土	外面:横ミガキ　内面:ナデ	赤彩
12	弥生	壺?	1/3	床直	外面:縦ミガキ　内面:不明	赤彩
4号住居跡(SB4)						
13	弥生	壺	1/2	下層	外面:横ミガキ　内面:横ミガキ	T字文(上→下) 胴部内面ミガキ 赤彩
14	弥生	壺	1/3	床面	外面:横ミガキ　内面:ハケメ→ナデ	T字文 赤彩
15	弥生	壺	1/2	下層	外面:口唇部－横ミガキ 口縁部－縦ミガキ　内面:横ミガキ	T字文 複合口縁 赤彩
16	弥生	高坏?	2/3	下層	外面:口縁部－横ミガキ 胴部－縦ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
17	弥生	蓋?	ママ	ピット覆土	ミガキ	穿孔
18	弥生	広口壺	1/2	下層	外面:横ミガキ　内面:不明	緊縛孔(未貫通孔あり) 赤彩
19	弥生	鉢	1/3	下層	外面:縦ミガキ→横ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩 外底面赤彩
20	弥生	鉢	完	下層	外面:縦ミガキ→横ミガキ　内面:横ミガキ　外底面:ミガキ	赤彩
21	弥生	甕	1/4	下層	内面:横・斜ミガキ	簾状文→波状文(下→上／上→下)
5号住居跡(SB5)						
22	弥生	壺	2/3	中層	外面:横ミガキ　内面:ヘラ調整	T字文(上→下) 赤彩
23	弥生	高坏	2/3	下層	外面:横・斜ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
24	弥生	高坏	2/3	ピット覆土	外面:坏部－横ミガキ 脚部－ハケメ→縦ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
25	弥生	高坏	2/3	下層	外面:坏部－横ミガキ 脚部－縦ミガキ　内面:縦ミガキ→横ミガキ	赤彩
26	弥生	高坏	ママ	ピット覆土	外面:縦ミガキ→横ミガキ　内面:ナデ	坏部底部に刺突あり 赤彩
27	弥生	高坏	ママ	覆土	外面:横ミガキ　内面:横ナデ	刺突状透孔6単位 赤彩
28	弥生	蓋	1/2	下層	外面:裾部－縦ミガキ 摘部－指おさえ　内面:横ミガキ・縦ミガキ	頂部穿孔
29	弥生	片口鉢	2/3	下層	外面:縦ミガキ・斜ミガキ　内面:横ミガキ	内面ベンガラ付着
30	弥生	甑	2/3	下層	外面:ハケメ→縦ミガキ　内面:ヘラ調整→縦ミガキ	底部穿孔2孔
31	弥生	甕	1/2	床直	外面:ナデ　内面:不明	簾状文 波状文
32	弥生	甕	ママ	下層	外面:ナデ　内面:口縁部－横ナデ 胴部－横ミガキ→縦ミガキ	簾状文→波状文(下→上／上→下)
7号住居跡(SB7)						
33	弥生	壺	1/2	中層	外面:横ナデ　内面:横ナデ	LR縄紋 施文域上端に段あり
34	弥生	蓋	1/2	中層	外面:摘部－指おさえ→横ミガキ 裾部－縦ミガキ 内面:摘部－ハケメ→ナデ 裾部－横ミガキ	頂部穿孔
35	弥生	甕	1/4	中層	不明	簾状文 波状文(上→下)
8号住居跡(SB8)						
36	弥生	壺	1/3	検出面	外面:胴上半－横ミガキ 胴下半－ハケメ→ミガキ　内面:不明	T字文(上→下、最下段のみ簾状) ボタン状貼り付け 赤彩
6住居跡(SB6)						
37	弥生	壺	ママ	下層	外面:縦ミガキ　内面:頸部－縦ミガキ 胴部－ナデ	赤彩
38	弥生	広口壺?	1/2	下層	外面:横ミガキ　内面:不明	赤彩
39	弥生	壺	2/3	下層	外面:縦ミガキ　内面:口縁部－横ミガキ 胴部－ハケメ→ナデ	赤彩
40	弥生	壺	3/4	床面	外面:ナデ→縦ミガキ　内面:口唇部－横ミガキ 口縁部－縦ミガキ	刺突文
41	弥生	壺	3/4	下層	外面:ハケメ→縦ミガキ　内面:ハケメ→ナデ ヘラ調整	LR縄紋→横位沈線
42	弥生	高坏	ママ	下層	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
43	弥生	広口壺	2/3	床直	外面:横ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
44	弥生	甕	3/4	検出面	外面:口縁部－縦ミガキ→横ミガキ 胴部－縦ミガキ　内面:横ミガキ	
45	弥生	台付甕	1/3	中層	外面:胴部－不明 脚台部－縦ミガキ　内面:不明	
1号方形周溝墓(SZ1)						
46	弥生	壺	2/3	上層	不明	口縁部－LR縄紋→鋸歯文 頸部－LR縄紋→横位沈線
47	弥生	壺	1/2	中層	外面:不明　内面:ハケメ→縦ミガキ	横位沈線→RL縄紋
48	弥生?	高坏	ママ	中層	外面:坏部－横ミガキ 脚部－縦ミガキ→横ミガキ 内面:坏部－横ミガキ 脚部－ハケメ→ナデ ヘラ調整	三角形透孔3孔 赤彩
49	弥生?	高坏	ママ	中層	外面:坏部－横ミガキ 脚部－縦ミガキ 内面:坏部－横ミガキ 脚部－ハケメ→ナデ	円形透孔4孔 赤彩
50	土師	壺	完	底面	外面:ハケメ→縦ミガキ→横ミガキ 内面:口縁部－横ミガキ 頸部－ケズリ 胴部－ナデ	
3号溝(SD3)						
51	土師	甕	1/5	覆土	外面:斜ハケメ→横ハケメ 口縁部－斜刻文　内面:口縁部－ミガキ 胴部－ナデ	口縁部－斜刻文 S字甕A類
10号土坑(SK10)						
52	弥生	高坏	3/4	下層	外面:口唇部－横ミガキ 坏部・脚部－縦ミガキ 裾部－横ミガキ 内面:坏部－横ミガキ 脚部－ヘラ調整	赤彩
53	弥生	鉢	ママ	下層	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
24号土坑(SK24)						
54	土師	甕?	ママ	下層	外面:ハケメ　内面:ハケメ　外底面:調整あり	
55	弥生	台付甕	ママ	下層	外面:ナデ　内面:胴部－ナデ 脚台部－ナデ	
検出面						
56	弥生	高坏	1/3		外面:横ミガキ　内面:横ミガキ	口縁部突起あり 赤彩
57	土師	坏	ママ		外面:横ナデ　内面:横ミガキ 外底面:ヘラケズリ	内面黒色処理 底部焼成後穿孔
拓影図						
58	弥生	壺		SB1 下層	外面:ナデ　内面:ナデ	口縁部－縄紋 口唇部－鋸歯文 口縁注ぎ口状の部位あり

表16　出土土器観察表①

No.	種別	器種	遺存度	出土層位	調整	文様等
59	弥生	甕		SB1 下層	外面:ナデ　内面:ナデ	コの字重文(横線→縦線) ボタン状貼り付け
60	弥生	壺?		SB2 下層	内面:ハケメ→ナデ	文様あり
61	弥生	甕?		SB3 覆土	外面:ミガキ　内面:ミガキ	波状文
62	弥生	壺		SZ1 中層	外面:ハケメ→ナデ　内面:不明	横位沈線　刺突文　鋸歯文
63	土師	壺		SZ1 下層	外面:ナデ　内面:ナデ	擬凹線　北陸系
64	弥生	壺		SD1 覆土	外面:ナデ　内面:不明	擬凹線　北陸系
65	弥生	壺		SD1 覆土	内面:ハケメ→ナデ	LR縄紋→鋸歯文
66	弥生	壺?		SD6 覆土	外面:ハケメ→ナデ　内面:ミガキ	横位沈線→刺突文(櫛歯状工具による刺突?)
67	弥生	壺		SK24 下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ナデ	LR縄紋→横位沈線・鋸歯文

猯山二小島団地二期工事地点(KYMO－Y)

2号住居跡(SB2)						
1	弥生	壺	2/3	下層	外面:口唇部・胴部－横ミガキ　口縁部－縦ミガキ 内面:口縁部－横ミガキ　胴部－横ナデ	T字文　赤彩
2	弥生	蓋	完	下層	外面:縦ミガキ→横ミガキ　内面:横ナデ	
3	弥生	台付甕	ママ	下層	外面:不明　内面:ナデ	脚台部内面にベンガラ付着
4号住居跡(SB4)						
4	弥生	高坏	ママ	覆土	外面:坏部－縦ミガキ→横ミガキ　脚部－縦ミガキ 内面:坏部－横・斜ミガキ　脚部－ハケメ→ナデ	口縁部突起4単位　赤彩
5	弥生	甕	1/4	下層	外面:ミガキ　内面:横ミガキ	5本1組の櫛歯状工具による縦羽状文
6	弥生	注口土器	ママ	床面	外面:口唇部－横ナデ　胴部－縦ケズリ→縦ミガキ 内面:口唇部－横ナデ　胴部－ヘラ調整	注口部は差し込んで成形
7	土師	高坏	ママ	上層	外面:不明　坏部下半－指おさえ　内面:不明	
8	土師	高坏	1/2	上層	外面:縦ミガキ→横ミガキ　内面:横ナデ	赤彩
6号住居跡(SB6)						
9	土師	高坏	1/2	下層	外面:不明　内面:不明	
10	土師	甕	1/4	上層	外面:ハケメ　内面:ハケメ→ナデ	
8号住居跡(SB8)						
11	土師	甕	1/3	上層	外面:口縁部－ハケメ→横ナデ　胴部－縦ミガキ 内面:口縁部－横ミガキ　胴部－未調整	
12	土師	甑	3/4	上層	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	底部穿孔
9号住居跡(SB9)						
13	弥生	高坏	3/4	床面	外面:横ミガキ　内面:坏部－横ミガキ　脚部－ヘラ調整	口縁部突起4単位　三角形透孔4単位　赤彩
14	弥生	広口壺	2/3	床面	外面:口縁部・胴上半－横ミガキ　胴下半－縦ミガキ→横ミガキ 内面:ハケメ→横ミガキ	口縁部突起4単位　緊縛孔2孔　赤彩
15	弥生	台付壺	ママ	床直	外面:胴部－横ミガキ　脚台部－縦ミガキ→横ミガキ 内面:胴部－横ナデ　脚台部－ナデ	赤彩
16	弥生	甕	ママ	覆土	外面:縦ミガキ　内面:不明　外底面:調整あり	
7号住居跡(SB7)						
17	弥生	壺	ママ	床直	外面:上段口唇部－横ミガキ　下段口唇部－横ミガキ　口縁部－縦ミガキ 内面:横ミガキ	複合口縁　口縁部突起4単位(上・下段とも)　赤彩
18	弥生	壺	2/3	床面	外面:上段口唇部－縦ミガキ　下段口唇部－横ミガキ　口縁部－縦ミガキ 内面:横ミガキ	複合口縁　口縁部突起4単位(上・下段とも)　赤彩
19	弥生	壺	ママ	床直	外面:口縁部－縦ミガキ　胴部－横ミガキ　内面:不明	櫛描直線文3段　外面のみ赤彩
20	弥生	壺	ママ	床直	外面:口唇部－横ミガキ　口縁部－縦ミガキ　胴部－横ミガキ→斜ミガキ 内面:口縁部－横ミガキ　胴部－不明	T字文(上→下)→簾状文　口縁部突起4単位　赤彩
21	弥生	壺	3/4	床直	外面:口唇部－横ミガキ　口縁部－縦・斜ミガキ　胴部－横ミガキ 内面:口縁部－ハケメ→横ミガキ　胴部－横ナデ	T字文(上→下)　ボタン状貼り付け　赤彩
22	弥生	壺	ママ	床直	外面:横ミガキ　内面:横ナデ　外底面:ナデ	赤彩
23	弥生	甕	ママ	中層	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ　外底面:ケズリ	
24	土師	高坏	ママ	上層	外面:縦ミガキ　内面:ヘラ調整	
25	土師	脚台	3/4	上層	外面:ナデ・指おさえ　内面:ヘラ調整	
26	土師	壺	1/2	上層	外面:口縁部－横ミガキ　胴部－縦ミガキ 内面:口縁部－横ミガキ　胴部－ヘラ調整	
10号住居跡(SB10)						
27	弥生	壺	1/2	床直	外面:口縁部－縦ミガキ　胴部－横ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩　胴部内面ミガキ
28	弥生	壺	2/3	覆土	外面:縦ミガキ　内面:口縁部－横ミガキ　胴部－ハケメ	T字文　赤彩
29	弥生	壺	3/4	床直	外面:胴下半－横ミガキ　底部－斜ミガキ、指おさえ　内面:ハケメ→横ナデ	赤彩塗布の可能性あり
30	弥生	高坏	3/4	中層	外面:脚部－縦ミガキ　裾部－横ミガキ　内面:坏部－ナデ　脚部－ハケメ	コップ形高坏　赤彩
31	弥生	高坏	ママ	下層	外面:脚部－縦ミガキ　裾部－横ミガキ　内面:ハケメ	赤彩
32	弥生	高坏	ママ	中層	外面:脚部－斜ミガキ　裾部－横ミガキ　内面:ハケメ→ナデ	赤彩
33	弥生	台付甕	2/3	床直	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	簾状文　波状文
34	弥生	台付甕	2/3	下層	外面:甕部胴上半－横ミガキ　甕部胴下半・脚台部－縦ミガキ 内面:甕部－横ミガキ　脚台部－ナデ	簾状文→波状文
35	弥生	甕	3/4	ピット覆土	内面:横ミガキ	簾状文→波状文(下→上／上→下)
36	土師	壺	完	覆土	外面:口縁部－横ナデ　胴部－ハケメ　内面:口縁部－ハケメ　胴部－ナデ	所謂「瓢壺」の影響?
12号住居跡(SB12)						
37	弥生	壺	2/3	中層	外面:口唇部－横ミガキ　口縁部－斜ミガキ　胴部－縦ミガキ 内面:口縁部－横ミガキ　胴部－不明	T字文(横位→簾状→縦位)→鋸歯文(三角文)→ボタン状貼り付け
38	弥生	鉢	1/2	覆土	外面:体上半－横ミガキ　体下半－縦ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
14号住居跡(SB14)						
39	弥生	高坏	1/3	床直	外面:横ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
40	弥生	高坏	3/4	床直	外面:坏部－横ミガキ　脚部－縦ミガキ　内面:坏部－横ミガキ　脚部－ハケメ	赤彩
41	弥生	高坏	3/4	下層	外面－縦ミガキ　内面:ハケメ・ナデ	赤彩
14a号住居跡(SB14a)						
42	弥生	台付甕	ママ	ピット覆土	外面:ハケメ→ナデ　内面:甕部－ナデ　脚台部－ハケメ	
43	弥生	台付甕	ママ	ピット覆土	外面:脚台部－ハケメ→縦ミガキ　内面:甕部－横ミガキ　脚台部－ナデ	
44	弥生	蓋	3/4	ピット覆土	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	頂部穿孔10孔
45	弥生	甕	3/4	下層	外面:ハケメ→縦ミガキ　内面:口縁部－横ミガキ　胴部－縦ミガキ	簾状文→波状文(下→上／上→下)

表17　出土土器観察表②

No.	種別	器種	遺存度	出土層位	調整	文様等
14b号住居跡(SB14b)						
46	弥生	甕	ママ	ピット覆土	外面:横ミガキ　内面:横ミガキ	直線文
47	弥生	高坏	完	中層	外面:坏部－縦ミガキ→横ミガキ　脚部－縦ミガキ 内面:坏部－横ミガキ　脚部－ヘラ調整	赤彩
48	弥生	壺	1/4	上層	外面:ハケメ→横ミガキ　内面:ハケメ	T字文(上→下)　ボタン状貼り付け
49	弥生	甕	1/2	中層	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	簾状文　波状文(下→上／上→下)
15号住居跡(SB15)						
50	弥生	台付甕	2/3	上層	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	簾状文→波状文(上→下／?)
16号住居跡(SB16)						
51	土師	壺	ママ	床面	外面:口縁部・胴下半－ナデ　胴上半－ハケメ→ナデ　内面:ナデ	
52	土師	高坏	ママ	床面	外面:ナデ　内面:ミガキ	内面黒色処理
53	土師	高坏	3/4	床直	外面:ハケメ→ナデ　内面:横ミガキ	内面黒色処理
54	土師	坏	2/3	床面	外面:ナデ　内面:ヘラ調整	
55	土師	鉢	ママ	床面	外面:ナデ　内面:ナデ	
56	土師	甕	3/4	床面	外面:ナデ　内面:ナデ	
57	土師	甕	ママ	床面	外面:口縁部－ナデ　胴部－ハケメ　内面:ハケメ→ナデ	
17号住居跡(SB17)						
58	土師	高坏	1/3	下層	外面:縦ミガキ　内面:縦ミガキ	
59	土師	甕	1/3	上層	外面:口縁部－ナデ　胴部－ハケメ→ナデ 内面:口縁部－ナデ　胴部－ハケメ	
18号住居跡(SB18)						
60	弥生	壺	3/4	覆土	外面:口縁部－縦ミガキ　胴部－横ミガキ 内面:口縁部－横ミガキ　胴上半－ナデ　胴下半－ヘラ調整	赤彩
61	弥生	高坏	ママ	上層	外面:坏部－横ミガキ　脚部－縦ミガキ　内面:坏部－横ミガキ　脚部－ナデ	赤彩
62	弥生	高坏	ママ	下層	外面:口唇部－横ミガキ　胴部－斜ミガキ　脚部－縦ミガキ　内面:横ミガキ	口縁部突起4単位　赤彩
63	弥生	鉢	1/2	上層	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
64	弥生	高坏	3/4	下層	外面:横ミガキ　内面:ナデ	三角形透孔4孔　赤彩
65	弥生	高坏	3/4	下層	外面:坏部－横ミガキ　脚部－縦ミガキ　内面:坏部－横ミガキ　脚部－ナデ	三角形透孔4孔　赤彩
66	弥生	高坏	1/2	下層	外面:脚部－縦ミガキ　裾部－横ミガキ　内面:ハケメ→ナデ	三角形透孔4孔　赤彩
20号住居跡(SB20)						
67	弥生	高坏	1/2	床直	外面:横ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
26号住居跡(SB26)						
68	弥生	壺	ママ	覆土	外面:縦ミガキ→横ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
21号住居跡(SB21)						
69	土師	高坏	2/3	上層	外面:脚筒部－縦ミガキ　裾部－斜ミガキ　内面:脚筒部－しぼり　裾部－ナデ	
70	土師	坏	完	下層	外面:ナデ　内面:横ミガキ	内面黒色処理
71	土師	坏	完	下層	外面:横ミガキ　内面:横ミガキ	
22号住居跡(SB22)						
72	弥生	壺	2/3	床面	外面:横ミガキ　内面:口縁部－横ミガキ　胴部－ハケメ	T字文　赤彩
73	弥生	蓋	1/3	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ　摘部－ハケメ	
74	土師	高坏	3/4	下層	外面:縦ミガキ　内面:坏部－横ミガキ　脚部－ハケメ→ナデ	円形透孔3孔
75	土師	甕	1/5	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	北陸系　胎土白色がかる
76	土師	壺	2/3	ピット覆土	外面:口縁部－ハケメ→縦ミガキ　胴部－ハケメ→横ミガキ 内面:口縁部－ハケメ→横ミガキ　胴部－ナデ	所謂「瓢壺」
77	土師	鉢	1/2	ピット覆土	外面:口縁部－ナデ　胴部－縦ミガキ　底部－指おさえ 内面:口縁部－ナデ　胴上半－横ミガキ　胴下半－縦ミガキ	
78	土師	甕	3/4	床直	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ	
23号住居跡(SB23)						
79	弥生	甕	1/2	下層	外面:縦ミガキ　内面:胴部－横ミガキ　底部－縦ミガキ	簾状文　波状文(上→下)
80	土師	小形壺	3/4	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:口縁部－ナデ　胴部－指おさえ	
81	土師	甕	1/3	上層	外面:ハケメ　内面:ヘラ調整	北陸系
27号住居跡(SB27)						
82	弥生	高坏?	3/4	床直	外面:横ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
83	弥生	高坏	2/3	床直	外面:横ミガキ　内面:横ミガキ	底部焼成後穿孔(甑として転用)　赤彩
84	弥生	蓋	2/3	上層	外面:ハケメ　内面:ハケメ	
85	弥生	甕	1/2	床直	内面:横ミガキ	口端部－箆状工具刻文 簾状文→波状文(下→上／上→下)
86	弥生	甕	1/4	中層	内面:ハケメ→横ミガキ	簾状文(上→下)→波状文(下→上／下→上)
87	弥生	台付甕	2/3	上層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ミガキ	簾状文→波状文(下→上／下→上)
88	弥生?	壺	完	上層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	緊縛孔2孔4単位
28号住居跡(SB28)						
89	土師	壺	3/4	中層	外面:不明　内面:口縁部－横ミガキ　胴部－ハケメ→ナデ	
90	土師	高坏	3/4	上層	外面:坏部－縦ミガキ→横ミガキ　脚筒部－縦ミガキ　裾部－横ミガキ 内面:坏部－縦ミガキ　脚部－不明	
91	土師	壺	完	床面	外面:不明　内面:口縁部－横ナデ　胴部－未調整?	小形丸底壷
92	土師?	壺	1/2	ピット覆土	外面:ミガキ　内面:ミガキ　摘部－指おさえ	
93	土師	甕	2/3	下層	外面:ハケメ→縦ミガキ 内面:胴上半－ハケメ→ナデ　胴下半－ケズリ→ナデ　底部－ハケメ	
29号住居跡(SB29)						
94	土師?	高坏	1/2	上層	外面:縦ヘラ調整　内面:ナデ	コップ形高坏
95	弥生	蓋	ママ	床直	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	頂部穿孔
96	弥生	甕	1/2	下層	内面:横ミガキ	簾状文　波状文(上→下)
97	弥生	甕	1/2	床面	外面:胴下半－ハケメ　底部－縦ミガキ　内面:ハケメ→ナデ	簾状文(上→下)→波状文(上→下／上→下)
98	土師	器台	完	上層	外面:坏部－ミガキ　脚部－ハケメ→ミガキ　内面:坏部－ミガキ　脚部－ハケメ	円形透孔3孔
99	土師	甕	1/3	上層	外面:口縁部－横ナデ　胴部－ハケメ→ナデ 内面:口縁部－横ナデ　胴部－ハケメ→ナデ	
100	土師	甕	1/2	上層	外面:ハケメ→ナデ　内面:口縁部－ハケメ→ナデ　胴部－ナデ	
30号住居跡(SB30)						
101	弥生	高坏	ママ	床面	外面:横ミガキ　内面:縦ミガキ	赤彩　東海系
102	弥生	高坏	1/3	中層	外面:ミガキ　内面:ミガキ	赤彩

表18　出土土器観察表③

No.	種別	器種	遺存度	出土層位	調整	文様等
103	弥生	壺	ママ	床面	外面:胴部ー横ミガキ 底部ー縦ミガキ 内面:不明 外底面:ミガキ	赤彩塗布の可能性あり
104	土師	高坏	3/4	覆土	外面:脚筒部ー縦ミガキ 裾部ー横ミガキ 内面:ハケメ	円形透孔4孔
35号住居跡(SB35)						
105	弥生	高坏	1/3	ピット覆土	外面:ハケメ→横ミガキ 内面:横ミガキ	口縁部突起4単位 赤彩
106	土師?	甑	ママ	床直	外面:縦ミガキ 内面:横ミガキ	
34号住居跡(SB34)						
107	弥生	壺	1/3	床直	外面:ミガキ 内面:ナデ	LR縄紋 108と同一個体
108	弥生	壺	3/4	床直	外面:ハケメ→ミガキ 内面:ハケメ→ナデ	粘土帯貼り付けあり(乾燥の際に生じた亀裂を補修したものと考えられる)
109	弥生	甕?	2/3	床直	外面:ハケメ→ナデ 内面:ハケメ→ミガキ	
110	弥生	台付甕	2/3	床直	内面:ハケメ	口縁部ーLR縄紋→鋸歯文 胴部ー「コ」の字重文 ボタン状貼り付け
37号住居跡(SB37)						
111	弥生	壺	ママ	ピット覆土	外面:ハケメ→縦ミガキ 内面:横ミガキ	T字文
112	弥生	壺	1/2	床直	外面:縦ミガキ 内面:口縁部ー横ミガキ 胴部ーハケメ	T字文(上→下) 赤彩
113	弥生	高坏	ママ	床直	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	赤彩
114	弥生	高坏	1/2	床直	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	赤彩
115	弥生	高坏	ママ	下層	外面:縦ミガキ→横ミガキ 内面:ヘラ調整	赤彩
116	弥生	高坏	ママ	ピット覆土	外面:脚部ー縦ミガキ 裾部ー横ミガキ 内面:ハケメ→ナデ	赤彩
117	弥生	蓋	1/3	上層	外面:ミガキ 内面:ミガキ	
118	弥生	鉢	3/4	検出面	外面:ミガキ 内面:横ミガキ 外底面:ミガキ	赤彩
119	弥生	無頸壺	3/4	中層	外面:横ミガキ 内面:斜ミガキ	緊縛孔2孔2単位 赤彩
120	弥生	甕	完	床面	外面:胴下半ー縦ミガキ 底部ー横ミガキ 内面:口縁部ー横ミガキ 胴部ー斜ミガキ	簾状文→波状文(下→上/下→上)
121	弥生	台付甕	2/3	下層	外面:縦ミガキ 内面:横ミガキ	簾状文→波状文(上→下/上→下)
38号住居跡(SB38)						
122	土師?	高坏?	1/4	上層	外面:縦ミガキ 内面:縦ミガキ	
123	弥生	壺	1/2	床直	外面:胴部ー横ミガキ 底部ー縦ミガキ 内面:ナデ	赤彩
124	弥生	壺	1/6	上層	外面:ミガキ 内面:ナデ	擬凹線文 赤彩 北陸系
125	土師?	高坏	2/3	上層	外面:縦ミガキ 内面:ナデ	
126	弥生	甕	1/4	床直	外面:縦ミガキ 内面:横ミガキ→縦ミガキ	簾状文→波状文(?/上→下)
40号住居跡(SB40)						
127	弥生	壺	2/3	床直	外面:口縁部ーハケメ→縦ミガキ 胴部ー横ミガキ 内面:口縁部ー横ミガキ 胴部ーナデ?	T字文(上→下) 赤彩
128	弥生	高坏	3/4	ピット覆土	外面:坏部ー横ミガキ 脚部ー縦ミガキ 裾部ー横ミガキ 内面:坏部ー横ミガキ 脚部ーハケメ	三角形透孔3孔 赤彩
129	弥生	高坏	1/3	床直	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	赤彩
130	弥生	台付甕	ママ	床直	外面:縦ミガキ 内面:甕部ー横ミガキ 脚部ーナデ	
131	弥生	甕	1/3	覆土	外面:縦ナデ? 内面:口縁部ー横ミガキ 胴部ー縦ミガキ	簾状文→波状文(上→下/上→下)
1号方形周溝墓(SZ1)						
132	土師	壺	1/3	下層	外面:ハケメ→ナデ 内面:口縁部ーハケメ→ナデ 胴部ーナデ	
133	土師	高坏	3/4	下層	外面:縦ミガキ 内面:ナデ	
134	土師	脚台	1/2	下層	外面:胴上半ー指おさえ 胴下半ーナデ 内面:ヘラ調整 上面:ナデ	
135	土師	甕	1/3	下層	外面:ナデ 内面:口縁部ーナデ 胴部ーハケメ→ナデ	
1号溝(SD1)						
136	弥生	高坏	ママ	下層	外面:縦ミガキ 内面:ナデ	赤彩
137	土師	高坏	ママ	下層	外面:縦ミガキ 内面:しぼり・ナデ	
138	土師	高坏	3/4	下層	外面:坏胴部ー横ミガキ 坏底部ーナデ 脚部ー縦ミガキ 内面:坏部ー横ミガキ 脚部ー指おさえ、ナデ	
139	土師	坏	1/3	下層	外面:ナデ 内面:ミガキ	
140	須恵	長頸瓶	ママ	下層	回転ナデ	
141	須恵	坏	1/4	上層	回転ナデ 底部:ヘラ切り	
142	須恵	坏	3/4	下層	回転ナデ 底部:ヘラ切り	
143	須恵	甕	1/4	下層	回転ナデ 叩き目	自然釉
2号溝(SD2)						
144	須恵	鉢	1/5	覆土	回転ナデ	
3号溝(SD3)						
145	須恵	坏	3/4	下層	回転ナデ 底部:回転糸切り痕・ヘラケズリ	貼り付け高台
5号溝(SD5)						
146	弥生	高坏	1/2	下層	外面:坏部ー横ミガキ 脚部ー縦ミガキ 内面:未調整	三角形透孔4孔 刺突孔4単位 赤彩
147	土師	壺	3/4	上層	外面:口縁部ーハケメ→横ナデ、指おさえ 胴部ーハケメ→ナデ 内面:口縁部ー横ミガキ 胴部ー指おさえ、未調整	
16号溝(SD16)						
148	土師	高坏	2/3	覆土	外面:縦ミガキ 裾部ー横ミガキ 内面:ナデ	
30号溝(SD30)						
149	土師	台付甕	3/4	覆土	外面:ハケメ→ナデ 内面:甕部ー横ミガキ 脚台部ーナデ	
28号溝(SD28)						
150	須恵	坏	1/4	覆土	回転ナデ 底部:回転ヘラケズリ→ナデ	貼り付け高台
151	須恵	坏	1/3	覆土	回転ナデ 底部:ヘラ切り→ナデ	
152	須恵	短頸壺	1/4	覆土	回転ナデ	
3号土坑(SK3)						
153	弥生	壺	3/4	下層	外面:縦ミガキ 内面:口縁部ー横ミガキ 胴部ー横ナデ	T字文 赤彩
154	弥生	壺	3/4	下層	外面:胴部ー横ミガキ 底部ー縦・横ミガキ 内面:胴部ーナデ 底部ーハケメ→ナデ	赤彩
155	弥生	広口壺	3/4	下層	外面:胴部ー横ミガキ 底部ー縦ナデ→横ミガキ 内面:横ミガキ	簾状文 緊縛孔2孔(焼成後穿孔) 赤彩
5号土坑(SK5)						
156	弥生	壺	1/5	上層	外面:ハケメ→縦ミガキ 内面:ナデ	波状文
14号土坑(SK14)						
157	弥生	蓋	ママ	下層	ナデ	綾杉文 穿孔
158	弥生	高坏	2/3	下層	外面:坏部ー横ミガキ 脚部ー縦ミガキ 内面:坏部ー横ミガキ 脚部ーナデ	口縁部突起4単位 三角形透孔3孔 赤彩

表19 出土土器観察表④

No.	種別	器種	遺存度	出土層位	調整	文様等
11号土坑(SK11)						
159	弥生	鉢	2/3	上層	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ　外底面:ミガキ	赤彩
160	弥生	台付甕	3/4	上層	外面:甕部－横ミガキ 脚台部－ハケメ→横ミガキ 内面:口縁部－横ミガキ 胴部－斜ミガキ 脚台部－ナデ	簾状文→波状文(上→下／上→下)
10号土坑(SK10)						
161	弥生	高坏	2/3	上層	外面:坏部－横ミガキ 脚部－縦ミガキ　内面:坏部－横ミガキ 脚部－ナデ	赤彩
15号土坑(SK15)						
162	土師	高坏	3/4	覆土	外面:縦・斜ミガキ　内面:ヘラ調整	円形透孔3孔
12号土坑(SK12)						
163	土師	鉢	完	覆土	外面:口縁部－横ナデ 胴部－横ミガキ 内面:口縁部－横ナデ 胴部－ヘラ調整	
17号土坑(SK17)						
164	土師	壺	1/2	上層	外面:ハケメ　内面:ハケメ→ナデ	
165	土師	壺	1/5	上層	外面:ハケメ　内面:ハケメ	縦位沈線3本 東海系
166	土師	壺	2/3	中層	外面:縦ミガキ　内面:ナデ	
167	土師	壺	1/5	下層	外面:ナデ　内面:ナデ	北陸系 胎土白色がかる
168	土師	壺	1/3	上層	外面:ハケメ　内面:胴部－ハケメ→ナデ 底部－ハケメ	
169	土師	壺	完	下層	外面:口縁部－縦ミガキ 胴上半－ハケメ→縦ミガキ 胴下半－ハケメ→横ミガキ 内面:口縁部－横ミガキ 胴部－横ナデ 底部－ハケメ	所謂「瓢壺」の影響?
170	土師	高坏	1/3	中層	外面:脚部－縦ミガキ 裾部－横ミガキ　内面:横ナデ	内面裾部に赤彩部位あり
171	土師	高坏	ママ	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ	円形透孔3孔
172	土師	甕	1/4	下層	外面:口縁部－横ナデ 胴部－ハケメ 内面:口縁部－横ナデ 胴部－ハケメ→ナデ	
173	土師	台付甕	3/4	下層	外面:縦ミガキ　内面:ハケメ→ナデ	
174	土師	台付甕	ママ	下層	外面:甕部－ハケメ→ナデ 脚台部－ハケメ 内面:甕部－ナデ 脚台部－ナデ	
175	土師	台付甕	3/4	下層	外面:ハケメ　内面:ハケメ	
176	土師	台付甕	1/2	上層	外面:ハケメ　内面:ハケメ→ナデ	
16号土坑(SK16)						
177	土師	壺	1/4	覆土	外面:口唇部－ハケメ→横ミガキ 口縁部－縦ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
178	弥生	高坏	1/4	下層	外面:口唇部－ナデ 坏部－縦ミガキ　内面:横ミガキ	赤彩
179	土師	壺	ママ	下層	外面:口唇部－ナデ 口縁部－ハケメ→縦ミガキ　内面:横ミガキ	
180	土師	壺	3/4	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:口縁部－ハケメ→ナデ 胴部－ナデ	
181	土師	壺	ママ	下層	外面:口唇部－横ナデ 口縁部・胴部－ハケメ　内面:ハケメ→ナデ	所謂「瓢壺」
182	土師	小形甕	3/4	覆土	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	
183	土師	小形甕	1/2	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	
184	土師	小形壺	完	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	
185	土師	小形壺	完	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	
186	土師	小形壺	完	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	
187	土師	小形壺	完	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	
188	土師	高坏	完	覆土	外面:坏部－横ミガキ 脚部－ハケメ→縦ミガキ 内面:坏部－不明 脚部－ハケメ→ナデ	
189	土師	高坏	ママ	覆土	外面:坏部－横ミガキ 脚部－縦ミガキ　内面:坏部－ミガキ 脚部－ハケメ	円形透孔3孔
190	土師	高坏	ママ	覆土	外面:坏部・脚部－縦ミガキ 坏底部－横ミガキ 内面:坏部－縦ミガキ 脚部－ハケメ	円形透孔3孔
191	土師	甕	2/3	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:口縁部－ハケメ→ナデ 胴部－ナデ	
192	土師	甕	1/4	下層	外面:口縁部－ナデ 胴部－ハケメ→ナデ 内面:口縁部－ナデ 胴部－ハケメ→ナデ	
193	土師	甕	1/2	覆土	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	
194	土師	台付甕	完	下層	外面:口縁部・甕底部－ハケメ→ナデ 甕胴部・脚台部－ハケメ 内面:口縁部－ハケメ→ナデ 胴部－ミガキ 脚台部－ハケメ	
195	土師	甕	2/3	下層	外面:ハケメ→ナデ　内面:口縁部－ハケメ 胴部－ナデ	
196	土師	台付甕	完	下層	外面:口縁部・甕底部・脚台部－ハケメ→ナデ 甕胴部－ハケメ 内面:甕部－ナデ 脚台部－ハケメ	
197	土師	台付甕	ママ	覆土	外面:口縁部－ハケメ→ナデ 胴部－ハケメ 甕底部－ハケメ→縦ミガキ 内面:口縁部－横ミガキ 胴部－横ナデ 脚台部－ハケメ	
198	土師	台付甕	3/4	下層	外面:甕部－ハケメ→ミガキ 脚台部－ハケメ→ナデ 内面:甕部－ミガキ? 脚台部－ハケメ	
18号土坑(SK18)						
199	土師	壺	2/3	下層	外面:口縁部－ナデ 胴上半－斜ミガキ 胴下半－縦ケズリ→縦ミガキ 内面:ナデ	
28号土坑(SK28)						
200	弥生	壺	ママ	下層	外面:ハケメ→縦ミガキ　内面:ハケメ→ナデ	LR縄紋→横位沈線2本・鋸歯文
201	弥生	甑	ママ	覆土	不明	底部穿孔
202	弥生	台付甕	3/4	覆土	不明	
203	弥生	壺	3/4	下層	外面:口唇部直下－横ミガキ 口縁部－縦ミガキ　内面:横ミガキ	口縁部－波状文　胴部－T字文 赤彩内面のみ
204	弥生	壺	2/3	下層	外面:文様直下－横ミガキ 胴部－縦ミガキ　内面:ハケメ	T字文
34号土坑(SK34)						
205	弥生	高坏	ママ	下層	外面:坏部－横ミガキ 脚部－縦ミガキ 裾部－横ミガキ→縦ミガキ 内面:坏部－ミガキ 脚部－ナデ	赤彩
206	弥生	高坏	ママ	下層	外面:脚部－縦ミガキ 裾部－横ミガキ 内面:坏部－ミガキ 脚部－ハケメ→ナデ	赤彩
207	弥生	甕	2/3	覆土	内面:横ミガキ	簾状文 波状文(上→下)
208	弥生	甕	3/4	下層	外面:ミガキ　内面:横ミガキ	簾状文 波状文(上→下／上→下)
209	弥生	甕	1/2	覆土	外面:ミガキ　内面:横ミガキ	簾状文 波状文(上→下／上→下)
210	弥生	甕	1/3	覆土	内面:口縁部－横ミガキ 胴部－斜ケズリ→横ミガキ	簾状文→波状文(下→上／上→下・右→左)
57号土坑(SK57)						
211	弥生	鉢	2/3	覆土	外面:口唇部－横ミガキ 胴部－横ミガキ→縦ミガキ 内面:横ミガキ　外底面－ナデ	赤彩
212	弥生	甕	1/3	覆土	外面:不明　内面:横ナデ	簾状文 波状文

表20　出土土器観察表⑤

No.	種別	器種	遺存度	出土層位	調整	文様等
213	弥生	壺	2/3	上層	外面:胴部―横ミガキ 底部―縦ミガキ 内面:横ミガキ	波状文(上→下・右→左)
70号土坑(SK70)						
214	弥生	壺	ママ	下層	外面:胴部―横・斜ミガキ 底部―縦ミガキ 内面:ヘラ調整 外底面:工具痕あり	赤彩
215	弥生	広口壺	完	覆土	外面:口縁部―横ミガキ 胴部―縦ミガキ 内面:口縁部―横ミガキ 胴部―ナデ	焼成後穿孔2孔
71号土坑(SK71)						
216	弥生	高坏	ママ	覆土	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	赤彩
217	土師	高坏	2/3	覆土	外面:ハケメ―縦ミガキ 内面:ナデ	円形透孔3孔
75号土坑(SK75)						
218	弥生	広口壺	3/4	覆土	外面:横・斜ミガキ 内面:ミガキ? 外底面:ミガキ?	赤彩
87号土坑(SK87)						
219	弥生	壺	3/4	覆土	外面:口唇部・文様直上―横ミガキ 頸部―縦ミガキ 胴部―横ミガキ 内面:口縁部―横ミガキ 胴部―ナデ	T字文(上→下) 赤彩
92号土坑(SK92)						
220	土師	高坏	1/2	覆土	外面:坏部―横ミガキ→縦ミガキ 坏底部―縦ミガキ(放射状) 内面:横ミガキ→縦ミガキ	
94号土坑(SK94)						
221	弥生	壺	1/3	覆土	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	口縁部突起4単位 赤彩
107号土坑(SK107)						
222	弥生	壺	2/3	覆土	外面:縦ミガキ 内面:横ミガキ 外底面:ミガキ	
223	弥生	甕	ママ	覆土	内面:横ミガキ	簾状文→波状文(ノ上→下・右→左)
116号土坑(SK116)						
224	弥生	高坏	3/4	覆土	外面:縦ミガキ 内面:坏部―横ミガキ 脚部―ナデ	赤彩
111号土坑(SK111)						
225	弥生	広口壺	3/4	覆土	外面:横ミガキ 内面:口縁部―横ミガキ 胴部―ヘラ調整	赤彩
226	弥生	広口壺	3/4	覆土	外面:横ミガキ 内面:ミガキ	製鉄孔2孔2単位 赤彩
227	弥生	高坏	3/4	覆土	外面:坏部―横ミガキ 脚部―縦ミガキ 内面:坏部―ミガキ 脚部―ハケメ→ナデ	赤彩
228	弥生	壺	2/3	覆土	外面:縦ミガキ 頸部―横ミガキ 胴部―横ナデ 内面:ハケメ 頸部―未調整	頸部穿孔
229	弥生	広口壺	3/4	覆土	外面:口縁部・胴上半―横ミガキ 胴下半―縦ミガキ→横ミガキ 内面:口縁部―不明 胴上半―ヘラ調整 胴下半―横ミガキ 外底面:ミガキ	
230	弥生	甕	1/2	覆土	外面:口縁部―横ミガキ 胴部―ハケメ 内面:ナデ	北陸系 脚土自色がかる
1号性格不明遺構(SX1)						
231	土師	蓋	1/2	―	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	
232	土師	蓋	1/2	―	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	
233	土師	蓋	完	―	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	
234	土師	蓋	完	―	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	
235	土師	蓋	1/2	―	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	
236	土師	蓋	完	―	外面:横ミガキ 内面:横ミガキ	
237	土師	高坏	2/3	―	外面:坏部―横ミガキ 脚部―ミガキ 内面:坏部―縦ミガキ 脚部―ナデ	
238	土師	高坏	3/4	―	外面:坏部―横ミガキ 脚部―横ミガキ 内面:坏部―横ミガキ 脚部―ナデ	
239	土師	高坏	完	―	外面:ミガキ 内面:坏部―ミガキ 脚部―ナデ	
240	土師	高坏	3/4	―	外面:坏部・脚筒部―縦ミガキ 内面:坏部―横ミガキ 脚部―ナデ	
241	土師	高坏	3/4	―	外面:坏部・脚筒部―縦ミガキ 脚部―縦・横ミガキ 内面:坏部―斜ミガキ 脚部―ナデ	
242	土師	高坏	完	―	外面:坏部・脚部―横ミガキ 脚筒部―縦ミガキ 内面:坏部―横ミガキ 脚部―ナデ	
243	土師	高坏	ママ	―	外面:ミガキ 内面:ミガキ	
244	土師	高坏	3/4	―	外面:ミガキ 内面:ミガキ	
245	土師	高坏	ママ	―	外面:縦ミガキ 内面:ミガキ	内面黒色処理 黒恵器模倣タイプ
246	土師	高坏	ママ	―	外面:脚筒部―縦ミガキ 脚部―横ミガキ 内面:ナデ	
247	土師	高坏	ママ	―	外面:ミガキ 内面:不明	
248	土師	高坏	3/4	―	外面:坏部・脚筒部―縦ミガキ 脚部―ナデ→横ミガキ 内面:口唇部―横ミガキ 坏部―縦ミガキ 脚部―ナデ	
249	土師	坏	完	―	外面:ハケメ―ミガキ 内面:ミガキ	放射状暗文 内面黒色処理
250	土師	坏	完	―	外面:ハケメ―縦ミガキ 内面:ミガキ	放射状暗文 内面黒色処理
251	土師	坏	完	―	外面:ハケメ―縦ミガキ 内面:縦ミガキ	放射状暗文
252	土師	坏	完	―	外面:ハケメ―ミガキ 内面:縦ミガキ	放射状暗文
253	土師	坏	完	―	外面:ハケメ―ミガキ 内面:横ミガキ	放射状暗文 内面黒色処理
254	土師	坏	完	―	外面:ハケメ―ミガキ 内面:横ミガキ	
255	土師	坏	3/4	―	外面:ハケメ―ミガキ 内面:ミガキ	
256	土師	坏	完	―	外面:ハケメ―ミガキ 内面:ミガキ	
257	土師	坏	完	―	外面:横ミガキ 内面:ミガキ	内面黒色処理
258	土師	坏	完	―	外面:ミガキ 内面:ミガキ	
259	土師	坏	完	―	外面:ミガキ 内面:ミガキ	内面黒色処理
260	土師	坏	完	―	外面:横ミガキ 内面:ミガキ	内面黒色処理
261	土師	坏	完	―	外面:斜ミガキ 内面:横ミガキ	
262	土師	坏	完	―	外面:ミガキ 内面:ミガキ	内面黒色処理
263	土師	坏	3/4	―	外面:横ミガキ 内面:ミガキ	
264	土師	坏	完	―	外面:ハケメ―ミガキ 内面:横ミガキ	内面黒色処理
265	土師	坏	完	―	外面:横ミガキ 内面:ミガキ	内面黒色処理
266	土師	器	3/4	―	不明	
267	土師	鉢	2/3	―	外面:ハケメ―ミガキ 内面:縦ミガキ	牛角状突起(欠損)
検出面						
268	弥生	広口壺?	3/4	VA検出面	外面:胴部―横ミガキ 底部―縦ミガキ 内面:横ミガキ	赤彩
269	弥生	鉢	2/3	VA検出面	外面:縦ミガキ 内面:横ミガキ	突帯貼り付け4単位 赤彩
270	弥生	壺	2/3	VB検出面	外面:縦ミガキ 頸部―指おさえ 内面:横ミガキ	頸部穿孔
271	弥生	高坏	ママ	VA検出面	外面:縦ミガキ? 内面:不明	赤彩

表21　出土土器観察表⑥

No.	種別	器種	遺存度	出土層位	調整	文様等
272	上師	高坏	1/4	YB検出面	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	
273	上師	高坏	1/5	YA検出面	外面:横ミガキ　内面:横ミガキ→縦ミガキ	
274	上師	高坏	ママ	YA検出面	外面:脚部面－縦ミガキ　脚部－縦ナデ→横ミガキ 内面:脚部面－ナデ　脚部－横ミガキ	
275	上師	壺	1/4	YA検出面	外面:口縁部－縦ミガキ　胴部－不明　内面:ナデ	
276	上師	壺	ママ	YC検出面	外面:胴部－不明　底部－横・斜ミガキ　内面:ハケメ→ナデ　外底面:ナデ	
277	上師	壺	2/3	YA検出面	外面:ミガキ　内面:胴部－ナデ　底部－ハケメ	
278	上師	甕?	1/3	YB検出面	外面:ハケメ　内面:ハケメ→ナデ	
279	上師	小形壺	2/3	YA検出面	外面:口縁部－ナデ　胴上半－ハケメ　胴下半－ハケメ→ナデ 内面:口縁部・胴下半－ハケメ　胴上半－ハケメ→ナデ	
280	弥生	小形壺	完	YB検出面	外面:横ミガキ　内面:口縁部－ナデ　胴部－ハケメ	
281	弥生	鉢	1/2	YC検出面	外面:縦ミガキ　内面:横ミガキ	底部穿孔
282	弥生	台付甕	3/4	YA検出面	外面:横ミガキ　内面:ナデ	
283	上師	台付甕	ママ	YB検出面	外面:ヘラケズリ→ナデ　内面:不明	
284	上師	台付甕	3/4	YA検出面	外面:甕部－縦ナデ　脚台部－横ナデ 内面:甕部－ナデ　脚台部－ハケメ→ナデ	
285	上師	台付甕	ママ	YA検出面	外面:口縁部－横ナデ　胴部－ハケメ→ミガキ 内面:口縁部－ハケメ 胴部－ナデ	
286	上師	甕	1/2	YB検出面	外面:口縁部－ナデ　胴部－ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	
287	上師	高坏	3/4	YA検出面	外面:不明　内面:坏部－ミガキ　脚部－ナデ	坏部内面黒色処理
288	上師	坏	3/4	YB検出面	外面:ナデ　内面:口縁部－ナデ　胴部－横ミガキ	内面黒色処理
289	上師	坏	1/2	YB検出面	外面:ナデ　内面:口縁部－横ミガキ　胴部－縦ミガキ	内面黒色処理
290	上師?	鉢?	1/2	YC検出面	外面:口端部－ハケメ→ナデ　胴部－ハケメ→縦ミガキ　内面:ハケメ→横ミガキ	口縁部鋸歯状圧痕文
291	上師?	鉢	1/2	YB検出面	外面:ハケメ→ナデ　内面:ハケメ→ナデ	外底面木葉痕
292	?	杯?	3/4	YA検出面	外面:ミガキ　内面:ナデ	
293	須恵	横瓶	ママ	YA検出面	外面:ナデ　内面:ナデ	
拓影図						
294	上師	壺		SD2 覆土	外面:ハケメ　内面:ハケメ	粘土帯貼り付けをハケで押圧する事により口端部小渡状を作出　ハケ押圧による鋸状文
295	弥生	壺		SD11 覆土	内面:ナデ	無節縄L0.5縄紋 S字状結節文 ボタン状貼り付け
296	?	?		SD6 覆土	外面:ナデ　内面:ナデ	口端部横位圧痕

※遺存度は図示した部位の遺存度を表す。「ママ」は図示した部位が完全に遺存している事を示し、数字は遺存率を示す。

※出土層位は調査中の遺物取り上げ時の記載をそのまま使用している。

※時代に限らず土器の成形或いは調整（整形）に係る用語は未だ明確に概念化されておらず、各個人間で微妙な齟齬が生じているのが現状であろう。更なる研究の深化を目指すためにも、これらの概念の統一・共有化が一刻も早く望まれる。しかしながら、本報告書においてその大任を果たすことは叶わないので提言に留め置き、以下に今回の観察に際して、調整、文様等の項目において使用している用語や記号について説明する。

・ハケメ：ハケメ調整の痕跡を残す器面状態を指す。

・ヘラ調整：ハケメとは異なる方形の工具痕を残す器面状態を指す。

・ナデ：器面は平坦だがややざらつく様な印象を受ける。ミガキの前段階的な調整を指す。

・ミガキ：一般的に“ヘラミガキ”と呼ばれるような、平滑かつ光沢を帯びるような器面状態をミガキと呼ぶ。ミガキにおける工具痕の幅はハケメやナデで観察されるものよりも概して細い傾向にある。ナデの次段階的な調整といえる。

・指おさえ：成形時或いは調整時における指頭痕を残すもの指す。

・縦　横　斜：ナデとミガキの方向を指す。「横ナデ」ならばナデが横方向に行われたように観察出来たことを示し、「縦ミガキ」ならばミガキが縦方向に行われたように観察出来たことを示す。これらの接頭語が付かずにただ「ナデ」「ミガキ」と記述してあるものは調整方向が観察できなかったものを示す。

・→：調整や文様などの施順を示す。例えば「縄紋→沈線」ならば、縄紋を施紋した後で、沈線を施文したという事を表す。「上→下」ならば波状文や櫛状文などの横描文様が上段から下段に向かって施文されたことを表す。

・／：弥生時代後期（箱清水期）の壺形土器に多くみられるような口縁部に波状文、頸部に櫛状文、胴部に波状文という文様構成を取る場合に口縁部での施順と胴部での施順を併記するために用いる。例えば図60－21の個体は口縁部の波状文は下段から上段へ向けて施文される（「下→上」）が、胴部の波状文は上段から下段へ向けて施文される（「上→下」）ので、この施順を「波状文（下→上／上→下）」という様に記載するために用いる。

表22　出土土器観察表⑦

2　石器

今回の調査では、検出された石は調査時に石器・石製品の可能性があるもののみを採取して持ち帰り、整理作業過程において再び人為の有無の判定を行い、最終的に製品と判断されたものの全てを報告することとした。その結果、磨製石鏃３点、磨製石庖丁１点、紡錘車１点、玉状小石１点、打製石斧４点、扁平片刃石斧８点、太形蛤刃石斧４点、石槌２点、剥片石器２点、軽石製品２点、敲石12点、砥石６点の計46点のほか、石器製作に伴うと思われる剥片なども認められた。以下に、肉眼観察における所見などを含め、その概略を種別ごとに記す。

磨製石鏃（図83－１～３）

全て頁岩を石材とする。いずれも欠損品であり、全容は明らかでないが、２・３は凹基無茎形を呈し、両面穿孔が施される。また２は基部周辺に面取りが認められる。

磨製石庖丁（図83－４）

遺存状態が悪いため全容は明らかではないが、形態や調整方法などから安山岩製の磨製石庖丁と判断した。遺存部両面ともに良く研磨されており、穿孔は１孔のみ確認される。

紡錘車（図83－５）

自然面および穿孔内面は良く研磨されているが、上面及び下面は打ち欠いたままの状態を留める。欠損が著しく全容は不明であるが、断面形態が台形状を呈することなどの形態的特徴を加味し、蛇紋岩製の紡錘車と判断した。

玉状小石（図83－６）

灰白色で全面に光沢を持つが、研磨痕や使用痕などは確認出来ない。

打製石斧（図83－７～10）

４点とも全面に剥離が及んでいる。９は最頂部平坦面に研磨痕が認められる。摩耗痕や線状痕などの明瞭な使用痕は観察出来なかった。７は珪質岩、８は粘板岩、９・10は頁岩を石材とする。

扁平片刃石斧（図83－11～18）

11・12は変質輝緑岩を石材とする、敲打整形段階の未製品と考えられる。13は頁岩製。研磨面を有することから未製品ではなく、欠損品と考えることも出来る。14～18は全面がよく研磨されている。いずれも使用痕は観察出来なかった。14・17は変質輝緑岩、15は頁岩、16は変質玄武岩、18はシルト質砂岩を石材とする。

太形蛤刃石斧（図84－19～22）

19～21は変質輝緑岩を、22は輝石安山岩を石材とする。19・20は敲打整形段階の未製品、21・22は欠損品として捉えられる。22は刃部のみの残存である。いずれにも使用痕は観察出来なかった。

石槌（図84－23・24）

23・24とも変質輝緑岩を石材とする。23は太形蛤刃石斧を転用した未製品と考えられる。24の機能面は鏡面状を呈する。

剥片刃器（図84－25・26）

打製石斧と同様に自然面は残されていない。25は珪質岩を石材とし、研磨痕が認められる。26は粘板岩製で、剥離成形により刃部が作出されており、光沢痕が確認できる。

軽石製品（図84－27・28）

覆土中に軽石が認められないことから意図的に遺跡内に持ち込まれたものではあるが、その用途は不明である。27はU字状の溝を有することから、砥石として利用された可能性がある。

敲石（図85－29～40）

敲石は敲打痕がみられるもののほかに、摩耗痕や線状痕が認められるものも含んでいる。29・30・32・34・36・38・40には残存部片端或いは両端に敲打痕が見られる。33・35・39の端部には摩耗痕・線状痕が確認される。また34～36には砥面として使用されたと考えられる部位が観察される。

砥石（図85－41、図86－42～46）

41はチャート製で、そのサイズから土器製作などに用いられたミガキ石と考えられ、数条の線状痕が見られる。42・43はその大きさから手持ち砥石と考えられ、いずれも細い溝状の使用痕を有する。44は全面が機能面であり、鏡面状の砥面やU字状或いはV字状の深い溝を持つ。45は3面にV字状のやや深めの溝を持つ。46は両側面に鏡面状砥面を有することから、金属器の研磨に用いられた可能性が指摘できる。

No.	器種	石材	重量(g)	出土遺構	出土層位	備考
1	磨製石鏃	頁岩	1.3	YB-SB14a	床直	
2	〃	珪質頁岩	1.5	YC-SB30	上層	
3	〃	珪質頁岩	1.6	YB-SB23	下層	
4	磨製石庖丁	安山岩	5.4	YB-SB22	床面	
5	砥種車	蛇紋岩	5.5	YB-SB16	下層	
6	玉状小石	チャート	2.1	YC-SD28	覆土	
7	打製石斧	珪質岩	75.4	D-SZ1	上層	
8	〃	粘板岩	75.7	D-SK22	覆土	
9	〃	頁岩	140.3	D-SZ1	検出面	研磨有り
10	〃	頁岩	25.8	YA-SB7	床直	
11	扁平片刃石斧	変質輝緑岩	316.6	YA-SB7	床直	未製品
12	〃	変質輝緑岩	284.7	D-検出面		未製品
13	〃	頁岩	56.6	D-検出面		未製品
14	〃	変質輝緑岩	279.5	D-SD3	覆土	
15	〃	頁岩	79.8	YB-SB34	床直	
16	〃	変質玄武岩	162.3	YC-検出面		
17	〃	変質輝緑岩	115.8	D-SK21	覆土	
18	〃	シルト質砂岩	12.5	YA-SB10	下層	未製品
19	太形蛤刃石斧	変質輝緑岩	1514.0	YB-SB23	床直	未製品
20	〃	変質輝緑岩	407.6	YA-SB3	覆土	未製品
21	〃	変質輝緑岩	306.8	YA-SD1	覆土	
22	〃	輝石安山岩	78.1	YA-SK17	下層	
23	石錘	変質輝緑岩	541.6	YA-SD1	下層	未製品
24	〃	変質輝緑岩	751.6	D-SD1	覆土	
25	剥片刃器	珪質岩	39.5	YB-SB26	覆土	研磨有り
26	〃	粘板岩	151.7	YA-SB4	上層	光沢痕有り
27	軽石製品	軽石	15.0	YC-SB37	床直	湾状砥面
28	〃	軽石	61.8	YC-SX1	－	
29	敲石	チャート	211.5	YA-SD11	覆土	
30	〃	安山岩	842.7	YB-SK71	覆土	
31	〃	頁岩	507.3	D-SX1	覆土	
32	〃	チャート	447.1	YC-SB35	ピット覆土	
33	〃	硬砂岩	214.3	YA-SD1	下層	
34	〃	硬砂岩	675.3	YC-SB28	下層	敲面有り
35	〃	硬砂岩	196.6	YA-SK16	覆土	敲面有り
36	〃	硬砂岩	508.3	YC-SB38	下層	敲面有り
37	〃	硬砂岩	1270.0	D-SZ1	覆土	
38	〃	硬砂岩	533.8	YB-SB14b	上層	
39	〃	粘板岩	381.5	YB-SB12	下層	
40	〃	粘板岩	843.7	YC-SB37	ピット覆土	敲面有り
41	砥石	チャート	36.0	YB-SB32	覆土	ミガキ石
42	〃	砂岩	90.3	YB-SB25	覆土	手持ち砥石
43	〃	頁岩	184.5	YC-SB38	上層	手持ち砥石
44	〃	砂岩	1233.0	YC－SB28	中層	置き砥石
45	〃	砂岩	1992.0	YB-SB16	床直	置き砥石
46	〃	硬砂岩	3440.0	YA-SB4	床面	置き砥石

※石材観察は多羅尾美恵子が行った。
※出土遺構の「D」はガーデンパーク小鳥地点を、「YA」・「YB」・「YC」はそれぞれ山二小鳥団地地点A区・B区・C区を表す。
※出土層位は調査中の遺物取り上げ時の記載をそのまま使用している。

表23　出土石器一覧表

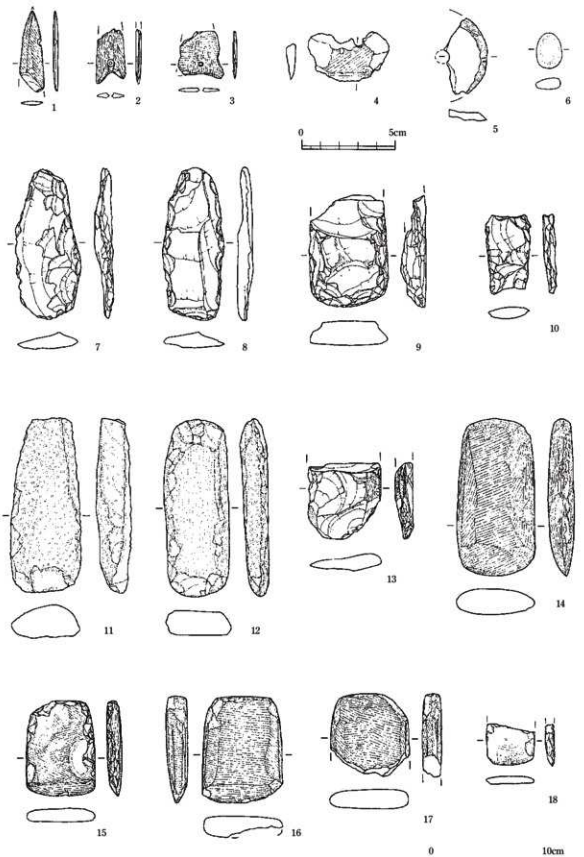


図83　出土石器実測図①（1～6は1：2、7～18は1：3）

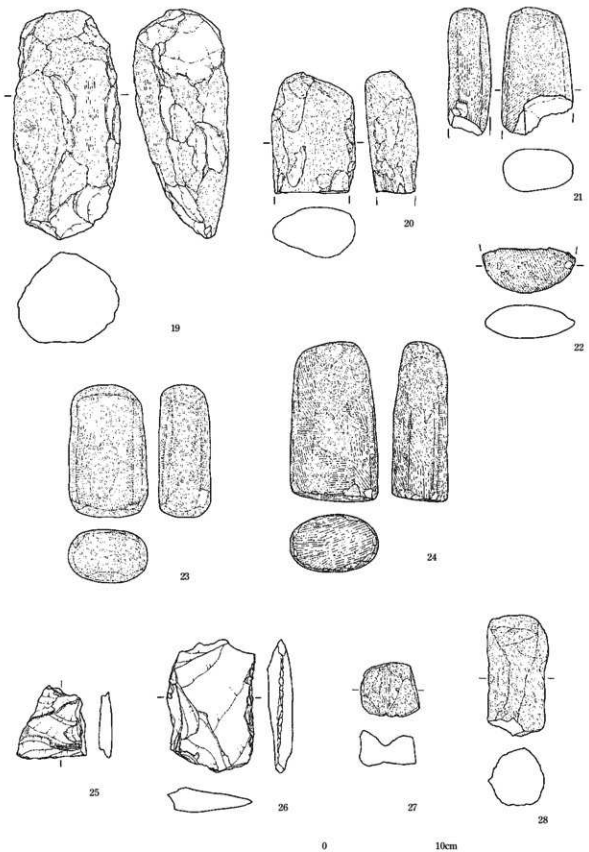


図84　出土石器実測図②（1：3）

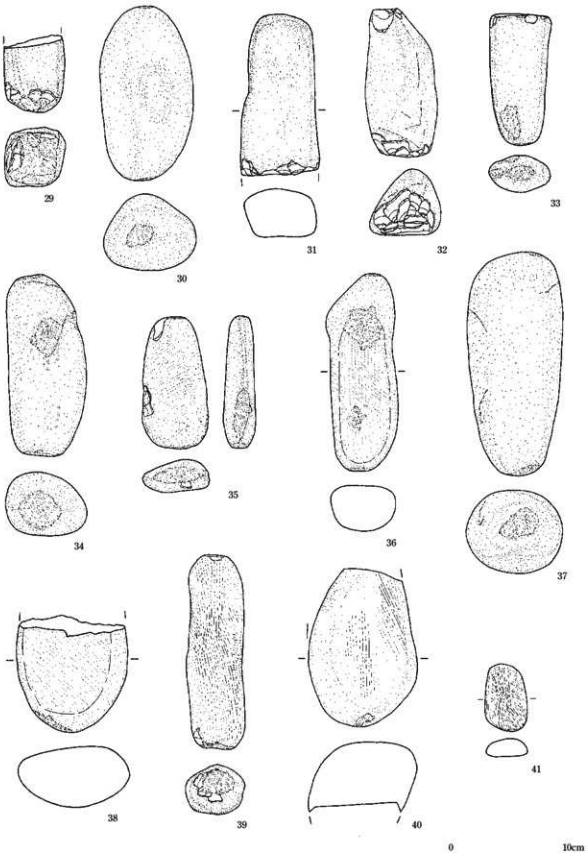


図85　出土石器実測図③（1：3）

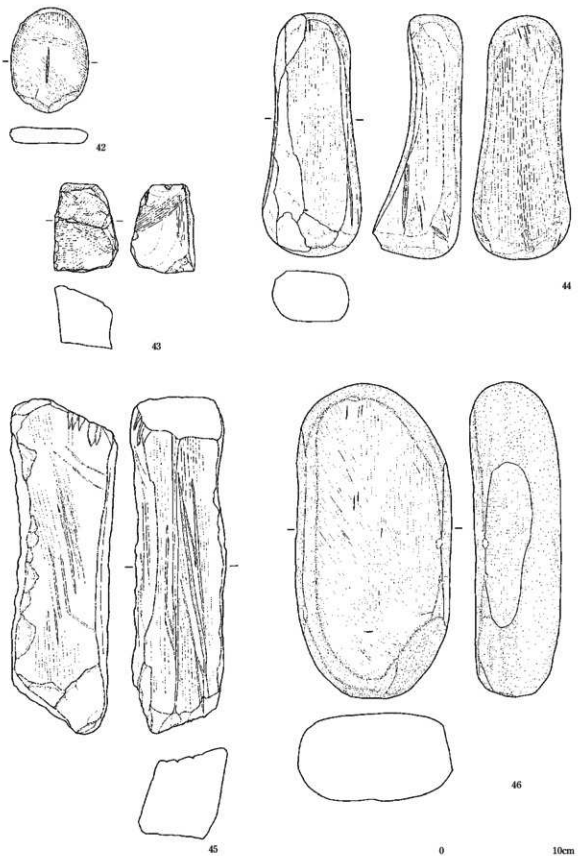
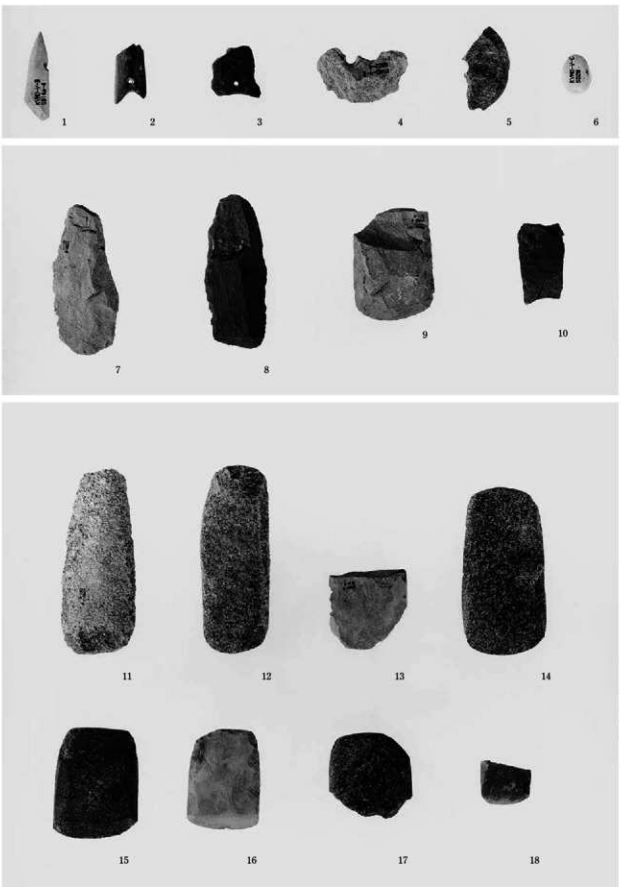
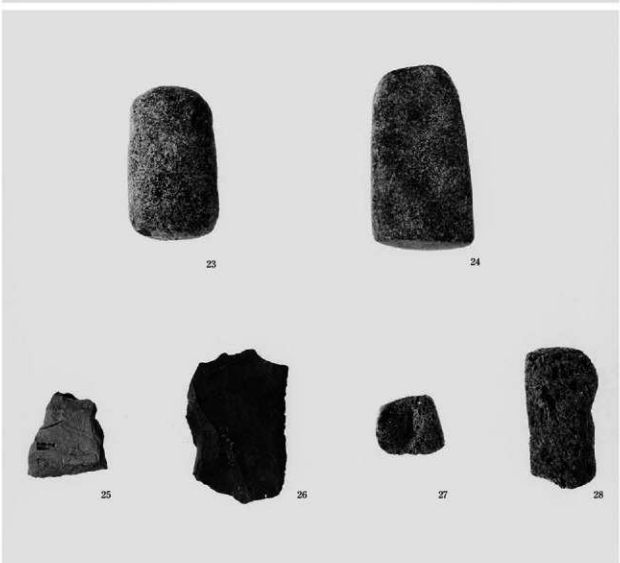


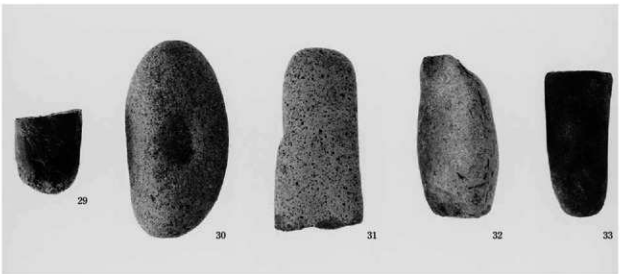
図86　出土石器実測図④（1：3）

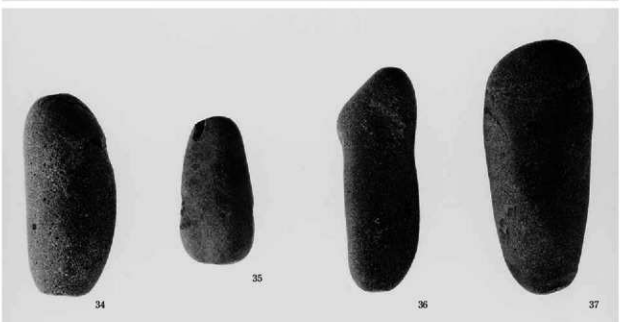


磨製石鏃・磨製石庖丁・紡錘車・玉状小石・打製石斧・扁平片刃石斧

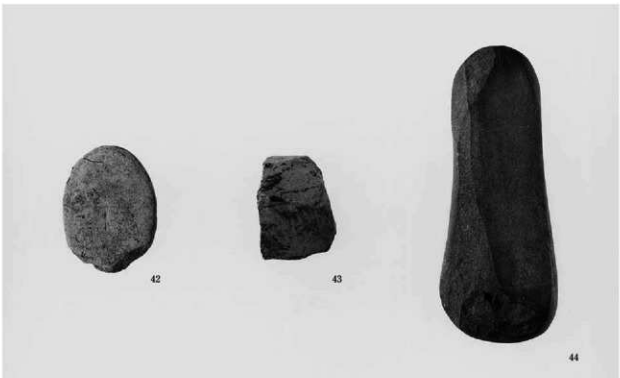


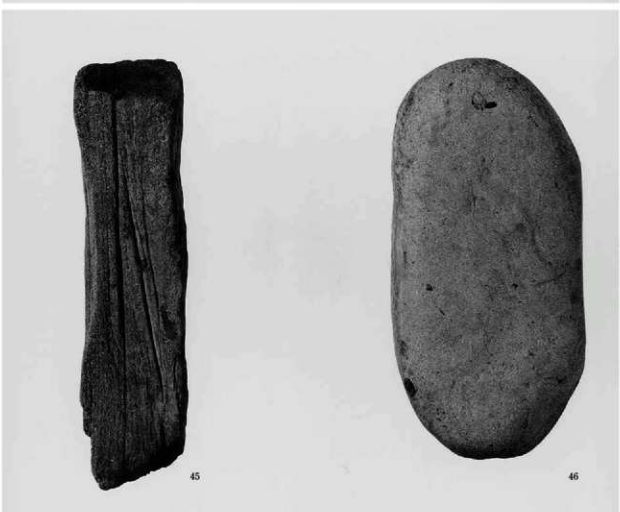
太形蛤刃石斧・石鏃・剥片刃器・軽石製品





敲石・砥石





砥石

3　玉類

ガーデンパーク小島・山二小島団地両地点を一括して、今回の調査に於いて出土した全ての玉類、計45点を図示した。内訳は臼玉40点、勾玉1点、ガラス小玉4点である。

臼玉（図87－1～40）

全て滑石製で、表面に研磨痕を残す。形態から古墳時代後期の所産と推定される。38はおそらく成形時に付いたと思われる溝を有し、その溝に合わせるように側面の研磨痕の方向が変わっている。1～38は山二小島団地地点16号住居跡覆土下層および床面直上から出土し、39・40は28号住居跡覆土中層および下層から出土した。

勾玉（図87－41）

ヒスイ製で乳白色にやや緑色が混ざったような色調を呈する。穿孔は両面から行われている。ガーデンパーク小島地点検出面から出土した。

ガラス小玉（図87－42～45）

色調はコバルトブルーで、いずれにも気泡が観察できる。ガーデンパーク小島地点5号住居跡床面直上から出土した。

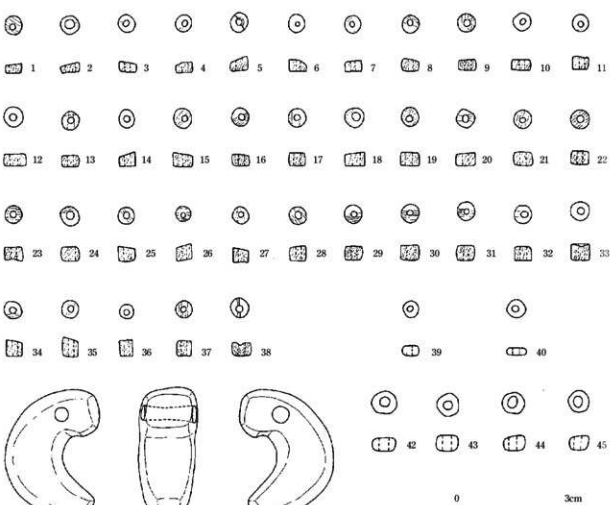
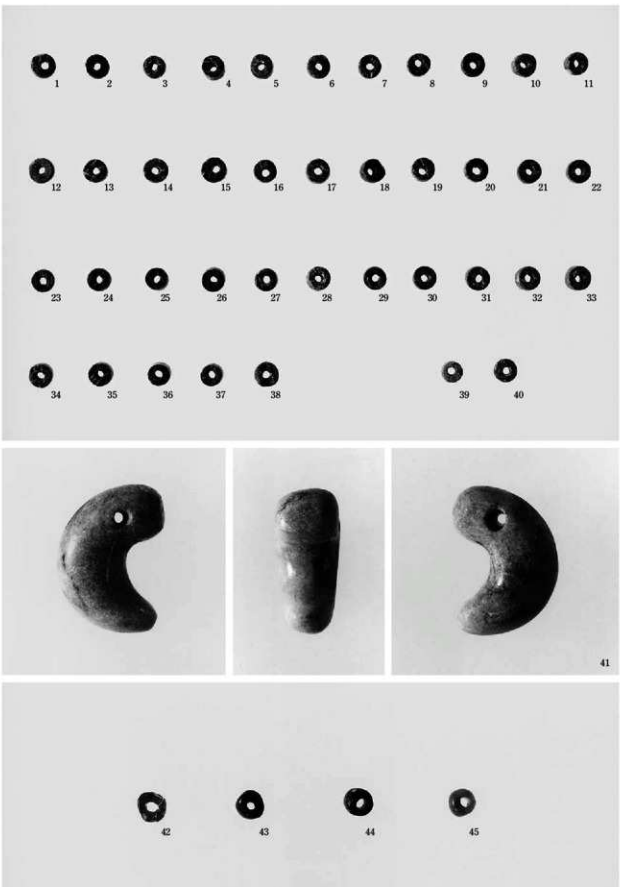


図87　出土玉類実測図（1：1）



出土玉類（臼玉・勾玉・ガラス小玉）

4　土製品

ガーデンパーク小島・山二小島団地両地点を一括し、遺存度に関わらず、出土した全ての土製品を図示した。内訳はミニチュア土器４点、土製勾玉２点、土製円板４点、紡錘車２点、匙形土製品２点の計14点である。以下に概要と観察表を記す。

ミニチュア土器（図88－１～４）

１・２は山二小島団地地点７号住居跡の床面直上より出土した。ともに赤彩が施され、調整や焼成などが類似しており、同一個体の可能性がある。１はＴ字文が施文されていることから壺形ミニチュア土器と判断される。３は蓋の摘部という可能性も考えられるが、成形や調整などからミニチュア土器の脚部と判断した。４は鉢形ミニチュア土器である。

土製勾玉（図88－５・６）

５・６ともに全面にミガキ調整が施され、表面は光沢を持つ。

土製円板（図88－７～10）

土器片を研磨或いは打ち欠いて円形に再加工し、穿孔したものをその形態から土製円板として報告した。表面の摩耗が著しいため、転用された土器片の種別は特定出来なかった。

紡錘車（図88－11・12）

11・12は円形を呈し、中央部に孔を持つという点で、上記の土製円板としたものと共通するが、土器片の転用ではなく、明らかな使用目的を持って製作されたものと捉えられるため、形態的特徴から紡錘車として報告することにした。

匙形土製品（図88－13・14）

形態から匙形土製品と呼称した。13は遺存部全面に赤彩が施される。

No.	種別	遺存度	形態・調整等	出土遺構	層位
1	ミニチュア土器	1/2	輪積み成形　T字文　内・外面：ミガキ　2と同一個体の可能性有り	YA-SB7	床直
2	〃	ママ	輪積み成形　外面：ミガキ　内面：ナデ　1と同一個体の可能性有り	YA-SB7	床直
3	〃	〃	手捏ね成形　ナデ	D-SB8	検出面
4	〃	完形	輪積み成形　外面：ミガキ　内面：ナデ	YB-SK57	上層
5	土製勾玉	〃	ミガキ	D-SB3	床面
6	〃	〃	ミガキ	YB-SB22	ピット覆土
7	土製円板	ママ	土器片転用　両面穿孔　周囲打ち欠き？	YB-SB18	中層
8	〃	〃	土器片転用　両面穿孔	YB-SB34	覆土
9	〃	〃	土器片転用　片側穿孔途中　周囲研磨？	YA-SB10	床直
10	〃	〃	土器片転用　両面穿孔	YB-SB14	中層
11	紡錘車	完形	手捏ね成形　ナデ	YC-SB37	中層
12	〃	ママ	調整不明	YA-SK10	上層
13	匙形土製品	〃	ミガキ　赤彩	YA-SK18	上層
14	〃	〃	雲母含む　外面：ミガキ　内面：ナデ	YC-SK83	覆土

※遺存度は図示した部位の遺存度を表す。「ママ」は図示した部位が完全に遺存していることを示す。

※「ミガキ」や「ナデ」といった調整方法や記載は土器観察と同様であるので、詳しくはそちらを参照していただきたい。

※出土遺構の「D」はガーデンパーク小島地点を、「YA」・「YB」・「YC」はそれぞれ山二小島団地点A区・B区・C区を表す。

※出土層位は調査中の遺物取り上げ時の記載をそのまま使用している。

表24　出土土製品観察表

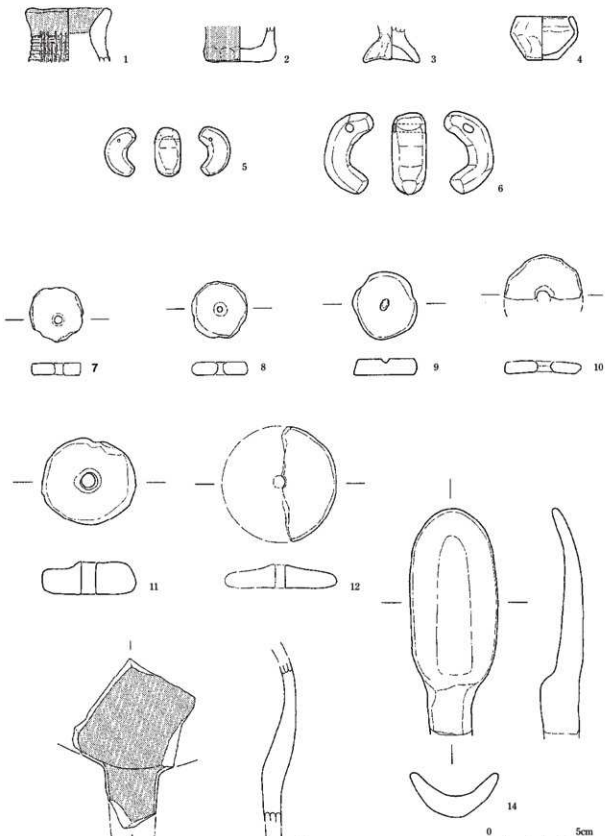
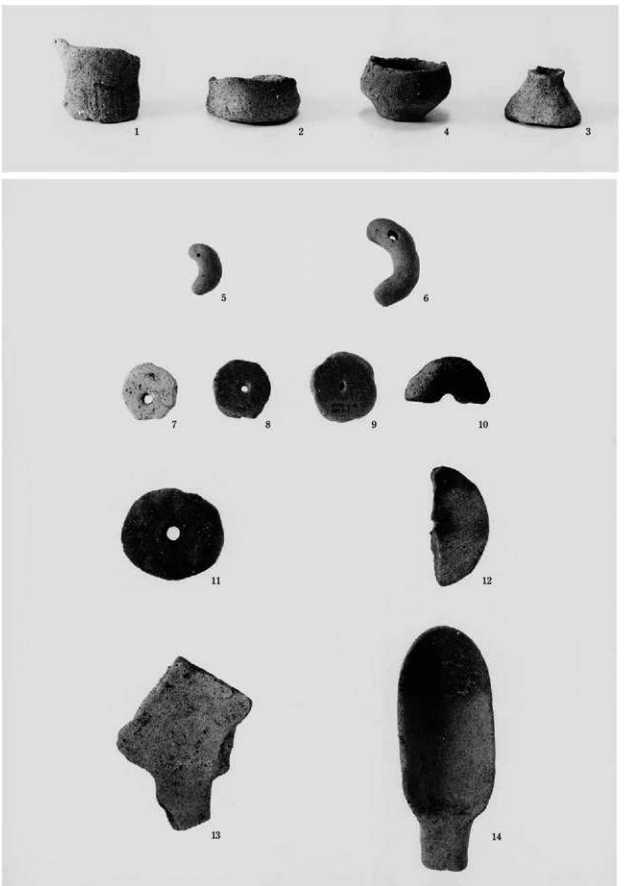


図88　出土土製品実測図（1：2）



出土土製品

第Ⅳ章　結　語

発掘調査の結果、弥生時代中期から奈良時代にかけて、竪穴住居跡49軒、掘立柱建物跡２棟、方形周溝墓２基、溝跡、土坑などを検出した。幅員約３ｍという限られた調査区のため遺構の全容を把握できたものは僅かだが、南北140ｍ、東西70ｍに及ぶ調査範囲全域に、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが密に分布している様が看取された。以下、各時期の様相について、周辺遺跡と併せて概観してみたい。

弥生時代中期

栗林式期の竪穴住居跡４軒を検出したが、何れも遺存状態が劣悪で詳細は不明である。該期の遺構は、調査区北側に近接する山二団地一期工事地点では未検出だが、北八幡川（現長沼排水路）を挟んで対岸に立地する宮西遺跡では竪穴住居跡３軒が確認されている。宮西遺跡は本内坐一元神社遺跡の一部と理解されるが、該期の集落構成は、住居跡が互いに間隔を置いて散在的に分布し、居住域を形成するものと想定される。

弥生時代後期

竪穴住居跡37軒、溝跡、土坑を検出した。住居跡は吉田式期に帰属する２軒を除き、箱清水式期に比定され、当該期において集落規模は飛躍的に拡大する。中期集落とは異なり、遺構分布は調査区ほぼ全域に拡がり、住居跡は幾重にも重複しながら構築される。一方で、山二団地一期工事地点や柳原市民体育館地点と同様、竪穴住居の主軸を北西方向に揃えるなど、集落構成に一定の規則性も認められる。また、柳原体育館地点で発掘された、環濠の延長が確認されるのではと期待したが、調査区内で検出することはできなかった。環濠集落の規模などは依然不明のままだが、既往の調査を踏まえ、環濠は山二団地一期工事地点と宮西遺跡の間を抜けて北八幡川に合流し、集落域を囲繞するものと推定される。今回調査を行った２地点は、山二団地一期工事地点とともに、環濠内の一部を構成するものと位置付けられる。

古墳時代前期

方形周溝墓２基が確認された。山二小島団地地点１号周溝墓は検出範囲が限られ全容は不明だが、ガーデンパーク小島地点１号周溝墓は「中央陸橋型」を呈し、宮西遺跡で発掘された前方後方形周溝墓との関連が想定される。柳原東西線地点でも前方後方形を含む周溝墓群が確認されているが、環濠内に造墓される当該地点検出の周溝墓と、環濠外に位置する柳原東西線地点及び宮西遺跡の周溝墓との相違については今後の課題となろう。なお、該期の竪穴住居跡は、山二団地一期工事地点検出の３軒を除いて確認されていないことから、弥生終末期に環濠が機能を失った後、居住域から墓域へと土地利用の転換が為されたものと推測される。

古墳時代中期

竪穴住居跡３軒と土器集中１箇所を検出したが、本遺跡を含む小島・柳原遺跡群でこれまで確認されていなかった、古墳時代中期の住居跡が検出されたことは特筆に値する。また、竪穴住居の埋土を利用し規則的に配列された土器集中は、周辺遺跡をみても類例がなく、遺構の性格などは今後の検討に委ねたい。

古墳時代後期

山二小島団地地点Ｂ区中央付近にて、竪穴住居跡１軒と掘立柱建物跡２棟が主軸を揃えるように隣接する。約350ｍ北側に位置する柳原小学校建設地点で竪穴住居跡が検出されているほかに、該期の遺構は確認されず、集落構成や規模などは明らかでない。

奈良時代

柳原東西線地点で竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が検出され、本遺跡において該期の集落跡が初めて確認されたが、今回の調査では溝跡数条を検出しただけで、居住の痕跡など確認することはできなかった。

報告書抄録

ふりがな	こじま・やなぎはらいせきぐん　みのちましまいちげんじんじゃいせき
書　名	小島・柳原遺跡群　水内坐一元神社遺跡
副書名	(株)山二小島団地二期工事地点・ガーデンパーク小島宅地造成地点
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財
シリーズ番号	第113集
編著者名	青木和明　　長瀬　出　　加藤拓也
編集機関	長野市教育委員会文化財課埋蔵文化財センター
所在地	〒381-2212　長野県長野市小島田町1414番地　TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106
発行年月日	2006（平成18）年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
水内坐一元神社遺跡	長野県長野市大字小島字関田畑南481-1他	20201	B－003	36° 39′ 42″	138° 15′ 18″	2005.4.4 ～ 2005.6.20	1,040㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項
水内坐一元神社遺跡	集落	弥生時代	（中期）	竪穴住居　4軒	栗林式土器	
			（後期）	竪穴住居　37軒	吉田式土器・箱清水式土器・石器	
		古墳時代	（前期）	方形周溝墓　2基	土師器	
			（中期）	竪穴住居　4軒 土器集中	土師器	該期の竪穴住居として本遺跡で初の確認例
			（後期）	竪穴住居　1軒 掘立柱建物　2棟	土師器	
		奈良時代		溝	土師器・須恵器	

要約

水内坐一元神社遺跡は、千曲川左岸の自然堤防上に立地する集落遺跡である。弥生時代中期から奈良・平安時代に渡る遺構・遺物が確認されているが、特に弥生時代後期を中心時期とし、調査区全域にわたって竪穴住居跡が密に分布する。既往の調査で確認された環濠集落の一部を構成するものと考えられる。また、古墳時代中期の竪穴住居跡などが確認されているが、これまで隣接地域を含めて不明瞭であった該期の様相を解明する上で良好な資料といえる。

長野市の埋蔵文化財第113集

小島・柳原遺跡群

水内坐一元神社遺跡 (4)

平成18年3月27日　印刷
平成18年3月31日　発行

編　集　長野市教育委員会
発　行　文化財課埋蔵文化財センター
印　刷　(有)三成社印刷所